

エコチル調査 PDCA 取組

事例集

令和 3 年 7 月

環境省環境リスク評価室

本事例集について

日頃よりユニットセンターの皆様にはエコチル調査にご尽力いただき感謝申し上げます。

本事例集は、各ユニットセンターにおいてエコチル調査の年次評価に向けた自己点検の一環としてまとめていただいた「エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況」（以下、「エコチル調査 PDCA 取組状況」という。）における具体的な取組に関する情報を整理したものです。PDCA に関する優良な取組やノウハウの共有についてはエコチル調査企画評価委員会でもご指摘いただいているところであり、これらをユニットセンター間で横展開することにより、調査現場における様々な課題の解決を支援することをねらいとしています。ユニットセンターのスタッフの皆様が、質問票担当、広報コミュニケーション担当など、その役割や関心に応じて参考となるところをまとめて読めるよう、様々な取組事例を分類し、整理しました。エコチル調査をより効果的・効率的に進めていくに当たり、本事例集をご活用いただけますと幸いです。

(1) 事例抽出の考え方

本事例集の具体的事例は、令和 2 年度の「エコチル調査 PDCA 取組状況」から、「向上した」、「好評であった」、「～であることがわかった」などの何らかの「向上／効果があった」と自己評価された取組を抽出しています。

各ユニットセンターの評価時点で未実施のもの、中止されたイベントなどは抽出していません。

なお、年次評価では、PDCA の取組にすぐれているユニットセンターを互選していますが、その理由の中で特に取り上げられた取組には、参考としてその旨を示しています。

(2) 事例分類の考え方

事例は、「エコチル調査 PDCA 取組状況」の記載内容をもとに、大きく次の 5 つに分類しました。

大分類
(1) 参加者コミュニケーション
(2) 質問票回収
(3) 学童期検査・詳細調査
(4) 研究・成果発表
(5) 新型コロナ感染予防、その他全般的工夫

また、スタッフが参考となる取組をより見つけやすいよう、「取組の特徴」や「媒体・イベント」を細分類し、事例一覧（iii～x ページ）の該当する事例に「○」を付けました。

取組の特徴	媒体・イベント
・コンテンツの工夫 ・成果の還元方法の工夫 ・地域関係機関等との連携 ・実施方法の見直し・追加 ・研修・勉強会の開催	・ニューズレター ・冊子等紙媒体 ・ホームページ・SNS 等 ・動画 ・イベント・オンラインセミナー（リアルタ

・その他	イムの双方向体験となるもの) ・ノベルティ ・その他
------	----------------------------------

さらに、その取組によって「期待される効果」を、事例一覧に「○」で示しました。

期待される効果
・質問票等回収率の向上 ・参加意識の維持・向上 ・理解促進 ・認知度向上 ・業務の効率化 ・研究の加速化・円滑化・質の担保 ・新型コロナ感染予防等 ・情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化 ・その他

(3) 本事例集の使い方

使い方①

事例一覧にある「具体的事例」欄をお読みいただき、参考となる取組をさがしてください。参考としたい取組が見つかったら、事例集本編に掲載された詳細な内容をご覧ください。事例集本編の掲載ページを事例一覧にお示ししています。

使い方②

事例一覧の「取組の特徴」「媒体・イベント」「期待される効果」の各欄を見て、参考としたい取組に関連した項目に○が付いている事例をさがしてください。（以降の使い方は、使い方①と同じ）

（例）ニューズレターを活用して効果的に参加者に論文の内容を伝えたい

→「媒体・イベント」欄の「ニューズレター」、「期待される効果」欄の「理解促進」に○が付いている事例を抽出（計5件該当）

使い方③

本事例集とともにお送りしたエクセルファイル「エコチル調査 PDCA 事例集エクセル版」をご活用ください。

事例一覧から、エクセルのフィルタリング機能を用いて、「大分類」「取組の特徴」「媒体・イベント」「期待される効果」でフィルタをかけて、事例を絞り込みます。事例の詳細は事例集本編をご覧ください。

事例一覧

- ＊「具体的事例」欄は、「令和２年度 エコチル調査に係る業務全般に関する PDCA サイクルにおける取組状況」による。
（C）評価欄または（A）改善欄に何らかの「向上／効果があった」と自己評価された取組から具体的事例を抽出した。
- ＊「掲載ページ」欄は、該当の事例が掲載されている事例集本編のページを指す。
- ＊「取組の特徴」欄の「研修・勉強会の開催」は、エコチル調査関係者向けのもので、一般や参加者を対象としたものは含まない。
- ＊「分類：媒体・イベント」欄の「イベント・オンラインセミナー」は、開催方法（対面またはオンラインなど）に関わらずリアルタイムの双方向体験となるもの。
- ＊「期待される効果」欄の「「新型コロナ感染予防等」は、「参加児の心のケア」などをねらいとした取組を含む。
- ＊「参考 特に優れた取組(年次評価より)」欄は、令和２年度年次評価のユニットセンター互選時において、「評価した理由」の中で特に取り上げられた事例であることを示す。

(1) 参加者コミュニケーションの取組

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナ感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
外部専門家の協力を得て、対象年齢に合った難易度や幅広い科目を盛り込んだ参加児用小冊子を作成	北海道	1	○			○				○							○	○							●
クイズへの回答とともにニューズレターの感想を送ってくれた全員にプレゼント送付	北海道	1				○								○			○								
参加児の成長を実感できるよう、0～2歳と現在(6～9歳)で同じ構図で撮影した成長写真を募集、ニューズレターおよびホームページで紹介	北海道	1	○						○		○						○								●
イベント参加希望者に幅広く参加機会を提供するため、イベントの応募者・当落状況をまとめたデータベースを作成	北海道	1				○											○			○					
論文概要を参加者向けにわかりやすく書き下ろしてニューズレターに掲載	北海道	1	○	○					○									○							●
ニューズレターに成果報告のページを設け、論文の概要を報告	宮城	5	○	○					○									○							
詳細調査の対象者に、何を調べているかを説明する「しょうさいだより」を発行	宮城	5	○			○				○								○							
少人数を対象としたセミナーが好評なことを踏まえ、オンラインセミナーを開催	宮城	5	○										○					○				○			
ホームページのリニューアルによる学術成果へのアクセス向上	福島	9	○	○							○						○	○							●
WEBを通じたグループワーク形式の環境セミナーや親子で楽しめる動画配信の実施	福島	9	○			○						○	○				○	○				○			●
ニューズレターに調査の内容と意義を伝えるマンガを掲載	千葉	5	○						○								○	○							
ニューズレター発送時に子ども向け冊子を送付・配布	千葉	5	○			○				○							○	○							

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナ感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
ニューズレターやホームページで返却された結果の見方を解説	千葉	5	○	○					○		○						○	○							
動画配信による参加者参加型のイベントを実施	千葉	5	○			○						○	○				○					○			
地域の小中学生の認知度向上のため、小中学校にエコチル調査のちらしを配布	神奈川	22			○	○				○								○	○						
地域における認知度向上のため病院にカレンダーを掲示	神奈川	22			○	○				○									○						
親子でエコチル調査について話し合う機会を持っていただくよう、子ども向けにエコチル調査の概要をまとめたアセント補助資料と学童期検査の内容を紹介するパンフレットを送付	甲信・山梨	25	○			○				○							○	○							●
ニューズレターにおいて子どもの読者を確保するため、子どもたち自身が学んだり体験したりする機会を定期的に提供し、その様子をニューズレターに掲載	甲信・山梨	25	○			○			○				○				○								●
多角的にメディア事業を実施している県内企業と連携し、テレビ番組の制作・放映、新聞への記事体広告の掲載等、パブリシティ活動を展開	甲信・山梨	25	○		○	○						○			○		○	○	○						
ニューズレターの見直しに当たり、母親向け情報誌のデザインを参照	富山	61	○						○								○								
検索エンジンによってホームページの成果発表にたどり着いた閲覧者が他の記事にもアクセスするよう、成果発表コーナーをキーワード別に読めるレイアウトに変更	富山	61	○								○							○	○						
ニューズレターで新型コロナウイルス感染症予防の特集を組み、県内でテレビ露出が多い学内の教員に原稿を依頼	富山	61	○						○								○					○			●
参加児によるイラストの収集を写メールからハガキによる返送に変更	富山	61	○			○							○				○								
研究成果の中から参加者自身の行動変容でリスクを低減できる身近な題材を選び、ひと目で理解できるような資料を作成して質問票の返送依頼に同梱	京都	71	○	○		○											○	○							
web を利用して、参加者と調査が感染リスクなく双方向コミュニケーションを取れるイベント（エコチル展覧会）を開催	京都	71	○			○							○				○					○			
地域運営協議会に参加者を招き、活動や成果について参加者の意見を聴取	京都	71				○												○							
メールマガジンで、健康や子育て、環境問題や公衆衛生に関する情報を定期的（概ね隔週）に発信	京都	71	○												○		○	○							
参加者が学童期検査の実施／中断、質問票や謝金の発送／中断等をホームページ上で常時閲覧可能なように情報発信	京都	71	○								○						○								
ホームページにこれまでにUCから発表された論文11件の概要を掲載、リスクコミュニケーションの観点から解釈を追加	大阪	5	○	○							○							○							●
5歳半時点の質問票回収率が80%に達するよう、5歳半の参加者全員に保護者向けノベルティ（エコバッグ）を配布	大阪	5				○								○		○	○								
親子で子どもの気持ちを共有できるよう、子どもの気持ちを「ぬりえ」に書ける「ぬりえ STAY HOME」をニューズレターに同封	兵庫	80	○						○	○							○								
参加者および一般市民へのわかりやすい成果還元のため、コラムを地域新聞社の子育て応援Webサイトに掲載し、そのリンクを会報誌・SNS・運営協議会などで周知	高知	87	○	○	○				○	○	○						○	○	○						●

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナウイルス感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
集計グラフを載せたポスターを作成し、県内の行政、教育機関、銀行やスーパー、一般企業へ広く配布	高知	87	○	○						○								○	○						●
郵送による参加者コミュニケーションはコストと手間が課題であるため、積極的にSNSやホームページを活用し、迅速に情報を発信	高知	87				○					○						○								●
学童期検査やイベント会場で、SNS周知のチラシを配布	高知	87				○				○	○						○		○						
検査会場で撮影した参加児の記念写真（希望者）をSNSに掲載して、参加者のフォロワー数を増加	高知	87				○					○						○								
参加者が使いやすいよう、（ノベルティである）プラネタリウムの年間パスポートを引換券に変更	高知	87	○											○			○								●
学童期検査会場にて、参加者のニーズや調査への期待に関するアンケート調査を実施	高知	87				○											○								
御礼発送時にメッセージカードを貼付し、返送依頼を経て返してくれた方や久しぶりに返してくれた方には個別にメッセージを追加	産医大	93				○										○	○								
就学前健診時にお祝い鉛筆と調査紹介チラシを配布	産医大	93			○	○				○				○					○						
参加者の継続意欲向上および一般の方への認知度向上のため、小学校および学童保育クラブ、産婦人科、小児科へのポスター掲示	産医大	93			○	○				○							○		○						
市の環境局とコラボレーションを行って広報用オリジナルクリアファイル、インフォームドアセント用絵本等を作成し、参加者に市と協力体制にあることをPR	産医大	93	○		○	○				○				○			○		○						
市にゆかりのある著名人等にサポーターの登録を呼びかけ、応援メッセージをいただき、ニューズレターやホームページで紹介	産医大	93				○			○		○								○						
子ども向け絵本や環境問題も絡めた動画を作成し、小学校での環境教育や社会科見学の時期をふまえ、上の学年から順次参加児に配布	産医大	93				○				○		○					○	○							
就学前健診時にお祝い鉛筆と調査紹介チラシを配布	九州大	97			○	○				○				○					○						
参加児による塗り絵の返送方法に郵送を追加し、返送数を確保	宮崎大	105				○				○							○								
遠方の人でも参加できるようWEBで英会話教室を実施し、イベントの参加機会を公平化	宮崎大	105	○										○				○					○			
イベントを中止する代わりに、参加者がスマートフォン等で簡単に投稿できるオンラインイベントを実施	琉球大	109	○										○				○					○			
サブユニットセンター休業の目安等を記載した文書とともに、新型コロナウイルスから子どもの心を守ることをテーマとしたWHOの冊子を保護者へ送付	琉球大	109								○							○					○			

(2) 質問票回収の取組

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナウイルス感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
質問票返送依頼ハガキを手にとってもらえるよう型抜きハガキを作成	北海道	1	○													○									●
昨年度の質問票返送依頼の結果を比較し、それに基づき1度目の返送依頼を発送後6～8週目に行い、質問票のコピーを送付、また質問票のコピーである旨を表紙に記載	宮城	5				○										○									
1回目、2回目の返送依頼時期を早め、3回目には質問票を再送	福島	9				○										○									●
乳歯調査の協力意思確認ハガキの未返送者全員へ、返送依頼ハガキを郵送	福島	9				○										○									
ニューズレターで乳歯調査のリマインド	千葉	18				○			○							○				○					
学童期検査の参加者へ乳歯調査を案内	千葉	18				○										○				○					
身長・体重を記録する欄のあるカレンダーの作成・配布	千葉	18	○							○						○									
学校保健記録を転記していただくため、記録が学校から家庭に届く年末にショートメールを一斉送信	千葉	18				○										○				○					
協力依頼状の内容は変えずに、「届いてから2週間を目安にご回答いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください」という一文にのみ、黄色のマーカで強調して送付	甲信・信州	52	○													○				○					●
質問票の返送があったが過去に送付済み質問票で未提出のものがある参加者に対し、電話・ショートメール・型抜きハガキを用いて、緩やかなリマインドを実施	愛知	66				○										○									
質問票を全て返送した参加者にオリジナルグッズを送付	京都	71				○								○		○									
質問票回答にかかる概ねの時間が分かるようなメッセージやプレゼントのお知らせを、質問票の送付用封筒にラベル貼付	京都	71	○													○									
質問票の返送に対する礼状や再依頼等を一部手書きにし、ユーモラスなイラストを添える等、参加者の負担感を軽減	京都	71				○										○									
質問票とお誕生日プレゼントを同封	大阪	5				○								○		○									
5歳質問票提出者のうち、5歳半質問票が未提出の人に質問票を再送付	大阪	5				○										○									●
Webサイトにセンター長のメッセージを掲載し、質問票発送時にもメッセージ文書をその都度作成して同封	兵庫	80				○					○					○									
未提出者へプレゼントキャンペーンの周知文と共に質問票を再送付	鳥取	84				○										○									
学童期検査時に直接質問票を手渡し、待ち時間に記入を依頼	鳥取	84				○										○				○					
質問票返送依頼をショートメールのみとし電話・はがきを省略	鳥取	84				○														○					
アンケート結果とレジ袋有料化のタイミングを考慮して、送付グッズ(トートバッグ)を選定	高知	87				○								○		○									
通知表の保管と測定記録を促進を目的としたオリジナルファイルをプレゼント	高知	87	○											○		○									●

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナウイルス感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
学童期検査会場で未回収の8歳質問票を配布・回収	高知	87				○										○				○					
質問票発送時に必須項目の記入例を該当ページに貼付	産医大	93				○										○									
これまでの質問票返送状況を参加者毎に1枚のハガキにまとめ、参加者自身で自分がどの質問票が未返送か、確認できるように工夫	産医大	93				○										○									
質問票発送から4か月後に質問票を再送付	九州大	97				○										○									
「ご記入いただくページが少ない質問票です」の旨を質問票の封筒に明示	九州大	97	○													○									
記念品（謝礼とは別）を質問票とともに送付	宮崎大	109				○								○		○									
一時的に調査協力を保留（お休み）している参加者に対し、再開の可否を確認する文書を定期的に送付	宮崎大	109				○										○									
返送用封筒裏面にチェック項目のリストを貼付	宮崎大	109	○																	○					
メール、電話、ハガキ等による返送依頼を行った後も質問票の返送がない参加者に対し、該当する質問票を再送	琉球大	109				○										○									
就学時健診時に、質問票や乳歯調査協力ハガキ未返送者に対し返送を依頼	琉球大	109				○										○				○					
質問票発送20日前に事前案内通知とオリジナルグッズを発送	琉球大	109				○								○		○									

(3) 学童期検査・詳細検査への取組

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナウイルス感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
学童期検査で遠方を理由に不参加を表明した参加者がいたため、検査会場を居住地近隣に設定	宮城	5				○											○								
外部委託業者スタッフを対象に、個別に測定機器を経験してもらう追加研修を実施	福島	9					○													○				○	●
医学的検査時に、リサーチコーディネーターが検査の目的や調査で分かることを紙芝居を用いて参加児一人ひとりに説明	福島	9	○							○							○	○							
学童期検査案内時に、調査の内容と意義を伝える子ども向けのマンガを配布	千葉	18	○							○							○	○							
居住地が大学から離れている参加者が多いため、検査会場を居住地付近に設定	千葉	18				○											○								
検査会場を感染症指定病院から閉院したクリニック等へ変更	京都	71				○											○								
検査前日に予約者全員にショートメールでリマインドを送信	大阪	5				○											○			○					
結果返却が好評であったため、学童期検査のCATの待ち時間を利用して、母親の骨密度測定と子どもの握力測定を増やし、他の検査結果と共に返却	高知	87				○											○								
学童期検査は「検査島」に見立てた会場を、探検隊として検査項目ごとにオリジナルキャラクターのシールをもらってゴールするスタンプラリー方式で実施、宝物のコインでガチャガチャの景品を手に入れ、最後に顔出しパネル写真のプレゼントなど子どもが楽しめるよう工夫	高知	87	○											○			○	○							●
ハガキでの検査予約は後に電話連絡を要するため、検査予約をWeb、電話のみに変更	高知	87				○														○					

(4) 研究・成果発表

具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
			コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナウイルス感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	特に優れた取組（年次評価より）
学内研究者の学術活動促進を目的に、毎月の学内メールマガジンで情報発信	福島	9	○												○			○			○				●
毎月、学術ワーキンググループ勉強会を開催して研究者を支援	福島	9					○											○			○				●
研究体制を強化・充実させるため、研究・解析を担当する特任講師を雇用したほか、特任助教を成果発表に関する事務手続きや情報管理の担当として新たに配置	甲信・山梨	25						○													○				●
毎週1回研究相談会を開催し、それぞれが取り組んでいる研究の進捗状況を発表し、情報共有や意見交換を実施	甲信・山梨	25					○														○				●
学童期検査の追加調査として実施している総合健診に参加している学内教員らの研究活動を支援する勉強会を定期的に開催	甲信・山梨	25					○														○				●
誌上発表と学会発表それぞれにステータス表を作成し、ルール通りの手順を踏んで進められているかを視覚的に確認・共有	甲信・山梨	25						○													○				
新たに研究推進を主業務とする副センター長を配置し、2週間に1度研究ミーティングを開催し、特任教員・研究員は、センター長・研究推進副センター長の助言を受けながら、研究テーマの設定や解析方針、進捗等について報告・ディスカッションを実施	愛知	66					○														○				●
研究への市民参加（PPI：Patient and Public Involvement）の観点から、調査地域に在住する市民の研究に対する興味・関心を簡易的なアンケート調査により把握	愛知	66				○											○	○							●
エコチル調査の全固定データを用いた論文から、アンケート調査で関心の高かった研究領域の論文を選定、論文サマリーを作成	愛知	66					○														○				●
成果発表促進の定例研究会をオンラインで毎月1回継続実施	大阪	5					○														○				
乳幼児健診登録医療機関の研修会にてエコチル調査紹介の講演を行い、小児科医に最近の論文結果を紹介	産医大	93						○										○	○						

(5) 新型コロナ感染予防、その他全般的工夫

大分類	具体的事例	実施UC	掲載ページ	取組の特徴						媒体・イベント						期待される効果										参考
				コンテンツの工夫	成果の還元方法の工夫	地域関係機関等との連携	実施方法の見直し・追加	研修・勉強会の開催	その他	ニューズレター	冊子等紙媒体	ホームページ・SNS等	動画	イベント・オンラインセミナー	ノベルティ	その他	質問票等回収率の向上	参加意識の維持・向上	理解促進	認知度向上	業務の効率化	研究の加速化・円滑化・質の担保	新型コロナ感染予防等	情報セキュリティ・個人情報保護体制の強化	その他	
新型コロナ感染予防	感染症専門スタッフからの助言を受けながら、新型コロナウイルス感染症対策マニュアルを作成	福島	9				○															○				
新型コロナ感染予防	参加者が密にならない方法を工夫した、わかりやすい新型コロナ感染対策マニュアルを作成	甲信・山梨	25				○															○				●
新型コロナ感染予防	新型コロナ感染に関する情報をWebに掲載し、「QRコード」を質問票発送時に参加者に発信	兵庫	80				○				○											○				
新型コロナ感染予防	スタッフ全員が参加して感染防止対策の研修会を数回に渡り開催し、基礎的知識を取得するとともに、調査実施体制の大幅な見直しを実施	産医大	93					○														○				
新型コロナ感染予防	サブユニットセンター独自にマニュアルを作成し、参加者には事前に電話で体調や持病の確認を実施	産医大	93				○															○				
新型コロナ感染予防	『消毒済』を部屋に掲示し、アルコール消毒を参加者の目前で実施	九州大	97				○															○				
新型コロナ感染予防	対面調査（医学的検査・学童期検査）実施のためのガイドラインを策定。スタッフおよび参加者（子ども・保護者）の体調管理基準および記録用のシートを作成し、調査2週間前から当日までの体調確認を実施。また、県外移動、県外者との接触履歴を確認	宮崎大	105				○															○				
新型コロナ感染予防	専門のスタッフによる、感染症の基礎知識、予防対策、配慮を要するお子さんへの対応をテーマにした研修を実施	宮崎大	105					○														○				
その他、全般的工夫	地域運営協議会のオンライン運営を専門業者に委託	宮城	5				○													○		○				
その他、全般的工夫	コアセンター支給の仮想デスクトップを利用し、よりセキュリティの高い参加者リスト管理を実施	高知	87						○														○			
その他、全般的工夫	災害対策マニュアルを作成	熊本大	101						○															○		●

【北海道ユニットセンター】

(P) 計画 (D) 実施	<u>ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組、</u> <u>イ コミュニケーション活動に対しての取組</u> 目標：保護者に加え、参加児本人の調査参加モチベーションを向上させることで、今年度のみならず来年度以降も見据えた質問票回収率および対面調査同意率の上昇につなげる。 ①参加児用小冊子「エゾチル通信ミニ」の充実： 2月に発行した広報誌「エゾチル通信」と合わせて制作した参加児向けの小冊子「エゾチル通信ミニ」のクイズの応募や工作の投稿が前号(2019年8月)と比べて急増し(47件⇒121件)、追加の小冊子制作の要望が多く寄せられた。北海道では2月末～6月中旬までの長期休園・休校と、その後もクラブ活動や外出自粛のため在宅時間が増加したことによるものと思われた。そのため、8月発行のエゾチル通信ミニでは専門家(塾講師)が参画して内容の充実と増ページを図り、参加児の対象年齢に合った難易度や幅広い科目にわたること等を念頭に、クイズ、工作のオリジナル問題を制作した。また、クイズへの回答とともに通信の感想を送ってくれた参加児へはプレゼントを用意することで、回答数とともに次号以降の通信作成に生かすための読者感想収集数増加をねらった。プレゼントには、学校生活で使うものを中心に「縄跳び」「ナップサック」などを用意した。 ②参加児に調査参加期間の長さで成長を感じてもらおう「同じ構図でハイチーズ」： 調査開始から10年目を迎える今年度の企画として、0～2歳と現在(6～9歳)で同じ構図で撮影した参加児の成長写真を募集した。 <u>ウ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> 質問票に未返送者に送る「質問票の返送依頼ハガキ」について、目立って手にとってもらえるよう、北海道ユニットセンターのキャラクター「エゾチルくん」の形をしたハガキを送付した(別添資料図1)。情報誌やWebサイトなどで質問票の提出を継続的にお願いするとともに、謝礼の電子マネー(nanaco)の詳しい説明を記載した。学童期対面調査が再開された際、参加者に直近の質問票の記入または、自宅に持ち帰り記入を声掛けした。 <u>エ アウトリーチ、その他</u> 目標：参加者および市民への調査結果還元を実施し、疫学研究の裾野を広げ、今後のエコチル調査実施の基盤をつくる。 「エゾチル通信」での論文 One page summary 開始： 調査参加者が論文そのものを読む機会はほとんどないと思われたことから、北海道ユニットセンターが筆頭著者となったエコチル調査関連論文の概要を、著者が参加者向けにわかりやすく書き下ろしてエゾチル通信に掲載した。調査
--------------------------	--

	から得られた成果を参加者へ理解してもらうとともに、調査参加を継続するモチベーションに繋げることをねらいとした。
(C) 評価	<u>ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組、</u> <u>イ コミュニケーション活動に対しての取組</u> ①参加児用小冊子「エゾチル通信ミニ」の充実： 8月発行の「エゾチル通信ミニ」に対するクイズ回答などの応募は153件で、前号121件より32件多くなった。新型コロナウイルス感染拡大による在宅時間の延長に加え、回答者全員へのプレゼントが応募のきっかけとなり、応募数の増加につながったと考えられる。回答と一緒に収集した感想には「通信・通信ミニは親子のコミュニケーションに役立つ」「大人も考え込んでしまう問題もあり家族皆で楽しんだ」「知育感がある」「地図の問題では地図の見方を教えるきっかけになった」など、親子でチャレンジした感想がこれまでより多く寄せられ、専門家（塾講師）の参画の効果が十分に伺えた。通信への感想に加え、「調査票への回答をすることで、子育ての振り返りができる」といった保護者からの調査全体に関する感想と、参加児からの「調査票が来るたびに自分が大きくなっていることがわかる」との感想も多くあり、保護者だけでなく参加児のモチベーション維持にも役立っていると思われた。好意的な感想が多かった一方、「クイズが簡単すぎた/難しすぎた」という難易度についての不満も見受けられた。 ②参加児に調査参加期間の長さで成長を感じてもらおう「同じ構図でハイチーズ」： 道外居住者6件を含め40件の応募があった。写真はエゾチル通信紙面およびホームページ内の「写真館」で紹介し、参加児の成長を参加者・スタッフともに実感できる機会となった。 【①②の評価を受けて】 これまで北海道ユニットセンターでは対面式のイベントに力を入れてきており、参加希望者に幅広い参加機会の提供を行うため、過去の全イベントの応募者・当落状況をまとめたデータベースを作成している。（のべ応募人数は約1600人）。これにより、イベント参加者が特定の個人に偏ることなく、より多くの参加者に広く参加機会を提供してきた一方、特に人気の高い「写真撮影会（プロカメラマンによるロケーション撮影を行い、写真をエゾチル通信にのせるとともに参加者へ額に入れてプレゼントする企画。札幌、旭川、北見の各地区1回開催）」や「野菜収穫イベント」では応募数が多く、毎年開催してもなかなか希望者全員を招待することができなかった。加えて、遠隔地に転居した参加者へのイベント提供機会はなかった。投稿型やオンラインのコンテンツには、従来の対面式イベントには人数・地域を問わず希望者全員の参加が容易であることがわかった。

	ウ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 生後6か月から小学校2年生学年別質問票までの質問票の返送依頼前回収率は平均60.3%であったが、ハガキ送付により回収率が平均21.3%増加し、質問票の返送依頼の効果が認められた。発送6か月後の回収率は平均82.3%で、全国平均の82.1%を上回った。しかし、7歳質問票は全国平均より-1.8%、小学校1年生は-1.6%、回収率が低く、改善が必要であると考えられた。 エ アウトリーチ、その他 「エゾチル通信」での論文 One page summary 開始： 8月発行のエゾチル通信に掲載した。「論文内容が身近な話題であることがわかった」「子どもも読みやすかった」等の好意的な感想が多かった。その上で「他の論文もたくさん読みたい」「講演会にはこれまで行けなかったのよかった」「質問コーナーもほしい」の要望に応えるため、Webでの提供を実施することとした。
(A) 改善	ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組、 イ コミュニケーション活動に対しての取組、 エ アウトリーチ、その他 A 参加者限定 Web サイトの提供とホームページの刷新： 当面の間は実施困難な対面型イベントの代わりに、北海道ユニットセンターホームページ内に参加者限定の Web サイト「エゾチルランド」の開設を企画した(別添資料図2、12月オープン予定)。来年度には参加者全員が小学生になることから、過去のイベントで人気があった料理・工作教室などの動画とともに教育的要素も盛り込み、小学校で新たに必修化されたプログラミングやダンスの動画を提供する。また、研究者が参加者・市民向けに研究内容をわかりやすく紹介するレクチャー動画講座シリーズの制作を行う。毎年実施していた市民講演会では、日程の都合が合わない、小さい子どもがいて出かけるのが難しい、会場まで遠いなどの理由で参加が困難であった参加者・市民も、オンラインでは参加が可能となることで、会場開催より多くの参加(視聴)が見込まれる。アクセス数の解析で参加者の関心の傾向を把握し、次回以降のコンテンツ作成に生かすことができる。合わせて、多くの参加者がパソコンではなくスマートフォンからホームページを閲覧するという解析から、ホームページデザインを改修してスマートフォン対応を実施する。 B 参加児用小冊子「エゾチル通信ミニ」の充実： 「エゾチル通信ミニ」のクイズや工作をもっとやりたいとの感想も多かったため、今後は小冊子と連動する形でAの「エゾチルランド」内に「Web版ミニ」を制作して定期的にクイズや工作を更新し、手軽に自宅でダウンロードして楽しめる機会を提供する。4学年(年長～小学3年生)全員に対して適切な難易度を

	設定することは難しいが、Web では多彩な難易度を提供できる。参加児が「ミニ」を通してエコチル調査に触れる機会を増やしたい。 ウ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 2020 年度は新型コロナウイルス流行による緊急事態宣言中は質問票の投函のための外出を促すことを避け、生活の変化や学校休校など、参加者に過度プレッシャーにならないように、架電による質問票の返送依頼は実施しなかった。北海道札幌では 11 月から気温低下とともに新型コロナウイルス感染者数の増加が問題となっており、参加者の心理的負担に配慮しながら、7 歳質問票の回収率向上を図りたい。過去の提出率が高い参加者には、負担にならない程度に架電を行う予定である。しかし、過度の質問票の返送依頼は参加者のモチベーションを下げることもあり、参加者が快く質問票を提出してくれるような働きかけを行いたい。
--	---

【別添資料】

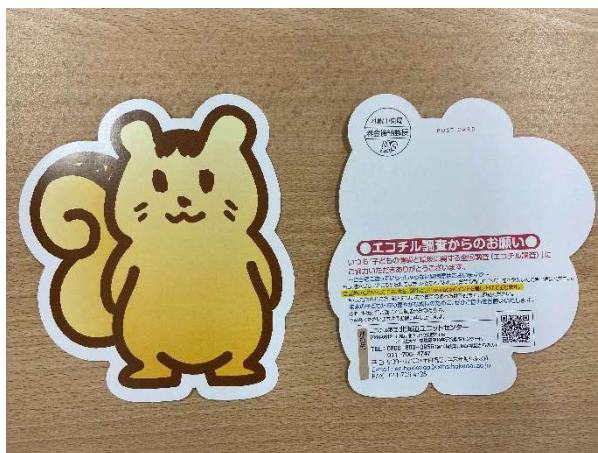


図 1：北海道ユニットセンターキャラクター「エゾチルくん」を形どった質問票返送依頼ハガキ



図 2：北海道ユニットセンターWeb コンテンツページ「エゾチルランド」

【宮城ユニットセンター】

(P) 計画 (D) 実施	<u>ア) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 参加者が調査に参加している意味や意義を感じるためには、研究成果の報告であると考えた。さらに、近年では発表されている論文数も増えていることから、成果の報告に注力した。 - 対象者全員に送付している MUC だよりというニューズレターに、成果報告のページを設け、エコチル調査から発表された論文の概要を報告するという取り組みを行う。 - さらに、詳細調査の対象者に向けて何を調べるために検査を実施しているのか、などを説明するしょうさいだよりを発行する。 質問票に対象者よりコメントをいただくことがあり、それについても一つ一つスタッフ手書きでコメントを書くことにした。 - 対象者から質問票と一緒にコメントが届くことがある。これまでは特に対応しないこともあったが、今年度は、すべてに対応することにした。 対象者ファーストで検査を行うことを念頭に置き、学童期検査の会場が遠いことが多く、対象者の利便性を考えた検査会場の設置を心がけることとした。 - 昨年度までサブセンターのない登米市に学童期検査会場を設置した。その結果、登米サブセンターでの調査参加意思表示は、52.9%と高い水準であった。(COVID-19 感染拡大防止のため調査が中止となったため、最終的な参加率は 49.0%であった。) そこで、今年度もその事務所を常設することとした。 - 検査会場である東北大学まで公共交通機関または車でも 1 時間程度かかる岩沼市、亘理町、山元町などの地域では、2019 年度には案内発送者 165 名の内、32 名が遠方を理由に不参加の意思を表明した。(参加率 32.7%) そのため、臨時の検査会場を岩沼市に設置し、不参加を表明した参加者、意思表示がなかった参加者 85 名に案内状の再送を行ったところ、34 名から参加希望があった。その内、19 名は遠方を理由に不参加を表明した参加者であった。そのため、今年度は 3 市町の間位置する亘理町に定期的に学童期検査会場を設置することとした。 <u>イ) 質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> 当ユニットセンターでは、年齢質問票と学年質問票の返送依頼方法を変えて実施している。 年齢質問票は、発送 4 週間、7 週間後にショートメール、9 週間後にハガキを発送し、返送依頼を行っているが、学年質問票については、年齢質問票と発送時期が重なる対象者に対し複数回の返送依頼が届き、混乱させる可能性がある判断し、ショートメールでの返送依頼は実施していない。昨年度、発送 4
--------------------------	--

週間後にハガキにて返送依頼を行い、12週間後にハガキでの返送依頼を行う群と質問票コピーを再送することで返送依頼を行う群に分けて、どちらが効果的か検討を行った。その結果、小学1年生質問票、小学2年生質問票ともにハガキを送った群と比較し、質問票のコピーを再送した群の回収率が良いことがわかった。(表1)

表1 質問票返送依頼比較

質問票種類	返送依頼方法	対象者数	返送数	回収率
小学1年生	ハガキ	485	61	12.58%
	質問票再送	485	109	22.47%
小学2年生	ハガキ	181	14	7.73%
	質問票再送	366	75	20.49%

このため、今年度は1度目の返送依頼から質問票のコピーを再送することとした。返送依頼のタイミングについては、発送後6～8週目に行うこととし、質問票のコピーであることがわかるように表紙に記載を行った。

ウ) コミュニケーション活動に対しての取組

参加者広報誌について、冊子体に変更した一昨年度より子ども向けページを作成し、子どもにもエコチル調査を理解してもらえるよう工夫を行っている。まだ未就学児も含まれることから、難しい内容ではないものの、子どもも楽しめるように子ども専用の冊子体を作成している。

エ) アウトリーチ

当ユニットでは、例年少年人数を対象としたセミナーを各地で開催し、好評を得ている。今年度については、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、対面ではなくオンラインセミナーにて、「治療薬や予防薬の開発にはボランティアの協力が必要です！～この時期に知りたい新薬候補が使えるようになるまでの流れ～」をテーマとして実施予定である。現在の予定では12月に実施する。

(C) 評価

ア) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組

成果の報告については、大変好評であり、面白かったというメールや、調査の時に「私は●●」のことを初めて知りました、など意見をもらうことがあった。実際に質問票の回収率や調査へのモチベーションが向上したかを測ることはできないものの、対象者からの反応から意味があるものだったと考えている。

質問票に対するコメントや意見については、対象者との双方向のやりとりにつながっていると感じられることが多かった。

質問項目に関する問い合わせ(例えば、旦那はタバコを吸っていないと思っていたが、実は私に隠れてタバコを吸っていることがわかりました。これまで

	の質問票では受動喫煙はないと回答しておりました。) や、お子さんの発達を心配する相談（発達がゆっくりな気がしているなど）が複数件確認された。心理士より電話をかけて状況を聞きコメントしたり、スタッフ手書きのお手紙を謝礼と一緒に送付するなど行った。 亘理町に調査会場の設置を行ったことにより、昨年度の東北大学のみを案内していた参加率と比較し、8.6%の上昇がみられた。実際に参加した保護者からも距離が近く参加しやすかったとの感想をいただいた。近隣に調査会場を設置することにより調査参加することにつながり、参加することでさらなるモチベーションの維持につながると考えられる。今年度についても、10月末時点で案内状発送者数 203 名に対し、41.3%の参加意思の表明が見られており、今後も参加者の参加率を維持するためには継続して実施していく必要があると考える。 <u>イ) 質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> 新型コロナウイルス感染症のため、学校の再開時期が遅くなり、身体計測が秋ごろになることから、学年質問票の発送を9月に行った。そのため、質問票の返送依頼が10月下旬となったことから、今年度の効果については検証中である。 <u>ウ) コミュニケーション活動に対しての取組</u> 子ども向けページ内には、「書いてみよう」というコーナーを設けてあり、決められたテーマ内で自由に絵を書いてもらい、ホームページ内に掲載する企画を行っている。COVID-19 感染防止のための自粛期間中であった4月に発刊した広報誌では、通常よりも7倍以上の応募があり、ホームページ内に掲載を行った。 <u>エ) アウトリーチ</u> オンラインセミナーの開催を12月に予定しているが、現在はその準備中である。地域運営協議会をオンライン形式で実施しており、その際に専門業者に委託して会を進めた。地域運営協議会の委員からとても好評で、スムーズに会が進められた。そこで、オンラインセミナーの開催もこの業者に依頼する予定である。
(A) 改善	<u>ア) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 常設の会場とは異なり、3連休や週末等に予定しているため、実施できる調査数に限りがあり、予想していた参加者数を超えてしまい、翌月に案内しなければいけない事例が数件発生した。希望していたところから日程が大幅にずれることはモチベーションの維持に関わってくると考えられるため、次年度は1回当たりの案内発送数を検討し、可能な限り参加者に示している日程で実施できるように検討を行っていく。

	<u>イ) 質問票回収率の維持・向上させるための取組</u> 質問票のコピーを再送することにより回収率向上が見られた場合、年齢質問票の返送依頼の方法についても見直しを行いさらなる返送率向上につなげたいと考えている。 <u>ウ) コミュニケーション活動に対しての取組</u> 子どもの年齢やその時の状況などタイミングに合わせて企画を進めていくことは難しい部分もあるが、今回は自粛期間とお絵かきの企画が合致し、応募人数の増加につながった。来年度は全対象児が就学することから、もう少しエコチル調査の内容や環境に関する内容にも触れながら進めていきたいと考えている。 <u>エ) アウトリーチ</u> オンラインによるセミナーを12月に開催予定であり、その実施状況や参加状況を見ながら、次年度以降の予定を考える予定である。さらに、自治体に掲示してもらえるようなポスターによる成果報告を行う検討を進めており、参加者の意見を反映させながら活動を行っていきたいと考えている。
--	--

【福島ユニットセンター】

P)計画	福島ユニットセンター指標： 「参加者とのコミュニケーションに、より積極的に取組、現参加者の減少率を年1%以内にとどめる」 指標達成のため、コロナ禍において実施可能な次の項目に取り組む。 1. 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 (1)環境セミナーの開催（年1回） ● 毎年対面で行っていたが、コロナ禍の状況に鑑み、Webで開催する。環境問題をエコチル調査参加者が“親子で一緒に学び合う”機会とする。 (2)親子で楽しめる動画作成の取組 ● コロナ禍でも親子で楽しめる動画を作成し、参加者へ配信する。 (3)子どものエコチル調査への理解を促す取組 ● 詳細調査：医学的検査時に検査の目的や調査で分かることを紙芝居を用いて説明する。 ● 学童期検査：小学校低学年向け動画をホームページに掲載し、調査への理解を促す。 (4)ニューズレターの配布（年4回） ● 参加者の意向を踏まえ、育児に関する小児科医師によるコラムを掲載する。 (5)謝礼(nanaco ポイント)の確実な受け取りのための取組 謝礼の nanaco ポイントを電子マネーに交換していないことによる、ポイントの失効を防ぎ、参加者が確実に謝礼を受領できるよう、以下の取組を行う。 ● nanaco ポイントの付与時期が、調査協力後 1～2か月程度かかることから、カードに付与された時期が分かるよう「お知らせメール」への登録を促す。 ● nanaco ポイントが失効する可能性のある対象者リストを nanaco カード会社より受け取り、当該対象者へハガキを郵送し、電子マネーへの交換を促す。 (6)参加者への学術成果還元の取組 ● 学術成果を分かりやすく記載した簡易資料を作成し、参加者への成果還元を目指す。 2. 質問票回収率等を維持・向上させるための取組
------	---

	(1) 返送依頼時期及び返送依頼方法の変更 ● 昨年度の年次評価資料や他ユニットセンターの取組を参考に回収率を分析し、返送依頼時期及び返送依頼方法の見直しを行い、質問票回収率向上を目指す。 (2) 質問票封筒及び同封物の工夫 ● 質問票封筒へのメッセージラベル貼付及び同封物の工夫により、質問票の開封を促す。 (3) 乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上の取組 ● ニュースレターやホームページに記事を掲載し、乳歯調査への理解を促す。 ● コアセンターからの協力意思確認ハガキ再送後、未返送者へ返送依頼ハガキを郵送し、回答率向上を目指す。 3. アウトリーチ、その他 (1) ホームページのリニューアル ● アクセス解析の結果、新規ニュース以外の情報へのアクセス数が少ないことが分かり、スマートフォン対応となっていない現状もある。ホームページの全体的なリニューアルを行い、必要な情報を容易に得られる構成デザインとする。 (2) 学術成果促進の取組 ● 学内研究者の学術活動促進のため情報発信等の取組を行う。 (3) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング ● 安全な対面調査の実施に向けて、ユニットセンター職員が共通認識のもと調査を実施できるよう、マニュアルを策定する。 ● 全国での感染者数、県内の感染者数、県内の感染状況ステージ等の把握を行い、検査実施可否の判断、感染拡大時の速やかな対応のため情報収集を行う。 (4) 詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ● コロナ禍で中断していた詳細調査の再開に際し、協力医療機関を訪問し、安全な実施体制づくりを行う。 (5) 外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ● 2021 年度以降対象者が大幅に増加する状況において、県内各地域の希望者全員が検査に参加できるよう、外部委託を活用した安全な実施体制を構築する。検査精度の維持のため、委託業者へ各種研修を実施する。
D) 実施	1. 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する

取組

(1)環境セミナーの開催（年1回）

- 環境セミナーテーマ：「そうだったのか！地球温暖化のほんとうのこと？」（2021年2月開催予定）

◎Web開催とし、講義の後、一緒に学び合うことを主眼にグループワーク形式で参加者が意見を出し合い、環境問題について話し合うことを想定している。今回は新たに、子どもと一緒に環境問題について学び合う取組を含め、家族一緒に参加できるセミナーを予定している。昨年度は、「地球温暖化が進むと何が困るの？」というテーマで行った。参加者アンケートでは、100%が「よかった」又は「まあまあよかった」と回答した。特に昨年は県内でも洪水の被害に見まわれ、より内容がタイムリーであったことから、グループワーク形式での取組が盛況となった。「一人一人の意見が聞けてよかった」「もっと時間があってもよかった」という感想が聞かれ、今年度も継続することとした。特に今年度はコロナの影響を考え、Web開催とした。

(2)親子で楽しめる動画作成の取組

- コロナ禍でも親子で楽しめる動画を作成し、参加者へ配信できるよう情報収集を行い、作成に向けた準備を進めている。

(3)子どものエコチル調査への理解を促す取組

- 詳細調査：医学的検査時にリサーチコーディネーターが検査の目的や調査で分かることを紙芝居を用いて一人一人に説明した。
- 学童期検査：エコチル調査の目的や福島県内の実施状況を含めた動画「福島県でのエコチル調査」を作成し、2020年11月にホームページに掲載する予定である。

(4)ニューズレターの配布（年1回）

- 年間をとおして小児科医師による「発達」に関するコラムを掲載することとした。夏号は「ひとりひとりの能力を伸ばす」、秋号は「不登校は蝶になる前の蛹」という内容で掲載した。今後、2回発行予定である。

(5)謝礼(nanacoポイント)の確実な受け取りのための取組

- 2020年9月よりニューズレターや学年質問票に資料を同封し、nanacoポイントの付与時期が分かる「お知らせメール」への登録を促した。
- 2021年1月にnanacoポイントが失効する可能性のある対象者に、電子マネーへの交換を促すハガキを郵送予定である。昨年度は、1096件のハガキを発送した。その結果、約半数は電子マネーへの交換を促進できたことから、今年度も継続して実施する。

(6)参加者への学術成果還元の取組

- 参加者への学術成果還元に関する課題の洗い出し、他ユニットセンター

等の取組を情報収集し、学術成果に関する簡易資料作成に向け取り組んでいる。

2. 質問票回収率等を維持・向上させるための取組

(1) 返送依頼時期及び返送依頼方法の変更

- 1回目、2回目の返送依頼時期を4週目、9週目から3週目、7週目に変更し、ショートメールにより実施した。3回目は、10週目にハガキで行っていたが、質問票の再送を行うこととした。

(2) 質問票封筒及び同封物の工夫

- 質問票封筒に質問票ごとに異なるメッセージラベルを貼付し、学年質問票については、ノベルティグッズを封入し、開封を促した。

(3) 乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上の取組

- ニュースレターやホームページに乳歯調査の説明や協力意思確認ハガキ返送依頼に関する記事を掲載した。
- コアセンターからの協力意思確認ハガキ再送後、2020年9月に未返送者全員へ返送依頼ハガキを郵送した。

3. アウトリーチ、その他

(1) ホームページのリニューアル

- ホームページの課題を洗い出し、方針を決定した。2021年2月の完成を目指している。
- それに先立ち、「学術論文」及び「学童期検査」については、トップ画面からアクセスできるサイトの構築を行っている。「学童期検査」については、動画の掲載や予約の利便性向上に取り組んでおり、特に、ホームページ上から予約システムにアクセス出来るサイトの構築を行っている。

(2) 学術成果促進の取組

- 学内研究者の学術活動促進を目的に、毎月の学内メールマガジンでの情報発信、毎月の学術ワーキンググループ勉強会開催による研究者支援等を行った。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング

- 附属病院の感染制御部等との連携のもとマニュアルを策定し、ユニットセンター全職員に周知した。
- 新聞やホームページを確認し、全国での感染者数、県内の感染者数、県内の感染状況ステージ等の把握を行い、検査実施可否等の判断を連日行った。併せてホームページで他ユニットセンターの実施状況について確

	認し、状況の把握を行った。 (4) 詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ● 詳細調査の再開に際し、<u>25 協力医療機関を訪問し</u>、医療機関の意向聴取やユニットセンターでの感染症対策の説明、環境設定について検討し、安全に実施できる体制づくりを行った。 (5) 外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ● 委託先業務責任者及び実施者にエコチル調査の概要、情報管理・リスク管理等に関する研修、検査業務オリエンテーション、実地研修（見学、実習）、<u>演習等 3～4 日に渡って行い</u>、安全な実施体制構築に向け理解が深まるよう取り組んだ。
(C) 評価	1. 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 (1) 環境セミナーの開催（年 1 回） ● 2021 年 2 月に Web 開催される環境セミナーにおいてアンケートを行い、特に子どもの参加を含めたグループワーク形式での実施に関する評価を行う。 (2) 親子で楽しめる動画作成の取組 ● 動画は今後作成予定である。作成後、アクセス解析を含め効果を検証する。 (3) 子どものエコチル調査への理解を促す取組 ● 詳細調査：参加者にアンケートを行い、<u>83%は紙芝居の内容を概ね理解できたと思う</u>と回答した。一方で、「まだ難しかったようだ」という回答もあった。 ● 学童期検査：2020 年 11 月にホームページに掲載し、その後動画に関する評価を行う。 (4) ニュースレターの配布（年 4 回） ● 参加者より、掲載コラムが「<u>参考になる</u>」、「<u>いつも興味深く読んでいます</u>」という声が寄せられ、<u>参加者ニーズにあった情報発信</u>ができていると考えられる。 (5) 謝礼 (nanaco ポイント) の確実な受け取りのための取組 ● 「お知らせメール」への登録を促す案内発送後、2020 年 11 月に nanaco カード会社より登録者数データが得られることになっている。データ取得後、案内の効果を評価する。 ● 2021 年 1 月に電子マネーへの交換を促すハガキを郵送予定である。対象者リストが得られた後、前年度リストと紐付けて、ハガキ郵送の効果を検証する。

(6) 参加者への学術成果還元の取組

- 学術成果に関する簡易資料は作成予定である。作成後、取組について評価を行う。

2. 質問票回収率等を維持・向上させるための取組

(1) 返送依頼時期及び返送依頼方法の変更

- 返送依頼時期を早め、3回目の返送依頼を質問票の再送とした結果、5歳半、6歳、8歳の年齢質問票回収率（送付後6ヵ月以上）が全体的に向上した（別紙図1参照）。7歳質問票回収率は同程度で維持された。

(2) 質問票封筒及び同封物の工夫

- 封筒や同封物の工夫による質問票回収率の効果については、開始から期間が短いため、検証できていない。しかし、しばらく提出のなかった参加者からの質問票提出や参加児から「プレゼントありがとう」と手紙が添えられた質問票が返送されるなど、開封や返送を促す一定の効果はあったものと考えられる。

(3) 乳歯調査の協力意思確認ハガキ回収率向上の取組

- ニュースレターやホームページに案内を掲載した結果、電話での問い合わせが増加し、「協力しないと言っていたが協力したい」と意思を変更する参加者もいた。
- 返送依頼ハガキを郵送した結果、110件ほどの問い合わせがあり、協力意思確認ハガキの返送も含め意思表示件数が400件以上増加し、回収率向上に繋がった。

3. アウトリーチ、その他

(1) ホームページのリニューアル

- 2021年2月完成以降、アクセス解析を行い、リニューアルの効果について検討する。
- 先行して改修を行った、「学術論文」については、ページ閲覧数の微増が見られ、より学術成果内容へのアクセスを高めたとも考えられる。
「学童期検査」については、2020年11月よりトップ画面より閲覧できるようになるため、今後評価を行う。

(2) 学術成果促進の取組

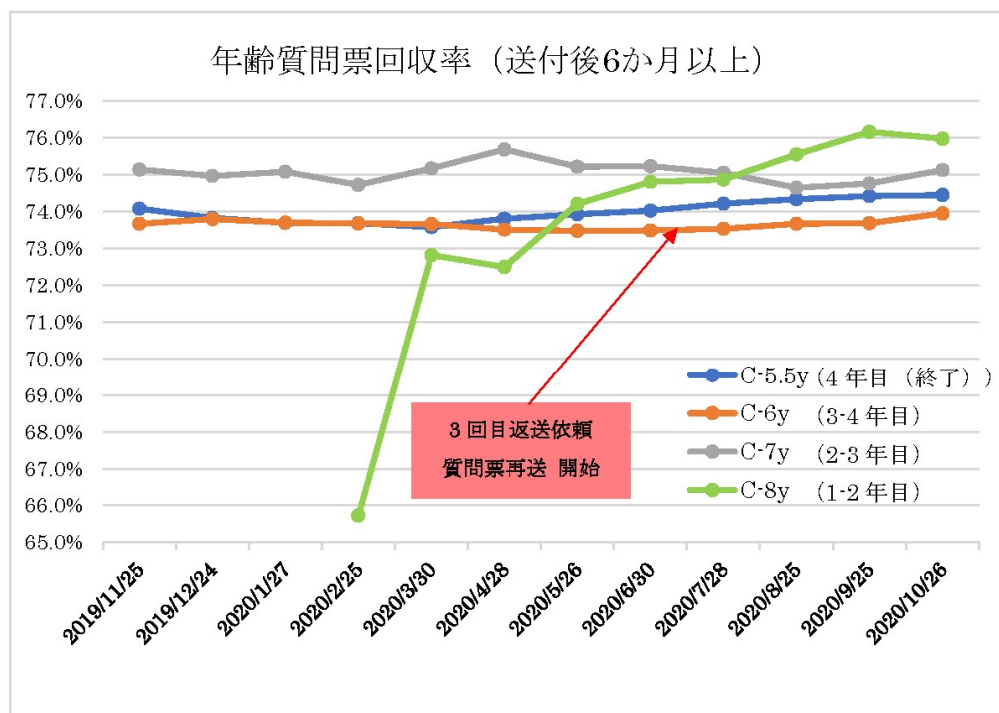
- 学内メールマガジンで情報発信を行った結果、今年度新たに2部門から研究参加希望があった。また、学術ワーキンググループ勉強会開催により、研究発表に各専門の教授等による助言を受ける機会が得られ、研究のブラッシュアップに繋がった。そのことにより、研究活動も活発化

	し、上半期で昨年度を上回る論文発表件数に繋がったと思われる。 (3) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアルの策定及び状況モニタリング ● マニュアル作成の過程で感染症専門スタッフからの助言を受け、多くの検討の機会が持たれたことから、<u>状況発生時の対応についてより具体性を持ったマニュアルの作成ができ、全職員の共通認識も深まった。</u>また、マニュアルに基づく対面調査の実施にあたっては、参加者アンケートの結果、<u>感染症対策について 99.8%が安心できたと回答した。</u> ● 新聞やホームページ等を確認し、情報収集に努めることにより、<u>冷静に状況を判断し、検査対応ができた。</u>多くの情報収集が必要となるが、職員で役割を分担し行うことで、より<u>確実な情報の蓄積ができた。</u> (4) 詳細調査協力医療機関とのコロナ禍での実施体制構築 ● 協力医療機関に理解を得て、<u>検査再開ができた。</u>医療機関によっては、患者受け入れ態勢等の理由により、協力の難しい医療機関もあった。医療機関の要望にできる限り答えるよう取り組んだが、その一方、医療機関で検査を受けるまでの一定期間は<u>県外移動の制限等、参加者に理解を得ながら実施している現状がある。</u> (5) 外部委託を活用した学童期検査の実施体制構築 ● 各種研修及び繰り返しの話し合いが持たれ、エコチル調査スタッフと委託業者スタッフによる学童期検査も開始した。研修後も、委託業者スタッフの理解度を高め、維持するため個別に測定機器を経験する追加研修の機会を設けた。学童期検査後の参加者アンケートの結果、<u>スタッフの対応や説明について、99.6%が分かりやすかったと回答し、研修の効果が確認された。</u>業務が多岐にわたる中で、委託業者スタッフ間の理解度やスキルの差もあり、<u>共通認識のための取組や精度管理が重要な状況であった。</u> 【総合評価：指標に対する評価】 ユニットセンター全体として、上記の取組を行った結果、<u>年間の現参加者の減少率は 0.7%と目標を達成することができた（別紙表 1 参照）。</u>
(A)改善	1. 参加者等へのモチベーション維持及びコミュニケーション活動に対する取組 各調査業務の拡大及び新型コロナウイルスに伴い、多くのイベント開催は難しくなっている。今後実施予定の取組も評価し、参加者ニーズと提供内容とが合致するイベントを検討し、動画の作成やWeb 開催など様々な方法での情報発

	信やコミュニケーションのあり方を探っていく。 2. 質問票回収率等を維持・向上させるための取組 質問票回収率の維持・向上の取組については、今後も定期的に評価し、PDCAによる取組を継続する。乳歯調査については、対面調査等で協力意思確認の取組を行い、協力率向上に努める。 3. アウトリーチ、その他 ホームページリニューアルの効果は、今後評価し検討を行っていく。学術活動については、取組を継続し、学術成果促進・社会還元に努める。 調査にあたっては、新型コロナウイルスの状況モニタリングにより判断し、安全な検査実施に向け取り組んでいく。特に、詳細調査については、協力医療機関との連携を密にし、参加者には感染症対策への理解を得ながら取り組んでいく。 学童期検査については、外部委託を活用し、実施体制を構築した。調査の実施においては、引き続き調査への共通理解及びリスク管理・情報管理に関する共通認識が重要である。課題への対策を明確にし、検査の精度管理を行いながら、より円滑で安全な実施体制構築に向け、取り組んでいく。
--	---

(別紙)

図1 年齢質問票回収率(送付後6ヵ月以上)



◎3回目返送依頼を質問票再送とした後、質問票回収率は5歳半が0.4ポイント、6歳が0.5ポイント、8歳が1.2ポイント上昇した。7歳は、同程度に維持された。

表1 現参加率の推移 (2019/10月末時点・2020/10月末時点)

	出生数 ※1	転出者数 (延べ人数)	転入者数 (延べ人数)	転出入調整 出生数※2	打ち切り数 (延べ人数)	現参加者 数	現参加率 (転出入調整) 現参加者数÷転出入調整 出生数×100
R1.10.28 時点	12,866	154	122	12,834	591	12,243	95.4%
R2.10.26 時点	12,866	170	131	12,827	679	12,148	94.7%

※1 出生数：2018.11 出生数確定データクリーニングにて1名減

※2 転出入調整出生数：出生数-転出者数+転入者数

◎前年比の現参加率減少が、0.7%であった。現参加率減少が年1.0%以内という目標を達成できた。

【千葉ユニットセンター】

(P) 計画	<u>ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> ①ニュースレター等により調査の意義を知ってもらう。 ②ニュースレター等により調査データの活用事例を伝える。 ③子どもにも調査に関心を持ってもらう。 ④詳細調査・学童期検査への参加率を上げる。 ⑤乳歯調査への協力率を上げる。 <u>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> ①質問票提出が滞りがちな参加者に対するアプローチを工夫し、回収率を向上させる。 ②学年質問票の回収率向上、身長・体重の欠測を減らす。 <u>ウ コミュニケーション活動に対しての取組</u> (参加者を含む調査地域でのリスクコミュニケーションを含む) ①新型コロナウイルス感染症対策として、人が集まるイベントに代わるイベントを行う。 ②ニュースレターを通じて、健康、環境に関する情報を発信する。 <u>エ アウトリーチ、その他</u> (新型コロナウイルス感染拡大防止や災害等の被災状況を踏まえたコミュニケーション活動等に関する取組を含む) ①ニュースレター等を通じて、新型コロナウイルス感染拡大防止のための情報を伝える。 ②学童期検査、詳細調査実施にあたり、地域の状況を配慮する。
(D) 実施	<u>ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> ①参加者の興味関心の程度には個人差があることを考慮し、ニュースレターではマンガで調査の内容と意義を伝える企画を毎号実施している。 ②ニュースレターや HP で返却された結果の見方の解説を加えている。 ③ニュースレター発送時に子ども向けの冊子 「ちばエコチルキッズマガジン」、学童期検査案内時には子ども向けのマンガを併せて配布した ④参加者の居住地が大学から離れている方が多いため、多くの方が参加できるように、居住地付近の医療機関や自治体施設、市民ホール等の検査会場を設定した。   ・新型コロナウイルス感染対策として、密を避けるため、10分～15分に1人という検査枠を設定し、土日、放課後の検査日を増やした。検査内容を理解していただくための独自のパンフレットを作成・配付した。

④乳歯調査についてはニュースレターで協力を依頼、独自の案内を配布するとともに詳細調査および学童期検査受付時に協力ハガキ未返送者に対し、調査を説明し、リマインドを図った。



イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

①質問票未提出者へ効果的な返送依頼を運営会議等で検討し下記方法で行っている。

- ・質問票発送 1 か月後にハガキ、さらに 2 か月後に電話もしくはショートメール、さらに 3 か月後に再度電話もしくはショートメール、4 か月目に質問票の再送付を行う。



- ・7 歳質問票からは質問票発送 1 か月後に電話（不通の場合は続けてショートメール、ハガキ）、1 か月後にハガキ送付。

新型コロナウイルス対応に伴い大幅な業務の遅れがあったが 7 月下旬よりハガキおよび電話による質問票返送依頼作業を再開した。

②学校保健記録は、年末に学校の記録が家庭に届くことが多いため、年末に一括でショートメール（使えない場合はハガキ）を送信する。

- ・ユニットセンターが作成・配付したカレンダーに身長・体重を記録しておく欄を作っている。

ウ コミュニケーション活動に対しての取組

①2020 年 3 月に予定していたイベントを実施できなくなったため、WEB 配信のイベントを企画し、案内のハガキを発送した。11 月にサンドアート、子ども向けの調査紹介動画を配信する。



②ニュースレターの毎号の企画で、健康や子育てに関する情報を発信。

エ アウトリーチ、その他

①各自が新型コロナウイルス感染について正しい知識に基づく対策をとれるように「ちばエコチルつうしん」に感染症対策に関する情報を掲載。

キッズマガジンでもわかりやすい形でウイルス感染の情報を掲載した。

②7 月詳細調査再開、8 月学童期検査再開に向けて、地域運営協議会全委員に、検査実施についての意見照会を実施した。その結果、再開について慎重に判断してほしいとの意見が出されたセンターと相談の上、当該地域での今年度の学童期検査実施を見送ることとした。質問票返送依頼や検査日程調整等の電話では、新型コロナウイルス感染や災害に関する現在の状況を問い合わせるなど参加者に寄り添う事を心がけている。

(C) 評価

ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組

①②③ちばエコチルつうしん配付時に参加者へのアンケート調査を行っている。前回発行した第16号では、「エコチル調査の大切さを感じた」2.89点/3点満点、「質問票の大切さを感じた」2.88点/3点とニュースレターを通じた調査の意義を伝える取組に効果があると考えられた

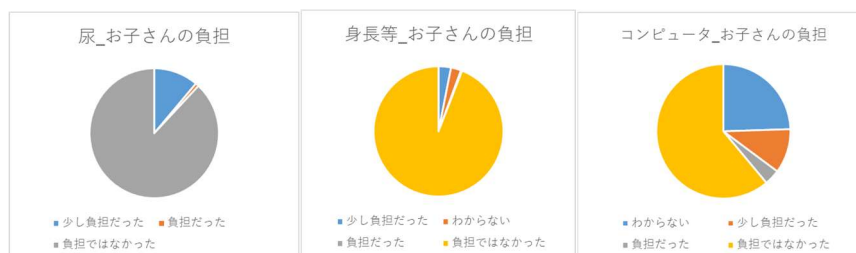
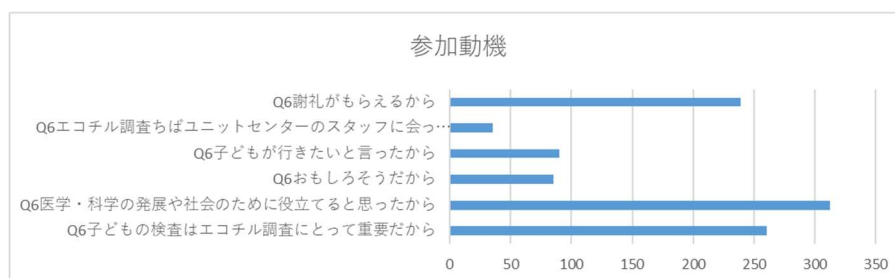
④詳細調査実施率（2020年10月末日時点）

2020年度 実施対象 者	参加調査 票返送数	参加人 数	3月末までの最 終参加人数(予 定)	不参加
300人	282人 (94%)	178人 (59%)	235人 (78%)	65人 (21%)

・学童期検査実施率(2020年10月末日時点)

2020年度 実施対象 者	参加調査 票返送数	参加人 数	検討中	不参加
1888人	1066人 (56.5%)	425人 (22.5%)	427人 (22.6%)	272人 (14.4%)
			延期理由 コロナ過が落ち 着いたら (39%) 日程が合わない (61%)	不参加理由 ・持病がある・ 妊娠中である ・コロナが心配 ・遠方の為 ・下の子がいる ため

・学童期検査での付き添いの保護者へのアンケート結果



	⑤学童期検査の参加者への乳歯調査のご案内やニュースレターでのリマインドにより、新たに 134 人の協力意思確認への回答を得た。 <u>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> 返送依頼のため電話をかけてた結果は下記の通りであった。 <table><tr><td>架電数</td><td>提出同意</td><td>保留</td><td>協力取りやめ</td><td>不通</td><td>記録なし</td></tr><tr><td>947</td><td>177</td><td>12</td><td>21</td><td>731</td><td>6</td></tr></table> 不通が多いため、来年度、架電の時間帯について再検討したい。 <u>ウ コミュニケーション活動に対しての取組</u> 11 月の動画配信に際し視聴した参加者に対しアンケート調査を行う予定。	架電数	提出同意	保留	協力取りやめ	不通	記録なし	947	177	12	21	731	6
架電数	提出同意	保留	協力取りやめ	不通	記録なし								
947	177	12	21	731	6								
(A) 改善	<u>ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> ・ちばエコチルつうしんのアンケートに寄せられたマンガページの構成への意見に従ってよりすっきりとしたわかりやすい内容に変更した。 ・学童期検査の参加検討中の参加者に更新した情報を改めて連絡した。 ・アンケートから見えてきた課題について以下改善策を実施・検討した。 <u>実施した点：</u> 暑さ対策：冷房の利く待合室の増設、うちわの配布。 スタッフ人数：検査の流れを再検討し過剰のスタッフ人数を減らす。 参加者への配慮：特別の配慮を希望のお子さんの情報共有の徹底。 <u>今後対応を検討：</u> 兄弟同伴（コロナの感染状況を見ながら検討） 今年度コロナ禍の影響で実施できなかった検査対象地域での実施。 検査会場での検査の流れと母子の動きについてあらかじめの連絡。 <u>イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> 社会情勢の変化を考慮してグッズ提供について見直しを行い質問票送付時に小さな除菌シートを同封する予定とし今後その効果を検討していく。定期的に回収率向上の取組を検討し効果的な方法を探っていく。 <u>ウ コミュニケーション活動に対しての取組</u> 運動イベントについて反響の大きかったため「ちばエコチルつうしん」にて家庭でできる運動を紹介する記事を掲載した。 <u>エ アウトリーチ、その他</u> 今年度学童期検査の実施再開を見送っていた地域から感染症対策について評価を得ることができたため来年度から当該地域でも検査を再開する。												

【神奈川ユニットセンター】

(P) 計画	イ：質問票回収率において、全国平均を継続して上回るようにする。 エ：エコチル対象地域でのエコチル認知度を高める。
(D) 実施	イ：質問票回収率がエコチル調査 UC 全体の全国平均を上回るようにするために、質問票を返送していない参加者に対して、定期的に返送依頼を実施した。返送依頼の発送時期は、質問票発送後1か月後にショートメール（Ⅰ）、その1か月後にハガキ（Ⅱ）、その2か月後に再度ショートメール（Ⅲ）を送付した。 エ：①対象地域の小中学校において、エコチル調査のちらしを配布した。②地域のコミュニティ雑誌であるタウンニュースへ記事を投稿した。③横浜市立大学附属病院と共同で来年のカレンダーを作成し、医療機関での認知度アップを実施する予定。 以下は小中学校への配布ちらしである。  以下は、横浜市金沢区、小田原市、大和市で配布したタウンニュースである。 

以下は、附属病院で掲示するカレンダーである。



(C) 評価

イ：返送依頼の件数は発送数に対して、6歳質問票（返送依頼方法Ⅰ）36%・（Ⅱ）26%・（Ⅲ）23%、7歳質問票（Ⅰ）35%・（Ⅱ）25%・（Ⅲ）23%、8歳質問票（Ⅰ）31%・（Ⅱ）22%・（Ⅲ）21%発送依頼した。その結果、半年後の回収率は、全国平均を上回ることができた。

エ：①参加児のみでなく、地域の小中学校生に対して、エコチル調査をやっていると認知してもらうことは重要であると考えている。各教育委員会のご協力をいただき実施することができた。

②地域のみなさんへエコチル調査を知っていただき、エコチル調査から得られた知見を広く知ってもらうことができた。地域住民に調査の意義を理解して頂く機会を得ることができた。

③来年のカレンダーであり、来年附属病院内で掲示される。病院とも連携していくためにもこのような取り組みも必要であると考えている。

(A) 改善

イ：返送依頼方法ⅡとⅢの返送依頼率は、ⅠとⅡの返送依頼率の差ほど大きくなく効果が限定的であると思われる。実際、緊急事態宣言が発令されていた時には、発送依頼をお願いする回数を2回に減らしたが（ショートメール1回とハガキ1回）、回収率に大きな差は認められなかった。返送依頼方法のうち、ハガキは返送依頼以外に、住所確認の目的があり必要であると考えている。しかし、1回目の返送依頼をハガキ（63円）で行うと対象者の数が多く、ショートメール（携帯会社によって、無料もしくは3円）に比べるとコストがかかってしまう。3回目の返送依頼であるショートメールの必要性について今後検討していきたい。

	エ：アウトリーチ活動の評価を計量的に行うのは難しく、今回の活動を通して、どれだけの児童・生徒、その保護者や地域の住民に対して、調査の意義を理解してもらえたか不明である。しかし、学校へ配布するために行政や教育委員会へアプローチし、配布できたことは公にエコチル調査を認めていただいたことになると考えている。来年度以降も引き続き継続していきたい。
--	---

【甲信ユニットセンター（山梨大学）】

(P) 計画	1. エコチル調査に対する参加児の理解を深めるための取組 エコチル調査がスタートしてから約 10 年が経過し、来年度は参加児全員が小学生になる。エコチル調査に参加している子どもたちは、妊娠中の母親が参加同意をしたことによって調査の対象となっているが、成長に伴い子どもたち自身にも調査の目的や意義を伝え、主体的に参加し続けてもらえるような関係を構築することが重要である。本年度は子どもたちの参加意識の実態を探ることを目的に学童期検査（小学 2 年）の参加親子を対象にアンケート調査を実施し、子どもへのインフォームド・アセント取得に向けた基礎資料を作成する。併せて参加児のモチベーションを高めることを目的とした活動にも積極的に取り組む。 2. 新型コロナウイルス感染症への対応 新型コロナウイルス感染症の流行は、エコチル調査の実施にも大きく影響した。中でも参加者と対面する詳細調査や学童期検査、参加者コミュニケーション活動等は、従来の実施方法を早急に見直す必要性に迫られた。コロナ禍における対面調査やイベント等の在り方について、感染症対策を取り入れた新しい方策を検討し、調査活動の継続と対面式検査への参加率維持を目指す。 3. エコチル調査のデータを活用した研究活動の推進 調査開始から 10 年が経過し、貴重な研究データが蓄積されつつある中、ユニットセンターにはデータ収集だけではなく、それを活用した研究活動を充実させ、成果を社会に還元する役割も求められるようになっている。本年度はエコチル調査の研究活動を進めるための体制や成果発表の仕組みづくりを強化し、年間 5 本の論文化を目指す。
(D) 実施	1. エコチル調査に対する参加児の理解を深めるための取組 学童期検査の時期を迎えた 8 歳の参加児に、エコチル調査の概要をまとめたアセント補助資料と学童期検査の内容を紹介するパンフレットを送付し、親子でエコチル調査について話し合う機会をもってもらおうよう呼び掛けた。学童期検査終了後には、保護者と参加児それぞれにアンケートを実施し、エコチル調査や学童期検査について、親子の間でどの程度話題に上り、子どもの理解が得られたのか、などについて検証した。 また、参加児を対象とした活動として「ぼこっちくらぶ」を立ち上げ、子どもたち自身が学んだり体験したりする機会を提供し、その様子をニューズレターで情報発信する取組を始めた（参考資料 1）。ニューズレターに毎回子どもたちが登場することで、子どもたちの読者を増やし、親しみを持ってもらえるような誌面づくりを考えた。 2. 新型コロナウイルス感染症への対応 新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、3 月以降、詳細調査

（6歳）と学童期検査の実施を見合わせるようになった。山梨大学ではいずれも大学内に会場を設営して、毎月、定期的実施してきたため、緊急事態宣言が解除され、学校が再開された時点で、調査も速やかに再開できるよう、休止期間中に感染症対策を盛り込んだ新しいマニュアル作りに着手した（参考資料2）。

学童期検査は毎月1回、土日を開催日とし、1日最大36人を受け入れてきたが、新しいマニュアルでは1日の受け入れ人数を25人～30人に減らし、3人ずつ同時に行っていた受付を個別にするなど、参加者が密にならない方法を工夫した。手洗い用の石鹸やペーパータオル、手指や機器の消毒液などを常備するとともに、参加者・スタッフ全員のマスク着用や検温を義務付けることとした。

その一方で、参加児を誕生日順に3か月ごとのグループに分け、検査の案内を送付して予約を受け付ける作業は、休止中も継続させた。予約を入れてくれた参加者には電話や手紙でこまめにコミュニケーションを取って状況を説明し、体調確認なども行って、学童期検査の再開に備えた。

また、本年度の参加者コミュニケーション活動は当初、10周年を記念した特別講演会（講師：金田一秀穂山梨県立図書館長）と、ファミリーイベント（映画上映会）の開催を計画していた。しかし新型コロナウイルス感染症の影響で、大勢の参加者を一堂に集めた形式でのイベントが開けなくなってしまった。

調査開始から10年の節目に、調査参加家族をはじめ一般県民に対しても調査の進捗状況や研究成果を報告し、さらなる普及啓発を図ることは重要であり、イベントに代わる新たな参加者コミュニケーション活動を模索した。その結果、山梨県内でテレビ、ラジオ、新聞、インターネット等で多角的にメディア事業を実施している企業と連携し、2021年2月～3月にかけて「エコチル調査のこれまでとこれから（仮）」をテーマにしたテレビ番組の制作・放映、新聞への記事体広告の掲載等、パブリシティ活動を展開することになった。

3. エコチル調査のデータを活用した研究活動の推進

ユニットセンターにおける研究体制を強化・充実させるため、6月から研究・解析を担当する非常勤の特任講師を雇用したほか、10月に採用した特任助教を成果発表に関する事務手続きや情報管理の担当として新たに配置した。

また、ユニットセンターの教員が所属する山梨大学大学院の出生コホート研究センターと社会医学講座の教員12人が参加して毎週1回研究相談会を開催し、それぞれが取り組んでいる研究の進捗状況を発表し、情報共有や意見交換を行った。学童期検査の追加調査として実施している総合健診に参加している学内教員らの研究活動を支援する勉強会も定期的に開催した。

研究成果の発表については、コアセンターが策定するルールに則って行われるよう、関係する教員間で情報共有を徹底するとともに、誌上発表と学会発表それぞれにステータス表（参考資料3）を作成し、ルール通りの手順を踏んで

	進められているかを視覚的に確認・共有できる仕組みも整えた。
(C) 評価	1. エコチル調査に対する参加児の理解を深めるための取組 7月～10月に実施した学童期検査の全参加者（保護者 309 人、子ども 313 人）に行った事後アンケートで、エコチル調査や学童期検査のことについて親子でどの程度、話をしたかについて検証した。 それによると、保護者の 263 人（85.1%）が「山梨大学に行って検査を受けること」を「子どもに話した」と回答。「採血をすること」についても 209 人（67.6%）が子どもに伝えていた。子どもへのアンケートでも、266 人（85.0%）が「山梨大学に行って検査を受けること」を「聞いた」と回答。「血を採ること」も 253 人（80.8%）が聞いていた。また、「エコチル調査のこと」については 216 人（69.0%）が「聞いた」と回答しており、子どもたちの 3 人に 2 人は「エコチル調査」に関する認識を持っていた。 これらのことから、学童期検査の際に子ども用の資料を配布し、親子で対話するきっかけを作ることによって、子ども自身がエコチル調査に参加していることを自覚し、興味を持ってもらう契機になっている可能性が示唆された。 また、「ぼこっくらぶ」については、10 月末現在 7 名の子どもたちが参加を希望しており、次の活動として 12 月に「アートセラピー」の体験会を計画している。2021 年 2 月に発行予定の次号のニューズレターでその模様を紹介し、引き続き参加者を募って、子どもへのアプローチを強化する。 2. 新型コロナウイルス感染症への対応 本年度の学童期検査は毎月 1 回、連続した土日に検査日を設け、年間 24 日間で実施する計画を立てていた。新型コロナウイルス感染症の影響で 4 月～6 月に予定していた 6 日間を中止としたが、この期間中に感染症対策を盛り込んだ新しいマニュアルを作成し、予約の受付も継続したことにより、緊急事態宣言解除後の 7 月以降、計画通りの日程で調査を再開することができた。中止分についても 7 月 23 日～26 日の 4 連休と 9 月 19、20 日の土日を合わせた 6 日間に振り替えて実施することができたため、現段階では当初の予定通り年間 24 日の実施日数を確保できる見通しである。 本年度 4 月～9 月の実施状況については、学童期検査対象者 618 人のうち、予約者は 291 人（予約率 47.1%）で、実際に参加したのは 264 人、参加率は 42.7%だった。参加した保護者からは「コロナ渦の中で少し心配はありましたが、感染予防対策がしっかりできていて安心して検査を受けることができました」といった声も寄せられた。 3. エコチル調査のデータを活用した研究活動の推進 情報管理責任者の副センター長を中心に、研究担当の人員を増やして組織化し、毎週定期的に相談会を開催することによって支援体制が整い、研究者の士

	気も高まった。これまで学術誌に掲載されたエコチル調査の論文の中で、山梨大学の研究者による研究論文は1本であったが、10月末現在、学内の45人の研究者らが、エコチル調査の3歳時全固定データの利用を申請・承認され、データを活用して12の研究の論文化が進んでおり、目標とした5本をクリアしている。
(A) 改善	1. エコチル調査に対する参加児の理解を深めるための取組 学童期検査の保護者に対する事後アンケートでは、「学童期検査と総合健診の内容」を子どもに話したのは134人(43.4%)で半数に満たず、「エコチル調査全体の内容や意義」については93人(30.1%)にとどまっていることも分かった。エコチル調査に対する子どもの認知度を高め、興味関心を持ってもらうためには、保護者から子どもへの働きかけが重要であり、そのことを保護者自身にもっとアピールして協力を求めていく必要があるようだ。 山梨大学では5歳時の質問票にレターセットを同封し、保護者から「子どもが10歳になった時に伝えたいメッセージ」を募集しており、寄せられたメッセージは10歳の質問票とともに、参加児への誕生日プレゼントとして発送することになっている。こうした親子でエコチル調査のことを話題にもらえるような取組を、今後もさらに工夫していきたい。 2. 新型コロナウイルス感染症への対応 感染症対策を行いながら学童期検査を実施しているものの、予約率は2019年度の63.3%(対象者800人中、506人が予約)から本年度上半期は47.1%となり、16.2ポイント低下している。新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れないが、社会環境や生活スタイルが大きく変化する中で、子どもたちの健康や成長を追跡していくことはエコチル調査の責務ととらえ、状況に応じて感染症対策をブラッシュアップしながら参加者に安心して検査を受けてもらえる態勢をさらに整えたい。 3. エコチル調査のデータを活用した研究活動の推進 本年度内にエコチル調査における成果発表ルールの変更が予定されており、改定後も速やかに対応できるよう、研究相談会などを活用して関係者間の情報共有を徹底する。まずはそれぞれの研究者が取り組んでいる研究論文が1本でも多く、学術誌に掲載されるよう、研究支援活動を継続、充実させること。また、今後は研究成果を社会に還元するための具体的な方策などについても検討していく予定である。

ぼこっくらぶ体験レポート

～かんたん！おいしい！ぼこっくッキング～



こんにちは！エコチルやまなしのオリジナルキャラクター「ぼこっ」のゆかりんです！
私たちが知りたいことを調べたり、聞いたりして、情報を届けようとする「ぼこっくらぶ」がスタートするよ！
エコチルキッズのみんなに、ぜひ読んでもらいたいと思っています！
今回は、「自分でお昼ごはんを作っちゃおう！」ということで、お料理にチャレンジしてもらいました。
さっそく、どんな体験をしたのか見てみよう！

本日の先生をようかいします

コック 辻 千鶴 さん
料理家
食育を文芸
手帳な料理ができる
体験型カフェ
「マルサマルシェ
Cooking Studio」経営



ちやせんしたのはこの2人！



かなでちゃん
(小学3年生)
新しいそうと
ピアノをやっています
おもしろい大好き！



あおいくん
(小学3年生)
サッカーが、
ことしは母の日に
カレーを作ったよ！

じぶんだけの オリジナル フルーツパフェ

くだもの、ヨーグルト、
フルーツソース、
生クリームを好きな
順番に入れてのだけ！
さいごにアイスと
くだものをかざりつけよう！



さいしょはまよったけど、
どんどん入れているうちに
わたしの
パフェができたよ！
たのしかったー



こんなに
おいしくパフェができた！

ませてみるだけ！ フルーツソース ドレッシング

ざいりょうを
ぜんぶ入れて
おもいきりシェイク！



フルーツソースドレッシング
あじをきながら、
ジャンをたたく、
おさとうをたたくして、
じんの好きなおじにしてね！

【ざいりょう】
●お家にあまるジャムや
フルーツソース、
くだものピューレなど
と半分
●オリーブオイル 大さじ2
●リンゴ酢(りんご酢がなくてもok) 大さじ2
●塩 小さじ半分
●さとう 小さじ半分
●ブラックペッパー・ハーブなど少々



やさしいたっぷり
クリスマス
ピザ

ピザ生地は
なんと ピンロールの中
でつくれるよ！



生地のむきをかえて
うすくのぼそう！



ぼんぼんっ
ここだよ！たくさんたこう

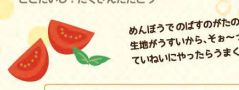


もみもみ

ぎゅっぎゅっ
おしつぶすーおじりたむ

うまっ

めんぼうでのばすのがたのしかったよ！
生地がうすいから、そーっと
ていねいにやたらうまかったです！



【ざいりょう】
●ピザ生地
●はくき粉50g
●オリーブオイル(あれば) 大さじ2
●塩ひとつまみ

【つくりかた】
●ピザ生地をのばす中に、①のざいりょうを入れて、②の下のからポンポンとたたき、
③のくろの上から生地をよみで、まとめる。
④のくろの上から手のひらでつぶす。おじりたむを20回くらい返す。
⑤のくろの口をねじって空気をはき、ねかす。この間に具をじゃみ、
⑥のくろの口をねじって生地を、⑦のくろのまん中におき、大さじ1くらいのはくき粉をまぶす。
⑧のくろの上からぎゅっとおしつぶした生地をめんぼうでのばす。
⑨のばした生地を⑩のくろからとり出してクッキングシートの上におき、クリームチーズを
ぎんぱんにちゅんちゅんおいて、クチャップをぬる。
⑪具をのせて、チーズをちらしたら、オーブントースターで15分くらい焼いてできあがり！
(トースターが熱いのでご注意ください！)

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

【お楽しみ】

「ぼこっくらぶ」のメンバーを募集します！

お料理体験レポート、楽しんでもらえませんか？これからも「ぼこっ」が
興味を持ったことを取り上げて、「てびつと選べる」でどんどんお伝えしてい
くと思っています！そこで、実際にいろいろお話を体験したり、取り上げ
たテーマについて、アンケートなどおもしろいお話を聞かせてもらったり、こ
のページに参加してもらえらる「ぼこっくらぶ」のメンバーを募集します。
元気なエコチルキッズたちのたくさんのお話を待っています。

【応募条件】
エコチルキッズに所属しているお子さん(小学生以下)で、お料理が大好きで、
お料理の経験(ニクキムも可)を聞かせていただくことをご承諾ください。

【応募方法】
メールまたはハガキにて下記の必要事項をご記入の上、ご応募ください。

①お名前(お姓・お名) ②お住所(お名前・お住所) ③お電話番号(お名前・お住所) ④お料理の経験(お名前・お住所)

⑤お料理の経験(お名前・お住所) ⑥お料理の経験(お名前・お住所) ⑦お料理の経験(お名前・お住所)

⑧お料理の経験(お名前・お住所) ⑨お料理の経験(お名前・お住所) ⑩お料理の経験(お名前・お住所)

⑪お料理の経験(お名前・お住所) ⑫お料理の経験(お名前・お住所) ⑬お料理の経験(お名前・お住所)

⑭お料理の経験(お名前・お住所) ⑮お料理の経験(お名前・お住所) ⑯お料理の経験(お名前・お住所)

⑰お料理の経験(お名前・お住所) ⑱お料理の経験(お名前・お住所) ⑲お料理の経験(お名前・お住所)

⑳お料理の経験(お名前・お住所) ㉑お料理の経験(お名前・お住所) ㉒お料理の経験(お名前・お住所)

㉓お料理の経験(お名前・お住所) ㉔お料理の経験(お名前・お住所) ㉕お料理の経験(お名前・お住所)

㉖お料理の経験(お名前・お住所) ㉗お料理の経験(お名前・お住所) ㉘お料理の経験(お名前・お住所)

㉙お料理の経験(お名前・お住所) ㉚お料理の経験(お名前・お住所) ㉛お料理の経験(お名前・お住所)

㉜お料理の経験(お名前・お住所) ㉝お料理の経験(お名前・お住所) ㉞お料理の経験(お名前・お住所)

㉟お料理の経験(お名前・お住所) ㊱お料理の経験(お名前・お住所) ㊲お料理の経験(お名前・お住所)

㊳お料理の経験(お名前・お住所) ㊴お料理の経験(お名前・お住所) ㊵お料理の経験(お名前・お住所)

㊶お料理の経験(お名前・お住所) ㊷お料理の経験(お名前・お住所) ㊸お料理の経験(お名前・お住所)

㊹お料理の経験(お名前・お住所) ㊺お料理の経験(お名前・お住所) ㊻お料理の経験(お名前・お住所)

㊼お料理の経験(お名前・お住所) ㊽お料理の経験(お名前・お住所) ㊾お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所) ㊿お料理の経験(お名前・お住所)

< 参考資料 2 >

8 歳学童期検査・総合健診
新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

2020 年 6 月 23 日 Ver.1.0

エコチル調査甲信ユニットセンター
エコチル  やまなし

目次

1. 甲信ユニットセンターにおける新型コロナウイルス感染症対策の考え方	1
【濃厚接触者の定義】	1
2. 2020 年度の実施日程について	1
3. 予約枠の調整について	2
【1 人の所要時間】	2
【パターン 1】	2
【パターン 2】	3
4. 参加者と検査スタッフの体調チェックについて	4
【検査前】	4
【検査当日】	5
【検査後】	5
5. 検査会場の設営と衛生管理について	6
【会場入口】	6
【受付】	6
【インフォームド・コンセント（IC）の受領】	6
【発達検査（CAT）】	6
【身長・体組成・腹囲大腿囲測定】	6
【重心動揺計測定】	6
【手のひらコピー】	7
【眼科健診】	7
【歯科健診】	7
【採血】	7
【確認作業・結果返却】	7
【謝礼】	7
【待合室】	7
【トイレ】	8
6. 山梨大学医学部キャンパス建物配置図	8
7. 検査会場配置図	9
8. 各会場のスタッフ数と配置する衛生用品	10
別添 1 参加者への案内状	11
別添 2-1 新型コロナウイルス感染拡大防止のための検査前問診票	12
別添 2-2 検査スタッフ用問診票	13
別添 3 採血マニュアル（採血スタッフ 2 人バージョン）	14
別添 4 「濃厚接触者」の定義について	15
別添 5 会場レイアウト	17

1. 甲信ユニットセンターにおける新型コロナウイルス感染症対策の考え方

新型コロナウイルスの日本の累計感染者数は17,238人、そのうち未成年者は702人です（6月14日現在）。子どもの感染確認例は大人に比べて非常に少なく、昨今の子どものPCR検査陽性例から見ても無症状のケースがほとんどで、重症化しにくいということが分かってきました。一方、無症状者が多いことを考えると、感染したという自覚がないまま検査を受けに来る参加者や、スタッフの中にも感染者がいるかもしれないということを想定しなければなりません。さらに、PCR検査の感度が70%であることを考えると、濃厚接触者等のPCR陰性証明はその程度の意味しかありません。これらを踏まえ、甲信ユニットセンター（エコチルやまなし）における新型コロナウイルス感染症拡大予防は、「発生すること」を念頭に置いたうえで、「濃厚接触者」を出さないという視点から対策を講じることを基本とします。

【濃厚接触者の定義】

「濃厚接触者」とは、新型コロナウイルス感染症患者の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。（接触した日の始まりは「発病した日の2日前」とする）

- ・ 患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・ 適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者
- ・ 患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者
- ・ その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。

新型コロナウイルス感染症患者に対する積極的疫学調査実施要領

（国立感染症研究所感染症疫学センター：令和2年4月20日版）より

濃厚接触者の定義を踏まえ、エコチルやまなしの学童期検査及び総合健診における新型コロナウイルス感染症対策の基本方針を以下の通りとします。

- ① 検査スタッフは日ごろから体調管理に留意し、毎日、体温測定と体調チェックを行う。
- ② 検査参加者とその同居家族の体調確認を行う。
- ③ 検査は個別に個室で行う。
- ④ 受付や保護者待合室は、他者との間隔が1メートル以上となるようレイアウトを工夫する。
- ⑤ 検査の際には、参加者及び検査スタッフ全員がマスクを着用する。
- ⑥ 検査の開始前と終了後には必ず、また検査中も必要に応じて石鹸による手洗いをを行う。
- ⑦ 手指消毒液と使用機器の消毒液を各部屋に配備し、適正に使用する。
- ⑧ 他者との距離を1メートル以上取り、接触時間は15分以内を心がける。

2. 2020年度の実施日程について

年度当初は、毎月1回連続した土日2日間を実施日として、年間24日を予定したが、新型コロナウイルス感染症の影響で、4月～6月の6日分が中止となった。このため、予約していた131人については、7月と9月の4連休合わせて8日間で再調整する。

- ・ 4月18日、19日→中止 予約者58人
- ・ 5月16日、17日→中止 予約者50人
- ・ 6月13日、14日→中止 予約者23人

予約者計131人を
7月23日、24日、25日、26日と
9月19日、20日、21日、22日で再調整

- ・7月4日、5日
- ・8月1日、2日
- ・9月5日、6日
- ・10月10日、11日
- ・11月28日、29日
- ・12月19、20日
- ・1月23日、24日
- ・2月6日、7日
- ・3月6日、7日

3. 予約枠の調整について

これまでは午前中 9:00～10:30、午後 13:00～14:30 までを受付時間とし、15 分の枠に 3 人ずつ合わせて 36 人を 1 日の検査で受け入れていた。今後は検査時のいわゆる「3 密（密閉、密集、密接）」を防ぐため、次の 2 パターンでの受け入れを検討する。

【1 人の所要時間】

受付→CAT→身体計測→重心動揺計検査→手のひらコピー→眼科健診→歯科健診→採血→確認作業・結果返却→謝礼の順で実施し、1 人に付き、1 時間 45 分かかるものとする。

受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認	
15分	30分	10分	10分	10分	10分	10分	10分	⇒ 合計105分

【パターン 1】

検査のタイムテーブル：午前中 8:45～11:15 まで、午後 12:45～15:15 までを受付時間とし、15 分ごとに 1 人の予約枠で午前、午後各 10 人ずつ、1 日 20 人を受け入れる。CAT は 2 部屋、身体計測と採血は 1 部屋で回すことが可能。

	午前 8:45	9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30		
午後	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30		
1	受付	CAT		計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認									
2		受付	CAT		計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認								
3		受付		CAT		計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
4			受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認						
5				受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認					
6					受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認				
7						受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認			
8							受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認		
9								受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認	
10									受付	CAT			計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認

待合室のタイムテーブル：子どもが「CAT、身体計測、重心動揺、手のひらコピー、眼科健診、歯科健診に行っている間＝70分」は、付添者は待合室で待ってもらおうとすると、最大5人の付添者が、待合室にいる可能性がある。

午前	8:45	9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30
午後	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																

【パターン2】

検査のタイムテーブル：午前中8：45～11：15まで、午後12：45～15：15までを受付時間とし、15分ごとに1人～2人の予約枠で午前、午後各15人ずつ、1日30人を受け入れる。CATは3部屋、身体計測と採血は2部屋で回すことが可能。

午前	8:45	9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30
午後	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30
1	受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認								
2																
3		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
4																
5		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
6																
7		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
8																
9		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
10																
11		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
12																
13		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							
14																
15		受付	CAT	計測	動揺・手	眼科	歯科	採血	確認							

待合室のタイムテーブル：子どもが「CAT、身体計測、重心動揺、手のひらコピー、眼科健診、歯科健診に行っている間＝70分」は、付添者は待合室で待ってもらおうとすると、最大8人の付添者が、待合室にいる可能性がある。

午前	8:45	9:00	9:15	9:30	9:45	10:00	10:15	10:30	10:45	11:00	11:15	11:30	11:45	12:00	12:15	12:30
午後	12:45	13:00	13:15	13:30	13:45	14:00	14:15	14:30	14:45	15:00	15:15	15:30	15:45	16:00	16:15	16:30
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
9																
10																
11																
12																
13																
14																
15																

4. 参加者と検査スタッフの体調チェックについて

【検査前】

- ① 検査に関わる全スタッフは、毎日検温を行う。また、勤務中はマスクを着用し、咳嗽・呼吸苦・鼻汁・咽頭痛・嗅覚異常・味覚異常・全身倦怠感・食思不振などの出現に注意を払う。
- ② スタッフに症状がみられた場合は、以下の対応をとる。

〈学内スタッフの場合〉

- 山梨大学医学域総務課人事グループ（電話 055-273-9186）に連絡し、山梨大学医学部附属病院の発熱外来当番医に予約を入れてもらう。

↓

- 発熱外来からの連絡を待って受診する。

↓

- 診断結果を事務局長に報告し、事務局長はリスク管理責任者とユニットセンター長に報告する。

↓

- 新型コロナウイルス感染症と診断された場合は医師と保健所の指示に従う。ユニットセンター長から環境省・コアセンターに連絡する。
- 新型コロナウイルス感染症ではなかった場合（PCR 検査陰性）は解熱後 2 日を経過し、かつ症状が消失するまで自宅で療養する。

※総合健診の検査スタッフは、各講座のルールに則って対応する。総合健診の検査項目を中止とする場合は、検査日の前日までに必ずユニットセンター事務局長（PHS:4133、携帯:080-3408-0758）に連絡する。

〈委託業者スタッフの場合〉

- 発熱や風邪症状など、新型コロナウイルス感染症が疑われる症状が出た場合の対応について、各企業の定めるルールに則って受診してもらう。

↓

- 新型コロナウイルス感染症と診断された場合は医師と保健所の指示に従う。委託している学童期検査業務はほかのスタッフに担当してもらう。委託業務全体を停止せざるを得ない場合は、甲信ユニットセンター（電話 055-273-1258）事務局長まで連絡する。

↓

- 事務局長はリスク管理責任者とユニットセンター長に報告する。

↓

- ユニットセンター長は個人情報に配慮し、必要に応じて環境省・コアセンターへ連絡する。

- ③ スタッフが新型コロナウイルス感染症患者の濃厚接触者と認定された場合は以下の対応を取る。

〈学内スタッフの場合〉

- 「濃厚接触者」と認定された事実と経過を事務局長に報告する。

↓

- 患者と最後に接触した日から 14 日間の就業制限が発生するため、その期間は自宅待機とする。

注意事項！

- ・飲食は家族と一緒にとらない ・自宅から外に出ない ・濃厚接触者が使うトイレは 1 日 2 回以上清掃する
- ・濃厚接触者と子どもの添い寝は禁止。1 メートル以上離れる ・適宜 PCR 検査を受ける

↓

- 事務局長はリスク管理責任者とユニットセンター長に報告し、ユニットセンター長から環境省・コアセンターへ連絡する。

※総合健診の検査スタッフは、各講座のルールに則って対応する。総合健診の検査項目を中止とする場合は、検査日の前日まで必ずユニットセンター事務局長（PHS:4133、携帯:080-3408-0758）に連絡する。

〈委託業者スタッフの場合〉

- 各企業のルールに則って対応する。14 日間の就業制限中は自宅待機してもらう。

↓

- 委託している学童期検査業務はほかのスタッフに担当してもらう。委託業務全体を停止せざるを得ない場合は、甲信ユニットセンター（電話 055-273-1258）事務局長まで連絡する。

↓

- 事務局長はリスク管理責任者とユニットセンター長に報告する。

↓

- ユニットセンター長は個人情報に配慮し、必要に応じて環境省・コアセンターへ連絡する。

④ 参加者には、注意喚起のお知らせ文を送る（別添 1）

⑤ 参加者には検査予定日の 3～4 日前に事前連絡の電話かけを行い、参加児本人と付添者及び同居家族の体調を確認する。発熱、倦怠感、味覚・嗅覚の障害、咳やのどの痛みなどの症状がみられる場合及び、感染者の濃厚接触者となった場合には、検査を中止または延期する。

【検査当日】

- ① 検査に関わる全スタッフ及び参加児と付添者は、問診票（別添 2）を記入して当日持参する。
- ② 参加児と付添者は 37 度以上の熱や風邪症状があった場合は UC の携帯電話に連絡するよう案内する。
- ③ スタッフの問診票チェックは、出生コホート研究センターの教員が行う。
- ④ 来場した参加児と付添者は、検査会場入口で非接触型体温計による体温測定を行う。この時点で 37.0℃以上の熱が確認された場合は、参加を検討する（平熱と比較し、発熱と思われる場合は調査を中止または延期する）。
- ⑤ 参加児は、IC 時に再度腋窩で体温測定を行う。
- ⑥ IC 時に IC 担当スタッフが、参加児と付添者の問診票チェックを行う。

【検査後】

- ① 検査スタッフや参加者に患者が発生し、発病した 2 日前にさかのぼって学童期検査・総合健診が行われていた場合、検査に関わっていたスタッフや参加者に対して保健所による濃厚接触者の調査が行われる可能性がある。調査には真摯に対応するとともに、その状況と対応について、ユニットセンター長が環境省・コアセンターに連絡する。

重要！

学童期検査・総合健診を行う際には、検査後に患者が発生した場合に濃厚接触者に同定されないような対策を取っておくこと

5. 検査会場の設営と衛生管理について

【会場入口】看護学科教育研究棟 1 階正面玄関

- ① UC の進行管理スタッフ 1 名を配置する。
- ② 会場入口での非接触型体温計による体温測定が終わったら、参加児と付添者をロビー横の洗面台に誘導し、ハンドソープと流水で手を洗ってもらう。
- ③ 検査終了後、帰宅する前にも参加児と付添者をロビー横の洗面台に誘導し、ハンドソープと流水で手を洗ってもらう。

【受付】講義室 8107

- ① UC の事務スタッフ 2 名を配置する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。
- ③ 幅 45 cm の机を 2 台つなげてブースを作り、参加児・付添者と対面する際の距離を確保する。
- ④ 付添者から参加児の尿検体を受け取ったら手指消毒を行う。

【インフォームド・コンセント（IC）の受領】講義室 8107

- ① UC の RC または事務スタッフ 3 名を配置する。
- ② IC ブースは各列 1 か所ずつ、机を 2 台つなげて計 3 か所作り、ブース同士の距離をなるべく取って設営する。
- ③ 参加親子 1 組への IC が終わるごとに、机や使用物品（体温計など）をショードックスーパーで拭く。
- ④ 同意書・質問票・アンケートなどの記入用のボールペンは、通し番号と同じ番号を振って、個別のメッシュケースに入れておく。IC 時に付添者に渡し、その日はそのボールペンのみ使用してもらう。検査後のアンケートと一緒に回収し、消毒してから保管する。

【発達検査（CAT）】演習室 7・8・9

- ① 各部屋にハンデックススタッフを 1 名ずつ配置する。ハンデックスの CAT リーダー 1 名は廊下に待機する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する（音と匂いに注意。参加児の気が散るようなら検査が終了した後に窓を開け、換気扇を回す）。
- ③ ドアノブや入室時刻記入用のホワイトボードなどは、廊下にいる UC の進行管理スタッフが定期的にショードックスーパーで拭く。
- ④ 検査後に参加児、スタッフともに室内の洗面台に置いたハンドソープと流水で手を洗う。
- ⑤ 机・パソコン・マウスなどは、参加児が退室した後にハンデックススタッフが 3M オフィスクリーナーで拭く。

【身長・体組成・腹囲大腿囲測定】演習室 1

- ① 各部屋にハンデックススタッフを 2 名ずつ配置する。ハンデックスの身体計測リーダー 1 名は廊下に待機する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは閉めておく。
- ③ 体組成計測前に参加児の手足をスコッティウエットティッシュ・純水 99% で拭く。
- ④ 計測後に身長計と体組成計、プリンター、机をクリアパワーで拭く。
- ⑤ 計測前後に、メジャーをクリアパワーで拭く。

【重心動揺計測定】演習室 2

- ① 整形外科スタッフ 1 名を配置する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは開けておく。

- ③ 計測後に重心動揺計やいすをクリアパワーで拭く。

【手のひらコピー】 演習室 2

- ① 泌尿器科スタッフ 1 名を配置する。
- ② 使用後のコピー機はクリアパワーで拭く。
- ③ 子どもの手はスコッティウエットティッシュ純水 99%で拭く。

【眼科健診】 演習室 3

- ① 眼科スタッフ 2 名を配置する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは開けておく。
- ③ 機器や椅子など参加児が触れた部分はショードックスーパーで拭く。

【歯科健診】 演習室 6

- ① 歯科口腔外科のスタッフ 2 名を配置する。検査者は個人防護具（PPE : personal protective equipment）対応とする。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは開けておく。
- ③ 参加児が触れた部分はショードックスーパーで拭く。
- ④ うがいなど必要に応じて洗面台を使用する。

【採血】 演習室 4・5（詳細は「別添 3」を参照）

- ① UC が契約した採血スタッフ 2 名を配置する。使い捨て手袋を着用する。
- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは開けておく。
- ③ プレパレーション、ディストラクションに iPad は使用しない。
- ④ 止血バンドは使用しない。
- ⑤ ポータブル DVD プレイヤーはアルコール綿で拭く。
- ⑥ 机や椅子はルビスタで拭く。

【確認作業・結果返却】 8107 講義室

- ① UC の RC または事務スタッフ 3 名を配置する（IC と同じメンバーが対応する）。
- ② IC 対応でブースが埋まっていたら、室内には入れず、廊下のベンチで待機してもらう。
- ③ IC 時に渡したボールペンで事後アンケートを記入してもらう。
- ④ 参加児に学童期検査のお礼（知育パズル 4 種類）の写真を見せて、1 種類を選んでもらう。
- ⑤ スタンブラリーは実施しない。

【謝礼】 8107 講義室

- ① UC の事務スタッフ 2 名を配置する（受付と同じメンバーが対応する）。
- ② 受付が埋まっていたら、廊下のベンチで待機してもらう。
- ③ IC 時に渡したボールペンで受領書にサインをもらう。その後ボールペンを回収し、個別のメッシュバッグに入れる。
- ④ メッシュバッグごと回収し、コンテナボックスに入れる。

【待合室】 8109 講義室

- ① 社会医学講座スタッフまたは UC の進行管理スタッフ 1 名を配置する。

- ② 常に窓を開けておき、換気扇を使用する。入口のドアは開けておく。
- ③ 付添者を席に案内する際、3人掛けの机を1人で使用するように配置し、前後も1列開けて他者との距離を取る。
- ④ 子どもの遊び場、ベビーベッド、雑誌類、スマホ充電器などは置かない。待合室用のボールペンも用意しない。

【トイレ】

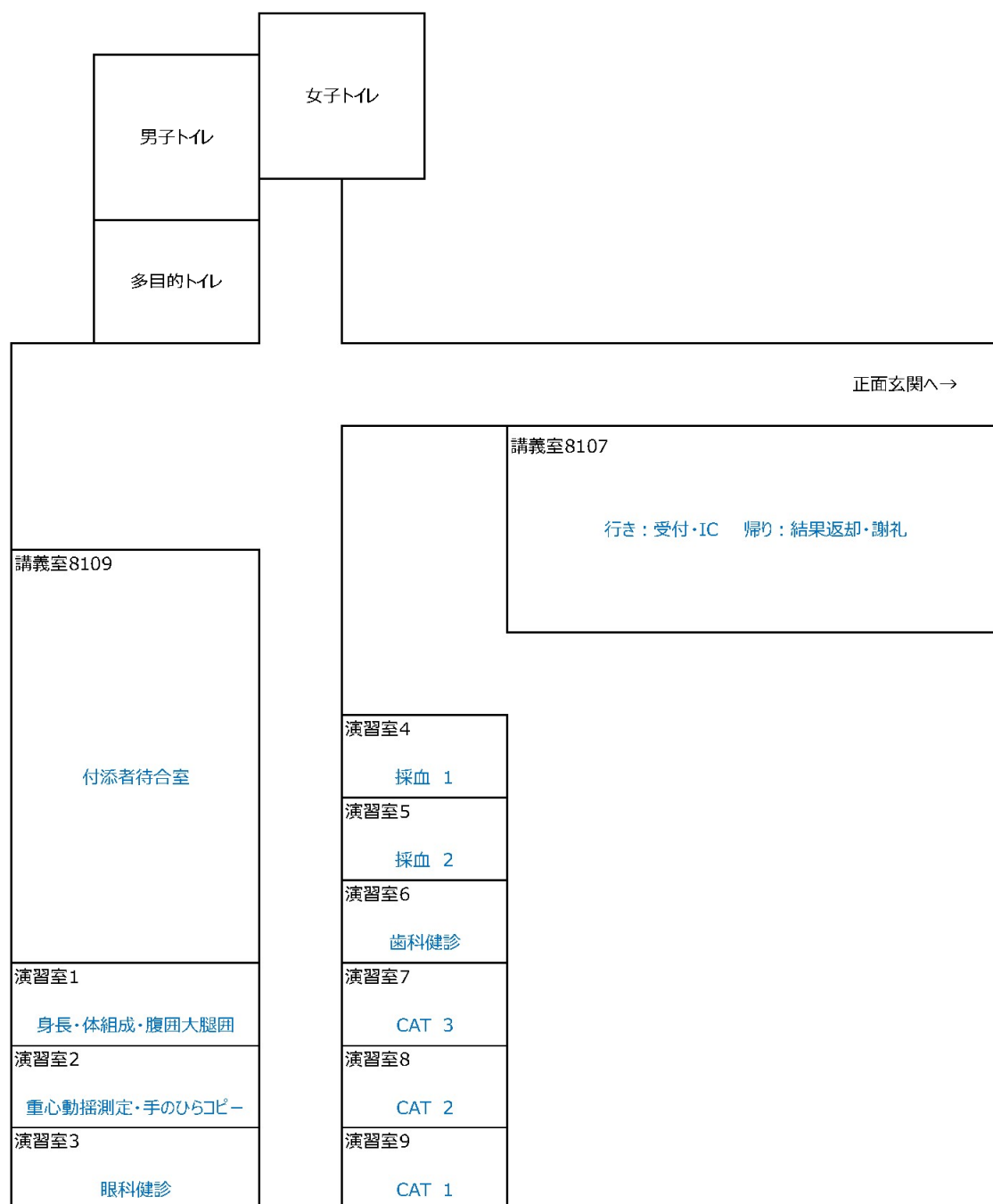
- ① 常に入口の扉を開けておいて換気する。
- ② 検査日の朝、昼、夕方その後片付けの際に、便座はトイレクイックルで、ドアノブや洗面台は次亜塩素酸ナトリウムで拭く。
- ③ 洗面台にハンドソープとペーパータオル、ゴミ袋を置く。
- ④ ゴミ袋は午前中の検査終了後に1度、空にする。

6. 山梨大学医学部キャンパス建物配置図

学童期検査・総合健診の会場は看護学科教育研究棟1階に設営する。山梨大学医学部附属病院とは駐車場を含めて別の建物であり、病院の患者や利用者と接触することはない。



7. 検査会場配置図



8. 各会場のスタッフ数と配置する衛生用品

				衛生用品：設置するもの									
	検査会場	スタッフ人数		ビ オ レ U 手 指 消 毒 液	シ ヨ ー ド ツ ク ス ー パ ー 大	シ ヨ ー ド ツ ク ス ー パ ー 小	ク リ ア パ ワ ー 大	ク リ ア パ ワ ー 小	3 M オ フ イ ス ク リ ー ナ ー	ル ビ ス タ	ウ エ ッ ト テ ィ シ ュ ー 純 水 9 9 %	ハ ン ド ソ ー プ	ペ ー パ ー タ オ ル
		7/4・5	以降										
入口洗面台	ホール	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
受付	講義室 8107	2	2	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0
IC	講義室 8107	2	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
CAT	演習室 7・8・9	2	3	3	0	0	0	0	3	0	0	3	3
身長・体組成・腹囲大腿囲	演習室 1	3	5	2	0	0	2	0	0	0	2	1	1
重心動揺測定	演習室 2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
手のひらコピー	演習室 2	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0
眼科健診	演習室 3	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
歯科健診	演習室 6	2	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1
採血	演習室 4・5	2	4	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0
待合室	講義室 8109	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
廊下		3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
トイレ				0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計		22	28	15	2	2	2	2	3	2	4	7	8

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐため、以下の点にご協力をお願いします！

- ① 学童期検査にご参加いただく際は、**8歳のお子さんご本人と、付き添いの保護者の方1名の2名でお越しください。**いわゆる「3密(密閉、密集、密接)」を回避する観点から、兄弟姉妹やそのほかのご家族の同伴はご遠慮ください。
- ② **検査予定日の3～4日前に、ユニットセンターのスタッフがお電話をかけ、お子さんご本人と、同居されているご家族皆さまの体調の確認をさせていただきます。**発熱、倦怠感、味覚・嗅覚の障害、咳やのどの痛みなどの症状がみられる場合、及び感染者の濃厚接触者となった場合は、検査を中止または延期させていただきます。



- ③ 検査当日の朝、ご自宅でお子さんと付き添いの方の体温を測り、別添**「新型コロナウイルス感染拡大防止のための検査前問診票」**をご記入のうえ、**お持ちください。**その際、37度以上の発熱や風邪症状があった場合は、検査を中止または延期とさせていただきます可能性がありますので、**必ず下記の携帯電話にお電話ください。**検査当日の緊急連絡もこちらの携帯電話をお願いします。

検査日が土曜日の方 携帯電話 080-4342-6793
検査日が日曜日の方 携帯電話 080-4342-6794

- ④ 検査会場に来られる際には、**必ずマスクを着用してください。**ご家庭にない場合はこちらでご用意いたしますので、受付のスタッフにお申し出ください。 
- ⑤ 山梨大学では学童期検査の追加調査として、複数の診療科の健診や採血などを行う「総合健診」を実施しております。健診の内容や項目については、感染症予防の観点から変更または中止となる場合があることをご了承ください。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症をとりまく様々な状況によっては、再び学童期検査自体が中止となる可能性があります。その際は検査予定日の3～4日前までにご連絡いたします。
- ⑦ その他、何か不明な点や心配なことがありましたら、ご遠慮なくユニットセンターまでお問合せください。

※医療的なケアが必要なお子さんや持病があるお子さんは、予防的観点から検査を控えさせていただきたいと存じます。詳細につきましてはユニットセンターにご相談ください。

エコチル調査甲信ユニットセンター
センター長 山縣然太郎

ご不明な点はお気軽にお問合せください。
エコチル調査甲信ユニットセンター
電話:055-273-1258 (土日祝日除く 9:00～17:00)



8歳学童期検査・総合健診

新型コロナウイルス感染拡大防止のための検査前問診票

記入日 2020 年 月 日

	お子さま	付添者	同居のご家族の様子
お名前			
当日の体温	_____℃	_____℃	

過去2週間以内に以下の症状がありますか。 あてはまるものに、○をつけてください。

「あり」に○をつけた場合は、詳細のご記入をお願いいたします。

37.5度以上の発熱	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
咳	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
息苦しさ	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
鼻水	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
のどの痛み	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
においを感じない (分かりづらい)	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
味を感じない (分かりづらい)	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
身体のだるさ	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
食べたくない	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()
周囲の感染者 または感染疑い	なし あり ()	なし あり ()	なし あり ()

特記事項（体調面で気になることがありましたらご記入ください）

8歳学童期検査・総合健診スタッフ

新型コロナウイルス感染拡大防止のための検査前問診票

	記入日	年	月	日
	本人	同居のご家族の様子		
名 前				
当日の体温	_____・_____℃			

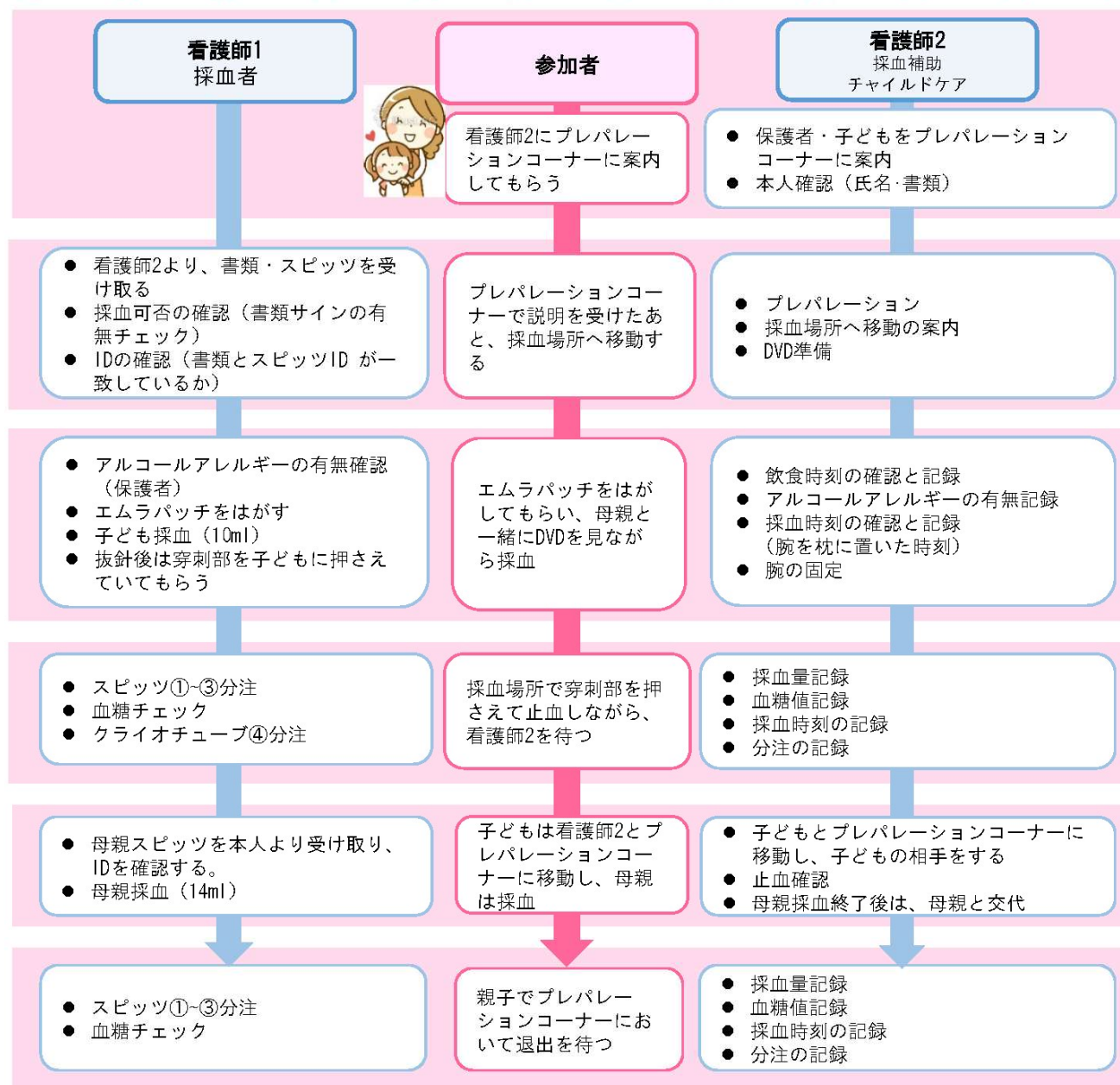
過去2週間以内に以下の症状がありますか。 あてはまるものに、○をつけてください。

「あり」に○をつけた場合は、詳細のご記入をお願いいたします。

37.5度以上の発熱	なし あり ()	なし あり ()
咳	なし あり ()	なし あり ()
息苦しさ	なし あり ()	なし あり ()
鼻水	なし あり ()	なし あり ()
のどの痛み	なし あり ()	なし あり ()
においを感じない (分かりづらい)	なし あり ()	なし あり ()
味を感じない (分かりづらい)	なし あり ()	なし あり ()
身体のだるさ	なし あり ()	なし あり ()
食べたくない	なし あり ()	なし あり ()
周囲の感染者 または感染疑い	なし あり ()	なし あり ()

特記事項（体調面で気になることがありましたらご記入ください）

採血マニュアル 【採血スタッフ2人バージョン】



* 基本的には子どもの採血を先に実施する。様子で母親が先でも良い。

* 採血部位に異常がある場合、医師に採血可否を確認し、記録の特記事項に記載する。

* 止血バンドは感染予防から使用しない



14



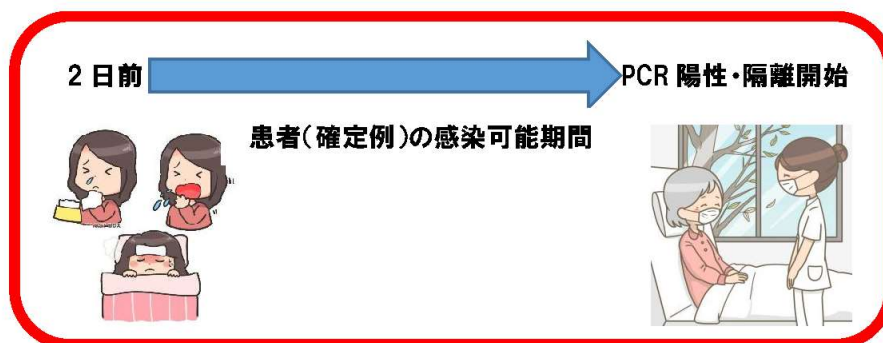
濃厚接触者の定義について 2020 年 4 月 20 日（国立感染症研究所）

2020. 4. 22 山縣作図



「患者（確定例）の感染可能期間」とは、発熱及び咳・呼吸困難などの急性の呼吸器症状を含めた新型コロナウイルス感染症を疑う症状（以下参照）を呈した 2 日前から隔離開始までの間、とする。

* 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など



● 「濃厚接触者」とは、「患者（確定例）」の感染可能期間に接触した者のうち、次の範囲に該当する者である。

①患者（確定例）と同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者



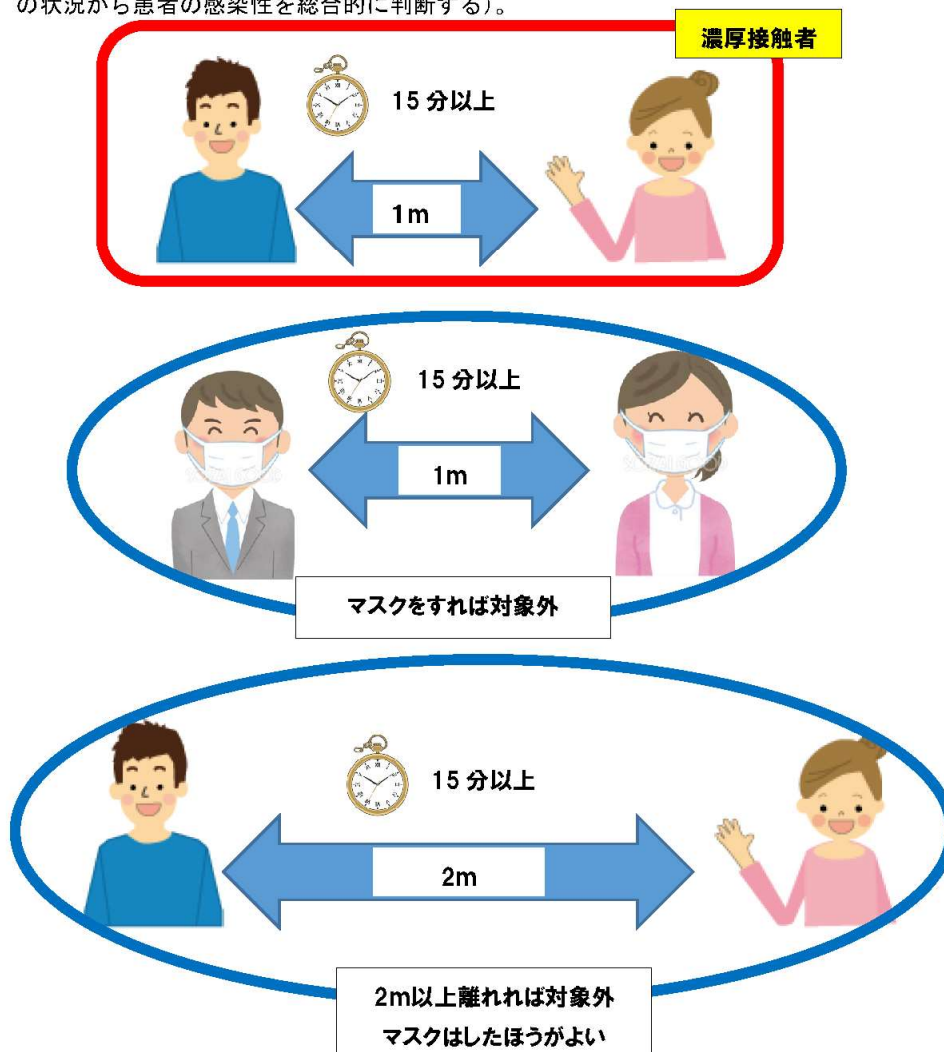
②適切な感染防護無しに患者（確定例）を診察、看護若しくは介護していた者



③患者（確定例）の気道分泌液もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者



④その他：手で触れることの出来る距離（目安として1メートル）で、必要な感染予防策なしで、「患者（確定例）」と15分以上の接触があった者（周辺の環境や接触の状況等個々の状況から患者の感染性を総合的に判断する）。



別添 5

20年度版

持込み備品

…クロスパネル
W900×H1800(足奥行350)

…スクリーンパーテーション
W1200×H1600(足奥行350)

…テーブル(大学備品)
W1300×D600

…イス(大学備品)
W450×D450

…テーブル(大学備品)
W1800×D450

■ 演習室1,2 設置イメージ



■ スクリーンパーテーションには必要に応じて結束してください



■ プールスペース 使用イメージ 非常口への動線は開けてください



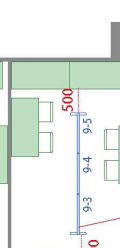
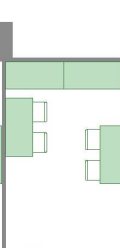
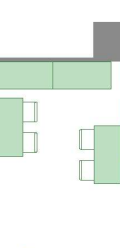
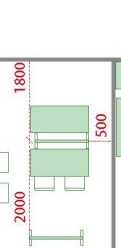
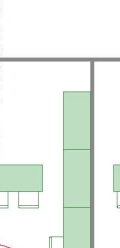
各部屋に必要な
テーブル、イスの個数

※この教室はそのまま使用
もしくはイスの間引きを行う

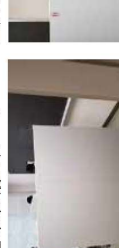
■ 演習室4,5 設置イメージ



※テーブル向き注意



■ 演習室7,8,9 設置イメージ



講義室8107



※3箇所に向い合せテーブル
※大まかな位置関係です
(周りのテーブル、イスは残る)



※十分な距離を
空けて設置



◎ 設営の段取り
1、室内に必要な分のテーブル、イスを残して
レイアウトに沿って移動します。

2、使用しないテーブル、イス、備品等はレイ
アウト下部のブルスペースへ移動します。

3、2種類のパーテーションを組み立て、レイ
アウトに沿って設置してください。

4、撤去時は備品、各部屋ともに現状復帰を
してください。



スクリーンパーテーションは
骨組みに布地を被せてください



クロスパネルは脚を
取付けてください

＜参考資料 3＞

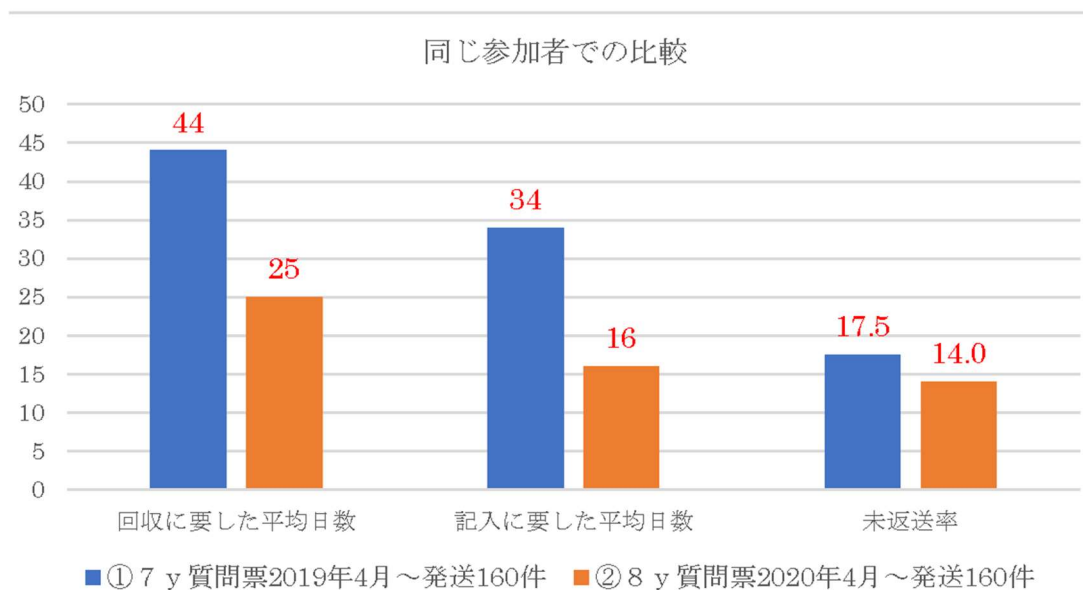
エコチル調査・成果発表ステータス【誌上発表】

[illegible]

[illegible]

【甲信サブユニットセンター（信州大学）】

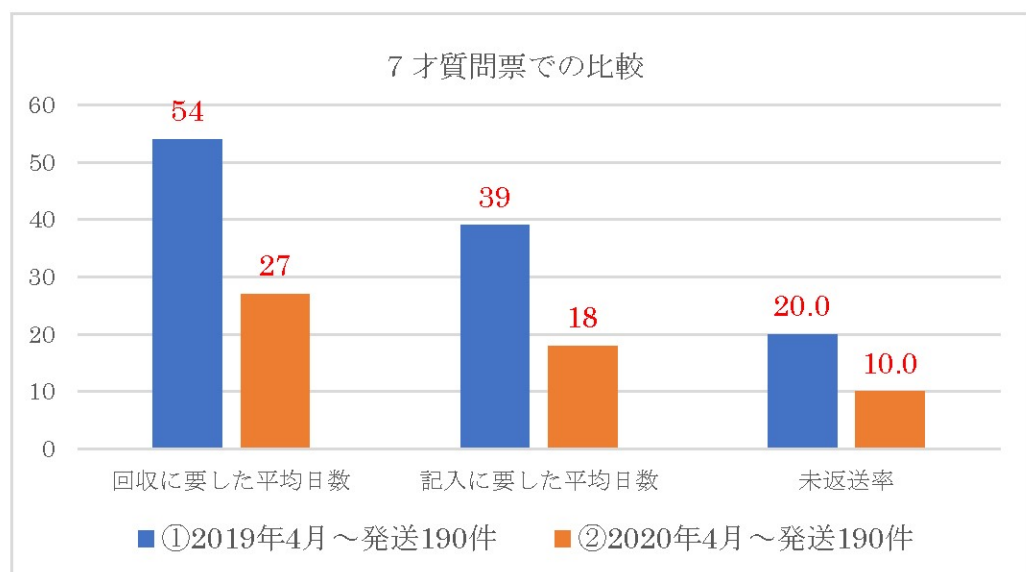
(P) 計画	【イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組】 日常の業務量を増やさずにできる新しい返送依頼方法はないか検討した。質問票発送後の再アプローチではなく「質問票発送時点でできることはないか」と考えた。
(D) 実施	質問票の発送時にコアセンター作成の協力依頼状を同封している。パッと見た瞬間に目に留まる部分がないため、しっかり内容に目を通してもらいにくいのではと思った。そこで協力依頼状の内容は変えずに、参加者の手元に届いた質問票の返送を促すために一番重要であると思われる「<u>届いてから2週間を目安にご回答いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください</u>」という一文にのみ、黄色のマーカーで強調して送付することとした。
(C) 評価	まず、同一の参加者 160 人で比較した。 ①の 2019 年 4 月発送の<u>マーカーなし 7 歳質問票グループ</u>と②の 2020 年 4 月発送の<u>マーカーあり 8 歳質問票グループ</u>で比べると、①は返送までの平均日数が 44 日だったのに対し、②は 25 日と<u>質問票の受け取りから返送までの時間が 19 日も大幅に短縮</u>された。また、質問票の受け取りから記入までの平均日数を見ると、①は 34 日であるのに対し、②では 16 日とこちらも 18 日早くなった。それぞれの未回収率は①は 17.5%、②は 14%と返送への意識が高まったことが分かる。 8 歳質問票は 7 歳質問票に比べてボリュームがあるため、質問票の記入に取り掛かるのに時間がかかるのではと思っていたが、データを見ると黄色のマーカーを入れたことによる視覚的な効果があったのではないかと評価できる。



しかしこの変化は子の年齢が上がったことにより、参加者が質問票への回答や送付に対応できる時間的な余裕などの影響も考えられるので、異なる参加者で同じ7歳質問票での比較も行った。

できるだけ同じ条件になるよう発送時期を合わせ、①のマーカールなし 2019 年 4 月からの発送グループ、②のマーカールあり 2020 年 4 月からの発送グループに分け、各 190 人のデータを調べた。すると①は質問票の受け取りから返送までの平均日数が 54 日であるのに対し、②のグループでは 27 日とこちらも明らかに日数が短くなっていた。

受け取りから記入までに掛かった日数を比べると①38 日、②18 日であり、20 日も質問票記入への取り掛かりが早くなっていた。また質問票の未返送率を見ると①20%、②10%とこちらも半分に低下した。



	以上2つの検討結果から、送付状に黄色のマーカーを入れて送付することは有効であることがわかった。これまでの「参加者へ過去の質問票返送を促すためのアプローチ」に加え、送られてきた質問票の返送に繋がる効果的な取組として「参加者自身の返送意識を高めてもらうためのアプローチ」を確立することができた。 信州大学では、質問票を返送してくださった参加者へのノベルティプレゼント等の取り組みを一切行っておらず、今後も行いう予定はない。これまでも物に頼らずアイデアと工夫だけで回収率を高水準で維持してきた。今回、返送に繋がる新しいアプローチ方法を実行し、実際に効果があることが証明できた。この方法は質問票発送時点で実施でき、非常に簡便かつ有効であると考えている。
(A) 改善	今後同じ方法を継続したときに参加者が黄色マーカーの入った状態のものに見慣れて、効果が薄れる可能性がある。 そのため、毎日集計している質問票回収数のデータを注視しながら、必要な場合にはすぐに問題点の検出、アプローチ方法の再検討を行い回収率の維持と向上に努めなければならない。 参加者にできるだけ負担なく質問票の返送をしていただけるよう、次にどのようなアプローチができるかを常に考えながらフォローアップを行っていく必要がある。

<参考データ 同一参加者 7歳・8歳比較明細>

	母親	7y 未回収:35					8y 未回収:28				
	ID	質問票 発送日	質問票記入日	信大受領日	発送から 受領まで	受取から 記入まで	質問票 発送日	質問票記入日	信大受領日	発送から 受領まで	受取から 記入まで
1	M03377	2019/4/1	2019/10/13	2019/10/17	199	195	2020/4/1	2020/4/18	2020/5/7	36	17
2	M01882	2019/4/1	2019/9/29	2019/10/2	184	181	2020/4/1				
3	M03381	2019/4/1	2019/4/24	2019/4/26	25	23	2020/4/1	2020/4/26	2020/5/7	36	25
4	M03044	2019/4/1	2019/4/9	2019/10/25	207	8	2020/4/1	2020/4/5	2020/4/13	12	4
5	M01883	2019/4/1					2020/4/1	2020/5/16	2020/5/21	50	45
6	M03008	2019/4/1	2019/4/15	2019/4/17	16	14	2020/4/1	2020/4/6	2020/4/9	8	5
7	M01565	2019/4/1	2019/11/21	2019/11/25	238	234	2020/4/1				
8	M03007	2019/4/1	2019/4/8	2019/4/10	9	7	2020/4/1	2020/4/10	2020/4/13	12	9
9	M01885	2019/4/1	2019/6/22	2019/6/26	86	82	2020/4/1	2020/5/20	2020/5/25	54	49
10	M01567	2019/4/1	2019/6/10	2019/6/18	78	70	2020/4/1	2020/4/6	2020/5/12	41	5
11	M03006	2019/4/1	2019/10/9	2019/10/16	198	191	2020/4/1	2020/5/30	2020/6/16	76	59
12	M01884	2019/4/1					2020/4/1				
13	M01869	2019/4/1	2019/4/4	2019/5/7	36	3	2020/4/1	2020/4/11	2020/4/16	15	10
14	M03008	2019/4/1	2019/4/4	2019/5/7	36	3	2020/4/1	2020/4/10	2020/4/20	19	9
15	M01878	2019/4/1					2020/4/1				
16	M03008	2019/4/1					2020/4/1	2020/8/31	2020/9/3	155	152
17	M03379	2019/4/1	2019/4/5	2019/4/9	8	4	2020/4/1	2020/4/6	2020/4/14	13	5
18	M01879	2019/4/1	2019/4/7	2019/4/12	11	6	2020/4/1	2020/6/5	2020/6/9	69	65
19	M03044	2019/4/1	2019/4/26	2019/5/7	36	25	2020/4/1	2020/4/14	2020/5/7	36	13
20	M03379	2019/4/1	2019/4/7	2019/4/10	9	6	2020/4/1	2020/5/17	2020/5/19	48	46
21	M03376	2019/4/15					2020/4/13				
22	M03006	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7	3	2020/4/13	2020/4/15	2020/4/20	7	2
23	M03044	2019/4/15	2019/5/19	2019/5/22	37	34	2020/4/13	2020/4/17	2020/4/21	8	4
24	M01567	2019/4/15					2020/4/13	2020/5/20	2020/5/25	42	37
25	M01879	2019/4/15	2019/4/29	2019/5/13	28	14	2020/4/13	2020/5/2	2020/5/11	28	19
26	M03382	2019/4/15					2020/4/13	2020/4/15	2020/5/7	24	2
27	M03044	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7	3	2020/4/13	2020/4/15	2020/5/7	24	2
28	M03375	2019/4/15	2019/5/26	2019/5/29	44	41	2020/4/13	2020/4/19	2020/5/7	24	6
29	M03375	2019/4/15					2020/4/13	2020/5/5	2020/5/11	28	22
30	M03379	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7	3	2020/4/13	2020/4/15	2020/4/20	7	2
31	M03374	2019/4/15	2019/5/4	2019/5/9	24	19	2020/4/13	2020/4/15	2020/4/20	7	2
32	M03381	2019/4/15					2020/4/13				
33	M03378	2019/4/15	2019/5/8	2019/5/13	28	23	2020/4/13	2020/4/26	2020/5/7	24	13
34	M03376	2019/4/15	2019/10/22	2019/11/18	217	190	2020/4/13	2020/8/2	2020/8/18	127	111
35	M03006	2019/4/15					2020/4/13				
36	M03040	2019/4/15	2019/4/29	2019/5/7	22	14	2020/4/13	2020/4/22	2020/5/7	24	9
37	M04275	2019/4/15	2019/9/23	2019/9/26	164	161	2020/4/13				
38	M03376	2019/4/15	2019/6/27	2019/7/17	93	73	2020/4/13	2020/4/25	2020/5/7	24	12
39	M03376	2019/4/15	2019/5/26	2019/6/4	50	41	2020/4/13	2020/4/16	2020/5/7	24	3
40	M01873	2019/4/15	2019/5/15	2019/5/20	35	30	2020/4/13	2020/4/15	2020/4/20	7	2
41	M03380	2019/4/15	2019/4/21	2019/4/24	9	6		取りやめ			
42	M03377	2019/4/15					2020/4/13				
43	M01879	2019/5/7	2019/6/20	2019/6/26	50	44	2020/5/12	2020/10/10	2020/10/14	155	151
44	M03377	2019/5/7	2019/8/30	2019/9/12	128	115	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/21	9	4
45	M03041	2019/5/7	2019/5/16	2019/5/20	13	9	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
46	M03375	2019/5/7	2019/9/10	2019/10/4	150	126	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
47	M03381	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/22	15	6	2020/5/12	2020/6/8	2020/7/6	55	27
48	M03378	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/21	14	6	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/20	8	2
49	M03374	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/16	9	6	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
50	M03045	2019/5/7	2019/5/15	2019/5/21	14	8	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
51	M03008	2019/5/7	2019/5/11	2019/5/20	13	4	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
52	M03377	2019/5/7	2019/5/15	2019/5/17	10	8	2020/5/12	2020/5/18	2020/5/21	9	6
53	M01882	2019/5/7	2019/5/20	2019/5/22	15	13	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
54	M03379	2019/5/7	2019/9/21	2019/9/24	140	137	2020/5/12	2020/10/17	2020/10/20	161	158
55	M01567	2019/5/7	未記入	2019/6/12	36		2020/5/12	2020/6/7	2020/6/10	29	26
56	M03008	2019/5/7					2020/5/12	2020/5/17	2020/5/20	8	5
57	M03376	2019/5/7	2019/5/12	2019/5/15	8	5	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/20	8	1
58	M03381	2019/5/7	2019/5/20	2019/6/5	29	13	2020/5/12	2020/7/15	2020/8/18	98	64
59	M03045	2019/5/7	2019/5/11	2019/5/14	7	4	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
60	M04263	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/16	9	6	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
61	M03375	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/31	18	4	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/26	14	1
62	M03376	2019/5/13	2019/5/20	2019/5/27	14	7	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
63	M04167	2019/5/13	2019/6/27	2019/7/1	49	45	2020/5/12	2020/5/20	2020/5/25	13	8
64	M04273	2019/5/13	2019/5/25	2019/6/4	22	12	2020/5/12	2020/5/28	2020/6/2	21	16
65	M03379	2019/5/13	2019/5/28	2019/5/31	18	15	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/21	9	4
66	M03040	2019/5/13					2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
67	M03377	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7	3	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/20	8	3
68	M03009	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/21	8	4	2020/5/12	2020/5/12	2020/5/18	6	0
69	M03375	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/20	7	4	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
70	M03382	2019/5/13	2019/6/23	2019/6/26	44	41	2020/5/12	2020/5/23	2020/5/27	15	11
71	M03045	2019/5/13					2020/5/12	2020/5/13	2020/5/21	9	1

72	M03382	2019/5/13					2020/5/12	2020/5/14	2020/5/20	8	2
73	M03380	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7	3	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
74	M03380	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7	3	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
75	M03382	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/22	9	3	2020/5/12	2020/5/14	2020/6/3	22	2
76	M03045	2019/5/13	2019/5/27	2019/6/14	32	14	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
77	M04267	2019/5/13	2019/5/18	2019/5/22	9	5	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
78	M03373	2019/5/13	2019/6/13	2019/6/17	35	31	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
79	M04275	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/20	7	4	2020/5/12	未記入	2020/5/21	9	
80	M03374	2019/5/13	2019/6/5	2019/6/10	28	23	2020/5/12	2020/5/28	2020/6/2	21	16
81	M03009	2019/5/13	2019/5/25	2019/5/28	15	12	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/25	13	4
82	M03375	2019/5/13	2019/6/13	2019/6/17	35	31	2020/5/12	2020/5/23	2020/5/26	14	11
83	M01873	2019/5/13	2019/5/18	2019/5/21	8	5	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
84	M03040	2019/5/13	2019/5/18	2019/6/11	29	5	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
85	M01565	2019/5/13	2019/5/19	2019/5/28	15	6	2020/5/12	2020/5/24	2020/5/29	17	12
86	M01565	2019/5/13	2019/6/22	2019/6/26	44	40	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/19	7	3
87	M03375	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/5	9	3	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/1	7	3
88	M03008	2019/5/27	2019/6/12	2019/6/14	18	16	2020/5/25	2020/6/14	2020/6/24	30	20
89	M03009	2019/5/27	2019/10/25	2019/10/29	155	151	2020/5/25	2020/7/23	2020/7/27	63	59
90	M03382	2019/5/27	2019/6/23	2019/6/26	30	27	2020/5/25	2020/5/31	2020/6/3	9	6
91	M03374	2019/5/27					2020/5/25	2020/6/5	2020/6/9	15	11
92	M03378	2019/5/27	2019/5/31	2019/6/3	7	4	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/2	8	3
93	M03044	2019/5/27	2019/5/31	2019/6/4	8	4	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/1	7	3
94	M04164	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/3	7	3	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/2	8	2
95	M04271	2019/5/27	2019/7/2	2019/7/5	39	36	2020/5/25				
96	M03380	2019/5/27	2019/6/16	2019/7/29	63	20	2020/5/25	2020/5/31	2020/8/7	74	6
97	M03382	2019/5/27					2020/5/25				
98	M03380	2019/5/27					2020/5/25	2020/5/29	2020/6/29	35	4
99	M03378	2019/5/27	2019/6/19	2019/6/24	28	23	2020/5/25	2020/6/10	2020/6/15	21	16
100	M04271	2019/5/27	2019/6/13	2019/6/17	21	17	2020/5/25	2020/6/11	2020/7/1	37	17
101	M03380	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/4	8	3	2020/5/25	2020/5/29	2020/6/2	8	4
102	M03373	2019/5/27	2019/7/20	2019/7/23	57	54	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/10	16	2
103	M04166	2019/5/27	2019/6/10	2019/6/13	17	14	2020/5/25	2020/5/31	2020/6/23	29	6
104	M04164	2019/5/27					2020/5/25				
105	M04265	2019/5/27					2020/5/25				
106	M03377	2019/5/27	2019/7/19	2019/7/24	58	53	2020/5/25	2020/6/10	2020/6/15	21	16
107	M03379	2019/5/27					2020/5/25				
108	M03382	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/3	7	3	2020/5/25				
109	M03380	2019/5/27					2020/5/25				
110	M03040	2019/5/27	2019/6/22	2019/7/16	50	26	2020/5/25	2020/6/11	2020/6/18	24	17
111	M03009	2019/5/27	2019/6/9	2019/6/11	15	13	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/1	7	2
112	M03045	2019/5/27	2019/6/1	2019/6/4	8	5	2020/5/25	2020/6/1	2020/6/8	14	7
113	M03040	2019/5/27					2020/5/25				
114	M03045	2019/6/10					2020/6/8				
115	M04163	2019/6/10	2019/6/15	2019/6/21	11	5	2020/6/8	2020/6/21	2020/6/24	16	13
116	M03375	2019/6/10	2019/12/28	2020/1/6	210	201	2020/6/8	2020/7/24	2020/8/18	71	46
117	M01874	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/18	8	3	2020/6/8	2020/6/12	2020/6/17	9	4
118	M03374	2019/6/10	2019/7/2	2019/7/5	25	22	2020/6/8	2020/6/14	2020/6/17	9	6
119	M04164	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/19	9	6	2020/6/8	2020/6/13	2020/6/17	9	5
120	M03374	2019/6/10					2020/6/8				
121	M03040	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/17	7	3	2020/6/8	2020/6/20	2020/6/26	18	12
122	M04267	2019/6/10					2020/6/8	2020/7/4	2020/7/9	31	26
123	M03009	2019/6/10	2019/6/14	2019/6/20	10	4	2020/6/8	2020/6/10	2020/6/15	7	2
124	M01865	2019/6/10					2020/6/8				
125	M04274	2019/6/10	2019/6/28	2019/7/2	22	18	2020/6/8	2020/7/28	2020/8/3	56	50
126	M05085	2019/6/10					発送保留				
127	M04164	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/18	8	6	2020/6/8	2020/6/14	2020/6/18	10	6
128	M03381	2019/6/10					2020/6/8				
129	M04268	2019/6/10	2019/6/12	2019/9/24	106	2	2020/6/8				
130	M04164	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/17	7	3	2020/6/8	2020/6/13	2020/6/16	8	5
131	M03381	2019/6/10					2020/6/8				
132	M04267	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/24	14	6	2020/6/8	2020/6/14	2020/7/15	37	6
133	M04266	2019/6/10	2019/6/22	2019/6/26	16	12	2020/6/8	2020/6/24	2020/6/26	18	16
134	M05918	2019/6/10	未記入	2019/7/19	39		2020/6/8	2020/6/27	2020/7/2	24	19
135	M04165	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/28	18	3	2020/6/8	2020/6/13	2020/6/23	15	5
136	M04167	2019/6/10	2019/6/28	2019/7/3	23	18	2020/6/8	2020/6/19	2020/6/29	21	11
137	M04267	2019/6/10	2019/6/12	2019/6/17	7	2	2020/6/8	2020/6/10	2020/6/22	14	2
138	M03379	2019/6/24	2019/7/21	2019/7/28	34	27	2020/6/22	2020/6/28	2020/7/8	16	6
139	M04164	2019/6/24	2019/6/28	2019/10/15	113	4	2020/6/22				
140	M04265	2019/6/24	2019/6/28	2019/7/1	7	4	2020/6/22	2020/6/26	2020/7/7	15	4
141	M04163	2019/6/24					2020/6/22				
142	M04163	2019/6/24	2019/9/2	2019/9/6	74	70	2020/6/22	2020/6/28	2020/7/6	14	6
143	M04164	2019/6/24	2019/10/28	2019/10/31	129	126	2020/6/22	2020/7/17	2020/7/20	28	25
144	M04166	2019/6/24	2019/6/30	2019/7/4	10	6	2020/6/22	2020/6/27	2020/7/1	9	5
145	M04166	2019/6/24	2019/7/9	2019/7/16	22	15	2020/6/22	2020/7/12	2020/7/17	25	20

146	M03381	2019/6/24	2019/8/24	2019/8/27	64	61	2020/6/22	2020/8/3	2020/8/26	65	42
147	M04263	2019/6/24	2019/7/4	2019/8/1	38	10	2020/6/22	2020/6/24	2020/8/18	57	2
148	M04268	2019/6/24	2019/7/3	2019/8/19	56	9	2020/6/22	2020/7/12	2020/7/20	28	20
149	M04166	2019/6/24					2020/6/22	2020/8/11	2020/8/18	57	50
150	M04268	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/28	65	63	2020/6/22	2020/7/9	2020/7/13	21	17
151	M04268	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/28	65	63	2020/6/22	2020/7/9	2020/7/13	21	17
152	M04282	2019/6/24					2020/6/22	2020/6/24	2020/6/29	7	2
153	M04266	2019/6/24	2019/6/30	2019/7/8	14	6	2020/6/22	2020/6/28	2020/7/1	9	6
154	M03378	2019/6/24	2019/9/25	2019/9/30	98	93	2020/6/22				
155	M03009	2019/6/24	2019/7/27	2019/7/30	36	33	2020/6/22	2020/7/12	2020/7/20	28	20
156	M04165	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/29	66	63	2020/6/22	2020/8/8	2020/8/18	57	47
157	M04167	2019/6/24	2019/9/3	2019/9/6	74	71	2020/6/22	2020/8/9	2020/8/18	57	48
158	M04167	2019/6/24	2019/9/20	2019/9/26	94	88	2020/6/22	2020/7/15	2020/7/20	28	23
159	M03380	2019/6/24					2020/6/22				
160	M03380	2019/6/24					2020/6/22				

平均44日 平均34日

平均25日 平均16日

<参考データ 7歳比較明細>

	母親		①2019年4月～発送グループ 未回収：38		
	ID	質問票発送日	質問票記入日	信大受領日	発送から 受領まで
1	M03377	2019/4/1	2019/10/13	2019/10/17	199
2	M01882	2019/4/1	2019/9/29	2019/10/2	184
3	M03381	2019/4/1	2019/4/24	2019/4/26	25
4	M03044	2019/4/1	2019/4/9	2019/10/25	207
5	M01883	2019/4/1			
6	M03008	2019/4/1	2019/4/15	2019/4/17	16
7	M01565	2019/4/1	2019/11/21	2019/11/25	238
8	M03007	2019/4/1	2019/4/8	2019/4/10	9
9	M01885	2019/4/1	2019/6/22	2019/6/26	86
10	M01567	2019/4/1	2019/6/10	2019/6/18	78
11	M03006	2019/4/1	2019/10/9	2019/10/16	198
12	M01884	2019/4/1			
13	M01869	2019/4/1	2019/4/4	2019/5/7	36
14	M03008	2019/4/1	2019/4/4	2019/5/7	36
15	M01878	2019/4/1			
16	M03008	2019/4/1			
17	M03379	2019/4/1	2019/4/5	2019/4/9	8
18	M01879	2019/4/1	2019/4/7	2019/4/12	11
19	M03044	2019/4/1	2019/4/26	2019/5/7	36
20	M03379	2019/4/1	2019/4/7	2019/4/10	9
21	M03376	2019/4/15			
22	M03006	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7
23	M03044	2019/4/15	2019/5/19	2019/5/22	37
24	M01567	2019/4/15	2020/5/3	2020/5/8	389
25	M01879	2019/4/15	2019/4/29	2019/5/13	28
26	M03382	2019/4/15			
27	M03044	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7
28	M03375	2019/4/15	2019/5/26	2019/5/29	44
29	M03375	2019/4/15	未記入	2020/5/11	392
30	M03379	2019/4/15	2019/4/18	2019/4/22	7
31	M03374	2019/4/15	2019/5/4	2019/5/9	24
32	M03381	2019/4/15			
33	M03378	2019/4/15	2019/5/8	2019/5/13	28
34	M03376	2019/4/15	2019/10/22	2019/11/18	217
35	M03006	2019/4/15			
36	M03040	2019/4/15	2019/4/29	2019/5/7	22
37	M04275	2019/4/15	2019/9/23	2019/9/26	164
38	M03376	2019/4/15	2019/6/27	2019/7/17	93
39	M03376	2019/4/15	2019/5/26	2019/6/4	50
40	M01873	2019/4/15	2019/5/15	2019/5/20	35
41	M03377	2019/4/15			
42	M01879	2019/5/7	2019/6/20	2019/6/26	50
43	M03377	2019/5/7	2019/8/30	2019/9/12	128
44	M03041	2019/5/7	2019/5/16	2019/5/20	13
45	M03375	2019/5/7	2019/9/10	2019/10/4	150
46	M03381	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/22	15
47	M03378	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/21	14
48	M03374	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/16	9
49	M03045	2019/5/7	2019/5/15	2019/5/21	14
50	M03008	2019/5/7	2019/5/11	2019/5/20	13
51	M03377	2019/5/7	2019/5/15	2019/5/17	10
52	M01882	2019/5/7	2019/5/20	2019/5/22	15
53	M03379	2019/5/7	2019/9/21	2019/9/24	140
54	M01567	2019/5/7	未記入	2019/6/12	36
55	M03008	2019/5/7			
56	M03376	2019/5/7	2019/5/12	2019/5/15	8
57	M03381	2019/5/7	2019/5/20	2019/6/5	29
58	M03045	2019/5/7	2019/5/11	2019/5/14	7
59	M04263	2019/5/7	2019/5/13	2019/5/16	9
60	M03375	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/31	18
61	M03376	2019/5/13	2019/5/20	2019/5/27	14
62	M04167	2019/5/13	2019/6/27	2019/7/1	49
63	M04273	2019/5/13	2019/5/25	2019/6/4	22
64	M03379	2019/5/13	2019/5/28	2019/5/31	18
65	M03040	2019/5/13			
66	M03377	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7
67	M03009	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/21	8
68	M03375	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/20	7
69	M03382	2019/5/13	2019/6/23	2019/6/26	44
70	M03045	2019/5/13			
71	M03382	2019/5/13			
72	M03380	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7
73	M03380	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/20	7
74	M03382	2019/5/13	2019/5/16	2019/5/22	9

	母親		②2020年4月～発送グループ 未回収：19		
	ID	質問票発送日	質問票記入日	信大受領日	発送から 受領まで
1	M09586	2020/4/1			
2	M06167	2020/4/1	2020/4/6	2020/4/7	6
3	M07163	2020/4/1	2020/4/4	2020/4/8	7
4	M05081	2020/4/1			
5	M07173	2020/4/1	2020/5/17	2020/5/22	51
6	M07166	2020/4/1	2020/4/20	2020/5/11	40
7	M07161	2020/4/1	2020/4/5	2020/4/14	13
8	M07163	2020/4/1			
9	M08854	2020/4/1	2020/5/8	2020/5/11	40
10	M07166	2020/4/1	2020/5/20	2020/5/28	57
11	M07166	2020/4/1	2020/4/5	2020/4/8	7
12	M05093	2020/4/1			
13	M07160	2020/4/1	2020/4/12	2020/4/16	15
14	M08861	2020/4/1	2020/4/4	2020/4/7	6
15	M09286	2020/4/1	2020/4/6	2020/4/8	7
16	M07162	2020/4/1	2020/4/3	2020/4/7	6
17	M06167	2020/4/1	2020/4/7	2020/4/17	16
18	M07167	2020/4/1	2020/4/3	2020/4/7	6
19	M05929	2020/4/1	2020/4/12	2020/4/15	14
20	M07160	2020/4/1	2020/4/26	2020/5/7	36
21	M07160	2020/4/1	2020/4/7	2020/5/7	36
22	M07161	2020/4/1	2020/4/18	2020/4/21	20
23	M06162	2020/4/1			
24	M07162	2020/4/1	2020/4/5	2020/5/7	36
25	M09590	2020/4/1	2020/5/3	2020/5/7	36
26	M06163	2020/4/1	未記入	2020/8/7	128
27	M08855	2020/4/1	2020/4/20	2020/5/7	36
28	M08296	2020/4/1	2020/5/18	2020/5/21	50
29	M05929	2020/4/1	2020/4/9	2020/4/13	12
30	M06162	2020/4/1	2020/4/21	2020/5/7	36
31	M06165	2020/4/1			
32	M07173	2020/4/1	2020/4/28	2020/5/7	36
33	M08852	2020/4/1	2020/4/5	2020/4/17	16
34	M09591	2020/4/1			
35	M06164	2020/4/1	2020/4/24	2020/5/18	47
36	M06165	2020/4/1	2020/5/17	2020/5/20	49
37	M07162	2020/4/13	未記入	2020/5/11	28
38	M07160	2020/4/13	2020/4/17	2020/5/7	24
39	M07169	2020/4/13			
40	M08292	2020/4/13	2020/4/20	2020/5/7	24
41	M07179	2020/4/13	2020/4/26	2020/5/7	24
42	M07168	2020/4/13	2020/9/22	2020/10/23	193
43	M07580	2020/4/13			
44	M08291	2020/4/13	2020/4/18	2020/5/7	24
45	M09589	2020/4/13	2020/4/18	2020/5/7	24
46	M09590	2020/4/13	2020/4/17	2020/5/7	24
47	M06167	2020/4/13	2020/5/10	2020/5/20	37
48	M08860	2020/4/13	2020/6/4	2020/6/8	56
49	M09589	2020/4/13	2020/5/1	2020/5/13	30
50	M07161	2020/4/13	2020/4/15	2020/4/20	7
51	M07167	2020/4/13			
52	M06168	2020/4/13	2020/5/2	2020/5/7	24
53	M07171	2020/4/13	2020/4/18	2020/4/21	8
54	M07580	2020/4/13	2020/4/18	2020/5/7	24
55	M07583	2020/4/13	2020/4/20	2020/5/15	32
56	M06167	2020/4/13	2020/4/16	2020/4/20	7
57	M07161	2020/4/13			
58	M07168	2020/4/13			
59	M06856	2020/4/13	2020/4/20	2020/5/7	24
60	M05931	2020/4/13	2020/4/26	2020/5/7	24
61	M07176	2020/4/13	2020/4/21	2020/5/7	24
62	M07164	2020/4/13	2020/4/18	2020/5/7	24
63	M07166	2020/4/13	2020/6/3	2020/6/9	57
64	M06167	2020/4/13	2020/4/16	2020/5/7	24
65	M08292	2020/4/13	2020/4/21	2020/5/7	24
66	M07166	2020/4/13	2020/4/16	2020/5/7	24
67	M07159	2020/4/13	2020/4/23	2020/5/7	24
68	M07161	2020/5/12	2020/5/19	2020/5/25	13
69	M06167	2020/5/12	2020/5/25	2020/5/28	16
70	M07163	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/20	8
71	M07161	2020/5/12	2020/6/8	2020/6/16	35
72	M07168	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/19	7
73	M07164	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/21	9
74	M07580	2020/5/12	2020/6/25	2020/7/2	51

75	M03045	2019/5/13	2019/5/27	2019/6/14	32	14
76	M04267	2019/5/13	2019/5/18	2019/5/22	9	5
77	M03373	2019/5/13	2019/6/13	2019/6/17	35	31
78	M04275	2019/5/13	2019/5/17	2019/5/20	7	4
79	M03374	2019/5/13	2019/6/5	2019/6/10	28	23
80	M03009	2019/5/13	2019/5/25	2019/5/28	15	12
81	M03375	2019/5/13	2019/6/13	2019/6/17	35	31
82	M01873	2019/5/13	2019/5/18	2019/5/21	8	5
83	M03040	2019/5/13	2019/5/18	2019/6/11	29	5
84	M01565	2019/5/13	2019/5/19	2019/5/28	15	6
85	M01565	2019/5/13	2019/6/22	2019/6/26	44	40
86	M03375	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/5	9	3
87	M03008	2019/5/27	2019/6/12	2019/6/14	18	16
88	M03009	2019/5/27	2019/10/25	2019/10/29	155	151
89	M03382	2019/5/27	2019/6/23	2019/6/26	30	27
90	M03374	2019/5/27	2020/2/1	2020/6/9	379	250
91	M03378	2019/5/27	2019/5/31	2019/6/3	7	4
92	M03044	2019/5/27	2019/5/31	2019/6/4	8	4
93	M04164	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/3	7	3
94	M04271	2019/5/27	2019/7/2	2019/7/5	39	36
95	M03380	2019/5/27	2019/6/16	2019/7/29	63	20
96	M03382	2019/5/27				
97	M03380	2019/5/27				
98	M03378	2019/5/27	2019/6/19	2019/6/24	28	23
99	M04271	2019/5/27	2019/6/13	2019/6/17	21	17
100	M03380	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/4	8	3
101	M03373	2019/5/27	2019/7/20	2019/7/23	57	54
102	M04166	2019/5/27	2019/6/10	2019/6/13	17	14
103	M04164	2019/5/27				
104	M04265	2019/5/27				
105	M03377	2019/5/27	2019/7/19	2019/7/24	58	53
106	M03379	2019/5/27				
107	M03382	2019/5/27	2019/5/30	2019/6/3	7	3
108	M03380	2019/5/27				
109	M03040	2019/5/27	2019/6/22	2019/7/16	50	26
110	M03009	2019/5/27	2019/6/9	2019/6/11	15	13
111	M03045	2019/5/27	2019/6/1	2019/6/4	8	5
112	M03040	2019/5/27				
113	M03045	2019/6/10				
114	M04163	2019/6/10	2019/6/15	2019/6/21	11	5
115	M03375	2019/6/10	2019/12/28	2020/1/6	210	201
116	M01874	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/18	8	3
117	M03374	2019/6/10	2019/7/2	2019/7/5	25	22
118	M04164	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/19	9	6
119	M03374	2019/6/10				
120	M03040	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/17	7	3
121	M04267	2019/6/10				
122	M03009	2019/6/10	2019/6/14	2019/6/20	10	4
123	M01865	2019/6/10				
124	M04274	2019/6/10	2019/6/28	2019/7/2	22	18
125	M05085	2019/6/10				
126	M04164	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/18	8	6
127	M03381	2019/6/10				
128	M04268	2019/6/10	2019/6/12	2019/9/24	106	2
129	M04164	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/17	7	3
130	M03381	2019/6/10	未記入	2020/5/7	332	
131	M04267	2019/6/10	2019/6/16	2019/6/24	14	6
132	M04266	2019/6/10	2019/6/22	2019/6/26	16	12
133	M05918	2019/6/10	未記入	2019/7/19	39	
134	M04165	2019/6/10	2019/6/13	2019/6/28	18	3
135	M04167	2019/6/10	2019/6/28	2019/7/3	23	18
136	M04267	2019/6/10	2019/6/12	2019/6/17	7	2
137	M03379	2019/6/24	2019/7/21	2019/7/28	34	27
138	M04164	2019/6/24	2019/6/28	2019/10/15	113	4
139	M04265	2019/6/24	2019/6/28	2019/7/1	7	4
140	M04163	2019/6/24				
141	M04163	2019/6/24	2019/9/2	2019/9/6	74	70
142	M04164	2019/6/24	2019/10/28	2019/10/31	129	126
143	M04166	2019/6/24	2019/6/30	2019/7/4	10	6
144	M04166	2019/6/24	2019/7/9	2019/7/16	22	15
145	M03381	2019/6/24	2019/8/24	2019/8/27	64	61
146	M04263	2019/6/24	2019/7/4	2019/8/1	38	10
147	M04268	2019/6/24	2019/7/3	2019/8/19	56	9
148	M04166	2019/6/24				
149	M04268	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/28	65	63
150	M04268	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/28	65	63
151	M04282	2019/6/24				

75	M07160	2020/5/12	2020/5/17	2020/5/25	13	5
76	M04277	2020/5/12	2020/5/17	2020/5/20	8	5
77	M07168	2020/5/12	2020/10/22	2020/10/23	164	163
78	M07172	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
79	M07173	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
80	M07170	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/19	7	3
81	M07583	2020/5/12	2020/8/9	2020/8/18	98	89
82	M05936	2020/5/12	2020/6/21	2020/6/24	43	40
83	M07167	2020/5/12	2020/5/31	2020/6/2	21	19
84	M07165	2020/5/12	2020/5/18	2020/5/21	9	6
85	M07167	2020/5/12	2020/6/3	2020/6/10	29	22
86	M07172	2020/5/12	2020/5/18	2020/5/21	9	6
87	M08297	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
88	M07168	2020/5/12	2020/5/23	2020/6/1	20	11
89	M06167	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
90	M08290	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
91	M07167	2020/5/12	2020/7/10	2020/7/15	64	59
92	M07167	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/21	9	4
93	M07178	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/19	7	2
94	M08851	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/15	3	1
95	M08296	2020/5/12	2020/6/13	2020/6/16	35	32
96	M07160	2020/5/12	2020/5/17	2020/5/26	14	5
97	M07168	2020/5/12				
98	M07162	2020/5/12	2020/5/13	2020/6/1	20	1
99	M07176	2020/5/12	2020/7/6	2020/7/13	62	55
100	M09594	2020/5/12	2020/5/28	2020/6/1	20	16
101	M07163	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
102	M07173	2020/5/12	2020/5/13	2020/6/3	22	1
103	M07165	2020/5/12	2020/7/10	2020/7/15	64	59
104	M07171	2020/5/12	2020/6/8	2020/6/11	30	27
105	M07178	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/20	8	3
106	M09594	2020/5/12	2020/5/23	2020/5/29	17	11
107	M07159	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/19	7	2
108	M07173	2020/5/12				
109	M08298	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
110	M09591	2020/5/12	2020/6/4	2020/6/9	28	23
111	M07174	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/22	10	1
112	M07174	2020/5/12	2020/5/27	2020/6/1	20	15
113	M08296	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/18	6	3
114	M07168	2020/5/12	2020/5/24	2020/5/26	14	12
115	M07178	2020/5/12	2020/5/17	2020/5/20	8	5
116	M06168	2020/5/12	2020/5/28	2020/6/16	35	16
117	M07581	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/19	7	3
118	M07171	2020/5/12	2020/6/18	2020/6/22	41	37
119	M07175	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
120	M08299	2020/5/12	2020/6/28	2020/7/16	65	47
121	M07162	2020/5/12	2020/5/17	2020/5/22	10	5
122	M05081	2020/5/12	2020/9/5	2020/9/14	125	116
123	M00129	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
124	M07162	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/19	7	1
125	M07175	2020/5/12	2020/5/20	2020/5/26	14	8
126	M08294	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
127	M06162	2020/5/12	2020/5/16	2020/5/20	8	4
128	M07164	2020/5/12	2020/6/13	2020/6/19	38	32
129	M07170	2020/5/12	2020/5/21	2020/5/25	13	9
130	M07165	2020/5/12	2020/6/22	2020/6/29	48	41
131	M08295	2020/5/12	2020/5/20	2020/6/1	20	8
132	M08857	2020/5/12				
133	M07245	2020/5/12	2020/5/30	2020/6/4	23	18
134	M07179	2020/5/12				
135	M07586	2020/5/12	2020/5/13	2020/5/18	6	1
136	M08292	2020/5/12	2020/5/15	2020/5/28	16	3
137	M07165	2020/5/12	2020/5/14	2020/5/18	6	2
138	M08299	2020/5/12	2020/5/26	2020/5/29	17	14
139	M07165	2020/5/25	2020/5/30	2020/6/3	9	5
140	M07162	2020/5/25	2020/5/27	2020/8/4	71	2
141	M07172	2020/5/25	2020/6/11	2020/6/18	24	17
142	M07165	2020/5/25	2020/6/18	2020/7/6	42	24
143	M04282	2020/5/25	2020/6/10	2020/6/16	22	16
144	M07175	2020/5/25	2020/6/7	2020/6/11	17	13
145	M07174	2020/5/25	2020/6/1	2020/6/10	16	7
146	M07176	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/1	7	2
147	M03373	2020/5/25	2020/6/3	2020/6/9	15	9
148	M07173	2020/5/25				
149	M08289	2020/5/25	2020/5/30	2020/6/5	11	5
150	M03046	2020/5/25	2020/6/1	2020/6/4	10	7
151	M08855	2020/5/25	2020/6/1	2020/6/3	9	7

152	M04266	2019/6/24	2019/6/30	2019/7/8	14	6	152	M07162	2020/5/25	2020/6/5	2020/6/9	15	11
153	M03378	2019/6/24	2019/9/25	2019/9/30	98	93	153	M07170	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/1	7	2
154	M03009	2019/6/24	2019/7/27	2019/7/30	36	33	154	M07161	2020/5/25	2020/6/7	2020/6/15	21	13
155	M04165	2019/6/24	2019/8/26	2019/8/29	66	63	155	M08290	2020/5/25	2020/7/14	2020/7/27	63	50
156	M04167	2019/6/24	2019/9/3	2019/9/6	74	71	156	M07173	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/1	7	2
157	M04167	2019/6/24	2019/9/20	2019/9/26	94	88	157	M07177	2020/5/25	2020/7/25	2020/7/27	63	61
158	M03380	2019/6/24					158	M08855	2020/5/25	2020/5/28	2020/7/13	49	3
159	M03380	2019/6/24					159	M08290	2020/5/25	2020/9/28	2020/9/30	128	126
160	M04168	2019/7/9	2019/10/1	2019/10/11	94	84	160	M07177	2020/5/25	2020/6/13	2020/6/22	28	19
161	M03376	2019/7/9	2019/8/29	2019/9/6	59	51	161	M07586	2020/5/25	2020/6/6	2020/6/9	15	12
162	M04165	2019/7/9	2019/7/10	2019/7/17	8	1	162	M07170	2020/5/25	2020/5/31	2020/6/3	9	6
163	M04264	2019/7/9					163	M07179	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/1	7	3
164	M03009	2019/7/9	2019/10/6	2019/10/9	92	89	164	M07584	2020/5/25	2020/5/30	2020/6/1	7	5
165	M04165	2019/7/9	2019/7/15	2019/9/9	62	6	165	M07584	2020/5/25	2020/6/9	2020/6/15	21	15
166	M04272	2019/7/9					166	M07171	2020/5/25	2020/9/1	2020/9/10	108	99
167	M04163	2019/7/9	2019/7/10	2019/7/16	7	1	167	M08852	2020/5/25	2020/6/1	2020/6/8	14	7
168	M04164	2019/7/9					168	M08291	2020/5/25	2020/6/14	2020/7/3	39	20
169	M03381	2019/7/9	2019/7/10	2019/7/16	7	1	169	M08857	2020/5/25	2020/5/27	2020/6/1	7	2
170	M04263	2019/7/9	2019/8/20	2019/8/22	44	42	170	M07163	2020/5/25	未記入	2020/6/5	11	
171	M03381	2019/7/9	2019/7/11	2019/7/17	8	2	171	M08290	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/3	9	3
172	M04270	2019/7/9					172	M08851	2020/5/25	2020/6/15	2020/7/2	38	21
173	M04167	2019/7/9					173	M07175	2020/5/25	2020/5/31	2020/6/4	10	6
174	M04163	2019/7/9	2019/8/25	2019/8/28	50	47	174	M07173	2020/5/25	2020/7/9	2020/7/13	49	45
175	M04266	2019/7/9	2019/8/20	2019/12/18	162	42	175	M08299	2020/5/25	2020/5/28	2020/6/1	7	3
176	M04165	2019/7/9	2019/7/13	2019/7/19	10	4	176	M08856	2020/5/25	2020/6/3	2020/6/3	9	9
177	M05085	2019/7/9	2019/9/21	2019/9/24	77	74	177	M08853	2020/5/25	2020/9/28	2020/10/12	140	126
178	M04269	2019/7/9	2019/9/1	2019/9/4	57	54	178	M07178	2020/6/8	2020/6/21	2020/6/26	18	13
179	M04270	2019/7/9	2019/7/22	2019/8/2	24	13	179	M08861	2020/6/8	2020/6/11	2020/6/18	10	3
180	M04278	2019/7/9					180	M07175	2020/6/8	2020/7/4	2020/7/20	42	26
181	M04270	2019/7/9	2019/7/14	2019/7/17	8	5	181	M07175	2020/6/8	2020/6/14	2020/6/17	9	6
182	M04165	2019/7/9	2019/8/7	2019/8/9	31	29	182	M09588	2020/6/8	2020/6/24	2020/6/29	21	16
183	M03045	2019/7/9	未記入	2019/7/29	20		183	M07176	2020/6/8	2020/6/10	2020/6/18	10	2
184	M04264	2019/7/9	2020/4/20	2020/5/7	303	286	184	M07175	2020/6/8	2020/7/10	2020/7/17	39	32
185	M04270	2019/7/9	2019/7/15	2019/7/18	9	6	185	M07171	2020/6/8	2020/6/19	2020/6/23	15	11
186	M03378	2019/7/9	2019/8/20	2019/8/22	44	42	186	M08294	2020/6/8				
187	M04265	2019/7/9					187	M08298	2020/6/8		2020/6/15	7	
188	M04264	2019/7/9	2019/8/19	2019/8/23	45	41	188	M07172	2020/6/8	2020/7/18	2020/8/25	78	40
189	M04165	2019/7/9	2019/8/5	2019/8/5	27	27	189	M07173	2020/6/8				
190	M03374	2019/7/23	2019/8/6	2019/8/19	27	14	190	M07583	2020/6/8	2020/6/12	2020/6/16	8	4
平均54日 平均38日							平均27日 平均18日						

【富山ユニットセンター】

(P) 計画	P1：イベント新規来場者を増やす「新企画」 富山ユニットセンターはこれまで数十名単位を集める小規模イベントを年に数回、数百名単位を集める大規模イベントを年1回行ってきた。これらの企画に来場した参加者は20%ほどとなっているが、まだまだ来場経験のない人のほうが多い。そこで、来場経験のない人の参加を促したいと考え、<u>子どもたちみんなが知っているテレビタレントを起用した大規模イベントの企画</u>を立案した。 これまで、来場経験のない人を対象としたアンケートより、運動系の企画の人気の高いことがわかっており、山梨サブユニットセンターのかけっこ教室を視察し多くの来場が見込めることを確認した。そこで、昨年度3月に大人は公開セミナー出席し、その間子どもたちは「かけっこ教室」に参加可能なイベントを企画したところ申し込みが殺到し、急遽午前と午後の2部制にするほどの反響があった。このことから、<u>かけっこ教室への関心の高さがうかがわれたため、イベント開催実績が少なかった新川地区において今年度は改めて「かけっこ教室」を企画</u>した。 P2：一般向け情報発信を強化する「ホームページデザイン検討」 これまでに複数回実施した参加者向けアンケートより「エコチルとやまホームページ」を読んだことがある人は約10%ということがわかり、大きな変動もないことがわかっている。そこで、ホームページは参加者向けの目線で構築するのではなく、一般の方を対象とした情報伝達ツールと位置付けて改善を行ってきた。昨年度はホームページの閲覧数が大幅に伸びたが、検索でヒットしてアクセスした記事のみ読んで終わってしまう＝直帰するという傾向がわかった。とくに検索でヒットしてアクセスされている「<u>エコチル調査からわかったこと</u>」のコーナーを整理し、直帰せずにほかの記事も読んでもらえるデザインの検討を行った。 P3：購読とコミュニケーションを増やす「エコチルとやま新聞デザイン刷新・企画返送手段の変更」 富山ユニットセンターが発信する情報媒体のうち、参加者が最も見ているのは「エコチルとやま新聞」であり、参加者アンケートより約5割の方が読んでいることがこれまでの検討でわかっている。<u>読んでない方に手に取ってもらえるような、さらに魅力的な紙面にしたいとデザインの刷新</u>を計画した。また、イベントなど各種申込をメールで行うよりハガキで返送するほうが反応がよいことが明らかになってきたので、<u>新聞内の双方向企画の返信をハガキに変更</u>した。
--------	--

	P4：電話による返送依頼時の通話率向上を目指した「3回架電」 質問票発送から12週後に達しても未返送の参加者に対し、電話による返送依頼を行っている。時間帯は平日の11時50分から13時ころに行い、電話がつかず留守電メッセージも残せない場合はショートメールを送っている。この取組はH30年度のPDCA評価で<u>電話が通じた群は通じなかった群の2倍の返送率</u>であることを報告した。そこで、<u>通話率を向上させる方法として、通話できなくても折り返してもらいやすくするため「3回の着信履歴を残す」取組</u>を計画した。
(D) 実施	D1：イベント新規来場者を増やす「新企画」 イベント企画会社を通して対応可能なタレントを検討し、小島よしおさんに決定した。企画段階では、800人を収容できるホールを借りて対面型で実施する予定であったが、新型コロナウイルスの影響により動画収録をして配信する企画に変更した。動画撮影の前に参加者に案内を送り、動画配信を行うことの通知と小島よしおさんへの質問・メッセージを募集し、双方向性が出せるよう工夫した。現在収録を終え、年末年始に配信予定であり、12月下旬に参加者に配信URLの案内を郵送する。 前年度3月に中止となった「かけっこ教室」は県内在住の対象者4,633名に対し244名（約5.3%、204家族）の申込みがあり、近年開催したイベントの中では格段に申込みが多かった。また、過去5年間のイベント新規参加率は19.5%であったが、本イベントについては36%に達しており新たなニーズの掘り起こしにつながったと考えられた。今年度は新川地区の対象者約1230名を対象に案内し、5月に「かけっこ教室」を実施する予定としていたが、新型コロナウイルス感染拡大のためやむを得ず中止とした。 D2：一般向け情報発信を強化する「ホームページデザイン検討」 最もアクセス数の多い「エコチル調査からわかったこと」のコーナーをキーワード別に読めるレイアウトに変更した。これにより検索によってたどり着いた方が他の記事にもアクセスしやすくなる工夫をした。 D3：購読とコミュニケーションを増やす「エコチルとやま新聞デザイン刷新・企画返送手段の変更」 他ユニットセンターから届いたニュースレターを整理し、富山ユニットセンターに欠けているものを検討し、さらに母親向け情報誌などのデザインも参考とした。また、新型コロナウイルス感染症予防の特集を組み、富山県内でのテレビ露出が多い学内の教員らに原稿を依頼した。ハガキの一部にエコチルくんのイラストをプリントしておき、空白部分に「描き足し」てもらおうという企画は、これまで写メールでの返送を求めているが、切り取るとハガキになるデザインとし、郵送できる厚手の用紙に印刷した。

D4：電話による返送依頼時の通話率向上を目指した「3 回架電」

2020 年 4 月より、電話による返送依頼時に、1 回目の架電で通話できなかった場合、時間を変えて架電し 3 回の着信履歴を残した。

C1：イベント新規来場者を増やす「新企画」

参加者から募集した質問・メッセージは 90 通であった。実際の配信時のアクセス数および評価アンケートを実施して参加者の反応を検討する予定である。新川地区での「かけっこ教室」は、案内を行う前に中止を決めたので評価できなかった。

C2：一般向け情報発信を強化する「ホームページデザイン検討」

アクセス解析レポートより今年度も引き続きアクセス数が伸びており、ユニークユーザー数はデザインを変更した後の 4 月 3,875 件が 10 月には 8,116 件と 2 倍になった。これは、コンテンツが増えたことによって多くの記事が検索でヒットして読まれたことによると考えられる。しかし、直帰率 91.46%から 93.48%となり高い水準のままである。このことから、今回のデザイン改修では直帰率は下がらないことがわかり、さらなる工夫が必要である。

	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
訪問数	2,822	2,614	3,420	3,537	3,953	3,996	6,339	8,098	7,845	8,771	8,415	9,008
ユニークユーザー数	2,748	2,533	3,348	3,446	3,827	3,875	5,797	7,354	7,567	7,908	7,608	8,116
ページビュー数	4,098	3,693	4,643	4,750	5,484	5,398	7,576	9,213	9,585	9,984	9,790	10,714
平均ページビュー数	1.36	1.33	1.28	1.26	1.30	1.25	1.19	1.14	1.14	1.14	1.16	1.19
サイト滞在時間	00:29	00:24	00:24	00:18	00:25	00:18	00:18	00:16	00:14	00:15	00:15	00:19
直帰率	89.54	90.78	90.95	91.17	91.52	91.46	92.64	93.91	93.96	93.88	93.70	93.48
新規訪問数	91.03	90.92	92.10	91.65	90.97	89.78	91.44	90.82	89.99	93.86	90.44	90.11

C3：購読とコミュニケーションを増やす「エコチルとやま新聞デザイン刷新・企画返送手段の変更」

デザインの印象、こういった記事が読みやすかったか等を評価するアンケートを企画中であり年内には配布回収を行う予定である。集団に対する評価はできていないが、参加者から個別に「いつもと違う雰囲気よかった」、「テレビで見た先生の記事だったので親近感がわいた」、「普段読まない夫が手に取って読んでいた」といった声が寄せられ、好感触である雰囲気を感じている。また、イラストハガキの描き足し企画を郵送にしたところ、昨年度の 20 号での返送の 5 件から、変更後は 21 号 51 件、22 号 28 件と増加した。

C4：電話による返送依頼時の通話率向上を目指した「3 回架電」

本取組の評価のため、昨年度 7 歳質問票（＝1 回架電群）と今年度 8 歳質問票（＝3 回架電群）の通話率と返送率を検討した。4 月から 10 月末までの間に返送依頼対象者に対する通話率は、1 回架電群が 56.5%（191 名中）に対し、3 回架電群が 63.4%（183 名中）であり有意差はなかったが 7 %通話が増加した。

(C) 評価

	それぞれの年度の発送から6ヶ月経過した集団200名（4～5月発送）の返送率を確認したところ、1回架電群が88.0%、3回架電群が87.0%であり返送率は変化しなかった。通話できることで取りやめの申し出が増える恐れもあったが、4月から10月末に取りやめとなった件数（子どもの数をカウント）は、昨年度21名、今年度19名と変化はなかった。
(A) 改善	A1：イベント新規来場者を増やす「新企画」 動画配信は未実施のため、評価からの改善案は未検討である。しかし、今年度は急遽動画配信としたため、できれば次年度は参加型イベントとして実施しその効果を検討して今後継続するかどうかを判定したい。かけっこ教室も未実施のため、評価からの改善案は未検討である。しかし、昨年度3月実施予定のイベントへの反響を考えれば、参加者のニーズに合ったイベントであると考えられ、来年度に再度実施する予定である。来年度の実施に向けては、感染症対策として予定人数を50%に減らし複数回実施することで多くの参加者のインセンティブにつながるようにしたい。また、全参加者が小学生となる来年度以降はイベント戦略の練り直しが必須であると考えられる。年齢に応じたニーズを把握するための情報収集を改めて行うことでコンスタントな新規イベント来場者増に繋げたい。 A2：一般向け情報発信を強化する「ホームページデザイン検討」 トップページデザインを2015年に変更してから変えていないので、イマドキのデザインになるよう全体的にデザインを改修中である。目下、スマートフォン向けデザインがない状態だが、スマートフォンからのアクセスが最も多いことがわかっているため、これの対応も進めている。このデザイン改修で直帰率が下がるか確認していきたい。また引き続きコンテンツを増やし、ユニークユーザー数増につなげていきたい。 A3：購読とコミュニケーションを増やす「エコチルとやま新聞デザイン刷新・企画返送手段の変更」 これから行う評価アンケートの結果に基づき、次号以降の企画に反映させていく。評価次第ではあるが、表紙についてはしばらく写真ベースのデザインを継続したいと考えている。イラストハガキの描き足し企画は今後も引き続き郵送での返送とする。 A4：電話による返送依頼時の通話率向上を目指した「3回架電」 今回の検討では回収率に変化がなかったが、年齢ステージあがっても回収率が下がらなかったことは効果がある可能性がある。また、取りやめ申し出を増やすわけではないことがわかったため、マイナスの要素はないと判定した。通話率の上昇はわずかではあるが、参加者に近況を尋ね返送できない状況を伺っ

	たりと良好なコミュニケーションが取れている。本取組は今年度いっぱい継続し、改めて評価したい。
--	---

【愛知ユニットセンター】

(P) 計画

愛知ユニットセンターでは、主に、「①研究成果の創出およびアウトリーチ活動」「②質問票回収率改善」についてそれぞれ PDCA サイクルに基づき活動を実施している。なお、令和2年度はコロナウイルス感染症流行下においても、実施・評価可能な活動計画となるよう配慮した。

① 研究成果の創出およびアウトリーチ活動

研究への市民参加（PPI：Patient and Public Involvement）の観点から、調査地域に在住する市民（n=446）による研究に対する興味・関心を簡易的なアンケート調査（令和元年11月実施）により把握し、特に、市民の興味・関心の高かった研究領域「生活習慣（得票率19.9%）」「代謝・肥満（得票率15.7%）」「脳や心の発達（得票率15.7%）」に関する研究成果の創出、研究成果の発信を行うことにより、市民とエコチル調査とのコミュニケーションの促進、そしてエコチル調査参加者のモチベーションの維持・向上に繋げることを目指し、下記の2つの目標を設定した。



図1：アンケートで尋ねた研究領域

【目標1】研究推進に向けた組織体制と活動を見直し、回答者の興味・関心の高かった「生活習慣」「代謝・肥満」「脳や心の発達」についての全国固定データを用いた論文を令和2年度内に投稿する（目標数：5編、期限：令和3年3月末）。

【目標2】市民の興味・関心の高かった「生活習慣」「代謝・肥満」「脳や心の発達」についての全国固定データを用いた研究成果（全国のユニットセンターが対象）を、市民の方々にわかりやすいようにまとめた「論文サマリー」を作成し（目標数：10件、期限：令和3年3月末）、サイエンス・コミュニケーションに特化した専用のWebページの開設および学童期検査参加者に対し公開する（期限：令和3年3月末）。

② 質問票回収率改善

近年、質問票回収率の低下が、大きな課題である(表 1)。参加者の調査協力に対する自由意志を尊重しつつも、質問票回収率改善を目指すため、目標 3 を設定した。

表 1. 愛知ユニットセンター 質問票回収率 (令和 2 年 3 月 31 日時点)

質問票種類	5 歳	6 歳	7 歳	8 歳
全体回収率(%)	76.8	73.8	71.5	63.7

【目標 3】質問票の返送があったが、過去に送付済み質問票で未提出のものがある参加者に対し、電話・ショートメール・型抜きハガキを用いて、「**緩やかなリマインド**：①過去送付済み質問票到着状況を確認、②参加者の協力意志を確認して返送依頼、③紛失・協力意志が確認された場合、質問票再送付」を行うことで、質問票回収率の底上げを目指す。(目標数値：5%上昇/各質問票、期限：令和 3 年 3 月末) ※緊急事態宣言中はリマインドを中止。

(D) 実施

各目標に関する、活動実施状況は下記の通りである。

【目標 1】愛知ユニットセンター内研究推進部門に、新たに研究推進を主業務とする副センター長を配置し、特任教員・研究員を 1 名ずつ増員、研究成果創出を目指した。2 週間に 1 度の頻度で、愛知ユニットセンター内で「研究ミーティング」を開催し(緊急事態宣言時は Web 開催)、特任教員・研究員は、センター長・研究推進副センター長の助言を受けながら、研究テーマの設定や解析方針、進捗等について報告・ディスカッションを行い、研究成果創出の加速に努めた。

【目標 2】「生活習慣」「代謝・肥満」「脳や心の発達」に焦点を当てた全国固定データを用いた論文を特任教員・研究員間でディスカッションをしながら選定し、計 13 件の論文サマリーを作成した(次頁、図 2)。また、専用の Web ページの作成については、外部委託業者とオンラインミーティングを行い、方針を固めた。

【目標 3】

質問票提出に関する「緩やかなリマインド」の実績は、令和 2 年 10 月 31 日時点で、電話あるいは、電話が繋がらなかったためショートメールで再確認を行った総数は 665 件であった。そのうち、質問票回答意図があるものの、質問票を紛失したため再送を要したのは、304 件であった。

また、他ユニットセンターによる活動報告から着想を得て、愛知ユニットセンターのマスコットキャラクターであるエコネコ★の型抜きハガキ(次頁、図 3)を作成した。コロナ禍の影響による予期せぬ業務増加に伴い、作成時期および発送時期は遅れた。

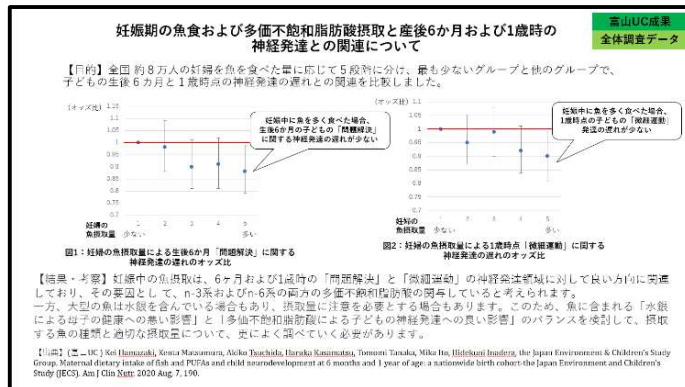
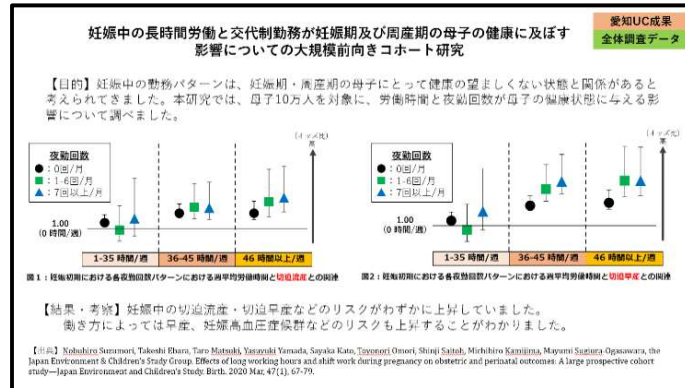


図2：作成した「論文サマリー」の一部



図3：作成したエコネコ★型抜きハガキ

(C) 評価	各目標に対する評価は以下の通り。 【目標 1】 概ね計画通りに進行、年度内に達成見込み 令和 2 年度 10 月末時点において、全国データを用いた論文として、採択・発表済論文：1 編、事前審査申請中：1 編、12 月末までにユニットセンター回覧予定論文：3 編が進行中。年度内に 5 本の論文投稿は達成見込みである。 【目標 2】 概ね計画通りに進行、年度内に達成見込み 「生活習慣」「代謝・肥満」「脳や心の発達」に焦点を当てた全国固定データを用いた論文について、目標数（10 件）を上回る 13 件の論文サマリーを作成した。参加者等に対する共有は、今後実施する。専用の Web ページ作成時期は第 4 四半期を予定。 【目標 3】 一部達成、更なる工夫を要す 令和 2 年 10 月 31 日時点で、過去送付済み質問票到着状況の確認を行った総数 665 件に対し、262 件(39.4%)で実際に質問票の返送があった。各質問票回収率の改善状況は以下の通りである。各質問票について、0.5－2.0%程度の回収率の改善がみられたが、目標値 5%には達していない。8 歳質問票未回収者に特化した新たな働きかけが必要と評価された。エコネコ★の型抜きハガキは、現時点で送付出来ていないため、効果検証は実施できていない。 表 2. 愛知ユニットセンター質問票回収率の改善状況 (%) (全体) <table><tr><td></td><td>5 歳</td><td>6 歳</td><td>7 歳</td><td>8 歳</td></tr><tr><td>令和 2 年 3 月 31 日時点 (A)</td><td>76.8</td><td>73.8</td><td>71.5</td><td>63.7</td></tr><tr><td>令和 2 年 10 月 26 日時点 (B)</td><td>78.1</td><td>75.2</td><td>72.0</td><td>65.7</td></tr><tr><td>改善率 (B-A)</td><td>1.3</td><td>1.4</td><td>0.5</td><td>2.0</td></tr></table>		5 歳	6 歳	7 歳	8 歳	令和 2 年 3 月 31 日時点 (A)	76.8	73.8	71.5	63.7	令和 2 年 10 月 26 日時点 (B)	78.1	75.2	72.0	65.7	改善率 (B-A)	1.3	1.4	0.5	2.0
		5 歳	6 歳	7 歳	8 歳																
	令和 2 年 3 月 31 日時点 (A)	76.8	73.8	71.5	63.7																
令和 2 年 10 月 26 日時点 (B)	78.1	75.2	72.0	65.7																	
改善率 (B-A)	1.3	1.4	0.5	2.0																	
(A) 改善	【目標 1】 ■論文本数だけではなく、論文の質向上に資するマネジメント体制の整備を進める。論文執筆の計画段階から社会実装（行政政策へ反映）を見据えた変数定義・解析方法，成果の社会還元・科学コミュニケーションを想定したデータ解析等，社会的なインパクトの高い論文創出に必要な教育機会を設ける。また、調査業務と研究の両立が円滑に進むよう年間業務計画を調整し、過度な業務集中が生じないよう労務管理を行う。 【目標 2】 ■論文サマリーの質向上のため、学童期検査会場の参加者の待合ブースで、スライドショーとして投影し、参加者の感想を聞き取り、より一般の方にもわかりやすい内容へ改善する。また、令和 2 年 11 月、令和 3 年 2 月に開催予定の運営委員会・推進委員会においても、論文サマリーを用いて発表し、委員によるフィードバックを得る。																				

PPI の観点から市民ニーズに基づくリサーチクエスションの設定を行うだけではなく、結果を社会還元し、その内容に対する意見を収集し新たな研究へと繋げる「循環型オープンサイエンス」の基盤として web ページをリニューアル予定である。

【目標 3】

■質問票回収率向上のため、参加者の調査参加に対する自由意志を損なわないよう留意しながら、「緩やかなリマインド」を行い、わずかだが一定の効果を得た。今後、型抜きハガキの送付も実施するため、その効果の検証を行っていく。なお、愛知ユニットセンターの課題として、8 歳質問票の回収率の低さを改善することは、喫緊の課題である。8 歳質問票未回答者に対しては、ショートメール送付や学童期検査会場への来場時に参加意思を確認することを計画に加え、回収率の更なる改善に努める。

【京都ユニットセンター】

(P) 計画	ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 ウ コミュニケーション活動に対しての取組 エ アウトリーチ、その他 この4課題は相互に関連しており、広報、イベント、オリジナルグッズ配布等の活動によって参加者と交流する機会を増やし、情報とインセンティブの提供を行うことでモチベーションや質問票返送率の維持・向上を図る。また、エコチル調査により得られた成果を伝えることにより、自身の回答が社会に役立っていることを参加者が実感できる機会を作り、モチベーション・質問票返送率の更なる向上に努める。 ・基本的には前年度までの有効な取組を継続するとともに、より良い成果報告の方法について探索を試みる ― 調査成果を発信し調査への参加意義をアピールする（参加者との対話、ニューズレターへの掲載、質問票への同封等） ― 質問票の返送（調査参加継続）の困難を訴えた参加者には再依頼を控える、次回質問票の発送を保留する等の措置を講じる ― 調査参加継続の付加価値を高める（メールマガジンやニューズレターでの子育てに関する情報の配信、小児科医師による健康相談） ― 調査への理解、信頼、親しみを高めるためのコミュニケーション（挨拶状の送付、メールマガジン、ニューズレター、HP 上での交流等） ― 学童期検査の待ち時間等に、研究者やスタッフが参加者と積極的にコミュニケーションを取り、取組等についての率直な意見等を聞き出す ― 学童期検査では、子どもにもエコチル調査の意義や母親のこれまでの協力について各児の理解力に応じて説明する ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、対面での調査業務やイベント等の実施で問題になる点を洗い出し、 ・持続的な現状分析によって早期に問題を発見し対策を実施する
(D) 実施	[1]昨年度までの有効な取組（4歳半～6歳までの4つの質問票を全て返送した参加者にオリジナルグッズを送付するなど）を継続した。 [2]参加者との会話から、質問票を開封せずに置いている場合があることが判明したため、封筒を開けなくても質問票回答にかかる概ねの時間（労力）が分かるようなメッセージ（「たったの4ページ」等）やプレゼントのお知らせを、質問票の送付用封筒にラベル貼付した。 [3]質問票の返送に対する礼状や再依頼等を一部手書きにした。また、ユーモラスなイラストを添える等して、参加者の負担感の軽減を図った。さらに、エコチル調査に協力する意義を再確認できるように、研究成果の中から参加者自身の行動変容でリスクを低減できる身近な題材を選び（京都・富山・鳥取の合

	同追加調査 妊婦のビタミン D 充足度の結果や黄砂の健康影響の結果等)、ひと目で理解できるような資料を作成して質問票の返送依頼に同梱した。 [4]ニュースレターでのエコチルの成果紹介(今年度は3回送付)、メールマガジンでの健康や子育て、環境問題や公衆衛生に関する情報の発信を定期的(概ね隔週)に行った。 [5]環境省「地域の子育て世代との対話事業」と協力して、身近な題材を使ってエコチルの研究成果を分かりやすく紹介する資料を作成し、参加者や地域の教育関係者にエコチル調査の成果を紹介する取組の準備を進めた(新型コロナウイルス感染拡大防止にて中断)。 [6]新型コロナウイルス感染拡大防止および参加者の不安感の軽減のため、以下の対策を行った。 — 学童期検査・医学的検査の実施場所について十分に吟味し一部を変更した(感染症指定病院から閉院したクリニック等へ変更)。 — 地域の医療機関、保健行政、教育関係者のご理解とご協力のもと、対象地域の感染状況を常時把握し開始・継続について定期的に検討を行った。 — 消毒・換気・スタッフの体調管理等を徹底した。 — 検査スタッフの消毒や換気も含めた業務分担を明確にし、マニュアル化・周知、シミュレーショントレーニングを繰り返し行った。 — 参加者が京都ユニットセンターの稼働状況をすぐに把握できるよう(学童期検査の実施／中断、質問票や謝金の発送／中断、オフィスの閉鎖等)、HP 上で常時参加者が閲覧できるようにした。 — 集会型の大型イベントは中止し、web を利用して参加者と調査が双方向コミュニケーションを感染リスクなく取れるイベント(エコチル展覧会)を試みた。 — 地域運営協議会は web 併用で行い、大多数の委員に web にて参加頂いた。 [8]質問票返送率にて持続的な現状分析を実施した。 [9]地域運営協議会に参加者を招き、活動や成果について参加者側からの意見も伺った。 [10]学童期検査の待合時間等に研究員が雑談を交えながら自然な形で参加者とコミュニケーションをとり、活動に問題点がないかの把握や児への説明(お母さんが未来の子どものために頑張ってきてくれたこと等)に努めた。																														
(C) 評価	●参加者の質問票返送率・モチベーションの維持 質問票返送率は昨年度からさらに改善しており、また全年齢において全国平均を上回っている(表1)。同意の取りやめも少なく維持できている(表2)。 表1. 質問紙返送状況 発送後6ヶ月以上経過のもの(令和2年8月25日の集計) <table><tr><th>%</th><th>集計日</th><th>6ヶ月</th><th>1歳</th><th>1歳半</th><th>2歳</th><th>2歳半</th><th>3歳</th><th>3歳半</th><th>4歳</th></tr><tr><td>京都</td><td>R2 8/25</td><td>95.7</td><td>93.5</td><td>91.6</td><td>90.6</td><td>89.7</td><td>89.1</td><td>87.1</td><td>86.6</td></tr><tr><td>全国</td><td>R2 8/25</td><td>94.1</td><td>91.3</td><td>89.2</td><td>87.2</td><td>85.6</td><td>84.2</td><td>81.7</td><td>80.5</td></tr></table>	%	集計日	6ヶ月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳	京都	R2 8/25	95.7	93.5	91.6	90.6	89.7	89.1	87.1	86.6	全国	R2 8/25	94.1	91.3	89.2	87.2	85.6	84.2	81.7	80.5
%	集計日	6ヶ月	1歳	1歳半	2歳	2歳半	3歳	3歳半	4歳																						
京都	R2 8/25	95.7	93.5	91.6	90.6	89.7	89.1	87.1	86.6																						
全国	R2 8/25	94.1	91.3	89.2	87.2	85.6	84.2	81.7	80.5																						

%	集計日	4歳半	5歳	5歳半	6歳	7歳	8歳	1年生	2年生
京都	R2 8/25	85.7	83.4	83.4	80.5	76.2	73.2	85.5	84.4
全国	R2 8/25	78.8	76.6	77.5	74.8	72.4	68.9	78.8	75.9

表 2. 参加者ステータス（令和 2 年 9 月末の集計）

	出生数	転出者	転入者	打ち切り	現参加件数
京都	3898	35	23	167 (4.3%)	3733 (95.8%)
全国	100325	732	725	6161 (6.1%)	94810 (94.5%)

●対面検査の円滑な実施

安全性を重視し可能な範囲での実施であったが、地域の行政や関係者の様々な協力により、本年度 10 月時点で対象者の半数近い児について無事に学童期検査を実施できた（表 3）。一部の地域では検査終了時にアンケートを実施しており「安心して来ることができた」との感想を多数いただけている。

表 3. 学童期検査の対象者数と実施状況（令和 2 年 9 月末の集計）

年度	実施予定人数	実施済人数 (令和 2 年度は 9 月末までの数字)	実施済割合 (令和 2 年度は 9 月末までの数字)
令和元年度	355 人 木津川 71 人	256 人 木津川 56 人	72.1% 78.9%
令和 2 年度	1198 人 木津川 210 人	373 人 木津川 74 人	31.1% 35.2%

●コミュニケーション活動

・Web を利用した参加者との双方向コミュニケーションイベント「エコチル展覧会」には作品 60 点以上と調査スタッフへのメッセージ 50 件近くが寄せられた（右）。参加者と調査スタッフが楽しく温かいやり取りを行ない得る場となっており、強い手応えを感じている。

・地域運営協議会に参加されたエコチル調査参加者からの所感は、調査にかかわることで得られた自分自身への気づきや喜びを、調査スタッフにも知ってほしい気持ちが強く伝わってくるものであった（下 議事録 司会者の発言より抜粋）。

調査に参加してご自身も考え方を考える重要性に気づかれたこと、社会に役立てるというやりがいを感じてくださっていること、お子さまのしんでくださっている、ということ。スタッフがそうであればいい、と願っていることを実際に参加者さんも感じてくださっていたことが嬉しい。スタッフの至らない点など含めて今後ともフィードバックをお願いしたい。

●このような研究が科学的、医学的根拠の正しいSDS疫学により虐待発露の被害を受けている家庭を救うことを願います。
(L18)

●今回のから返の検査、ビタミンD不足について、子どものアレルギー発露について考えさせられました。子どもは外で元々よく遊ぶ、というのは大切な意味があったんだな。これからは子どもでも外で遊びます！
※検査方法についてから返でも取り上げていただきたいです。
(ゆうたろう)

●かわらねに掲載の追加調査「ビタミンDについて」の結果を読みました。どの位の割合で日光浴するとビタミンDが作られるか、時期によって大きく違うこと。参考にしました。日光浴には注意したいですが、日に当たらずに済ませたいと思います。
(WT)

●追加調査「ビタミンDについて」の結果について。グラフの中でビタミンD濃度が高い方がおられますが、日光浴をたくさんしたからですか？食べでるものに違いがあるからですか？もともとの体質もありますか？
(みずは)

●研究成果への期待やコメント、ありがとうございます。丁寧に読んでくださっていること、成果を暮らしに活かして下さっていること、大事な視点をいただけること、本当に嬉しくありがたく感じています。皆さまからのご回答データは、未来への医療メッセージそのもの、確実に届けられるよう研究者一同、解析頑張ります！
ビタミンDについては、海外では皮膚から（日光浴）が9割と報告されていますが、今回の皆様からのデータからは、日本人では食事からのビタミンDも多そうだと感じています。ビタミンD不足、ちょっと気を付けることで、私たち自身で「変えられること」です。もう少し詳しくお伝えできる資料を準備中です。お楽しみになさってください。
(京都大学大学院 医学研究科 エコチル調査京都ユニットセンター 特定助教 金谷久美子)

以上、昨年度同様、今年度も参加者数の減少は少なく維持できており、質問票返送率も良好であると考えている。調査やスタッフとの間に信頼関係が築かれている様子や成果を暮らしに活かしている様子、成果への期待も感じられる。活動内容は、参加者のマジョリティの期待には概ね沿えているものと思われる。

	また今年度新たな課題として浮上した、対面検査での新型コロナウイルス感染症拡大予防についても、地域関係者の理解・協力のもと、安全性重視しつつ可能な範囲で検査を実施できたと考えている。
(A) 改善	今後の課題は、精度の高いアウトカムデータが入手できる時期を迎えるにあたり、参加者の高い協力状況をいかに新型コロナウイルス感染拡大予防と両立させながら維持していくかである。対面せずとも可能な双方向コミュニケーションの機会を積極的に作り信頼関係を維持すること、エコチル調査の成果を還元し調査の意義を再確認いただくこと、学童期に入る児に調査の意義や保護者のこれまでの協力について、ある程度理解してもらうことにも注力したい。 また、我々の活動は、大多数の参加者の期待には概ね沿えているものと思われるが、調査から脱落しやすいかもしれない疾患児等、マイノリティをサポートする活動も、今後十分に検討して実施していきたい。

【大阪ユニットセンター】

(P) 計画	1. イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 【目的】 コロナ禍において質問票回収率を維持・向上させる方法を検討し、評価する。 【背景】 大阪ユニットセンターは3番目に現参加者数（子どもの数）が多いユニットセンターでありながら、これまで質問票回収率 80%を維持し、学年質問票では全国トップレベルとなっている。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための緊急事態宣言を受け、スタッフの7～8割の出勤制限が生じたため、通常の質問票の送付依頼ができず、回収率が停滞した。そのため、全体的な質問票回収率の向上のための取組を計画した。また、4歳半と5歳は質問票の分量が多く全国的に質問票回収率の低下が見られているが、<u>5歳半の質問票回収率を向上させる取組によるその後の回収率回復への影響を検討することとした。</u> 2. ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 【目的】 コロナ禍において学童期検査を安全に実施し、実施率を上げる取組方法を検討する。また、昨年度の学童期検査参加者のその後の質問票回収率への影響を検討する。 【背景】 大阪府は全国で2番目に新型コロナウイルス感染者数が多い地域であった。しかしながら、学童期検査は小学2年生の年の実施であり、参加希望者も多く、そのモチベーションに応えることが今後の質問票回収率や調査継続、そしてエコチル調査のデータの質の維持に不可欠であると考えた。 3. ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 【目的】 エコチル調査からの研究成果を分かりやすく、参加者や広く一般の人に伝える取組方法を検討する。また、昨年度からさらに成果発表の促進を図る。 【背景】 これまでも大阪ユニットセンターでは、お子さんからの「ぬりえ」やスタッフによる「子育てコラム」をホームページにアップしたり、地域のイベントや学会での展示を通して集計データを発表するなどコミュニケーションを図ってきた。今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため<u>参集・対面型のアウトリーチ活動の実施が困難となる中で参加者のモチベーション維持へのアプローチを継続する必要があるため、ホームページでのコミュニケーションの充実を図ることとした。</u>また、<u>研究者間での対面でのコミュニケーションが困難な中、成果発表の促進を図る必要があった。</u>
--------	--

1. イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

大阪ユニットセンターでは通常4歳質問票から以下の方法で送付依頼を行っているが、緊急事態宣言により③④の電話での送付依頼ができなかった。

- ①質問票送付後4週間後、ショートメール1回目（未回収の人すべて）
- ②質問票送付後7週間後、ショートメール2回目（未回収の人すべて）
- ③質問票送付後12週間後、電話1回目（未回収の中で、直近3回の質問票のうち少なくとも1回返送があった人）
- ④質問票送付後21週間後、電話2回目（③で不通かつ未回収の人）



図1 8歳質問票&お誕生日プレゼント送付用封筒

緊急事態宣言解除後、スタッフの体制を整え、電話による送付依頼を6月下旬より再開した。また、8歳の質問票は分量が多く、回収が困難なことが予想されたため、質問票とお誕生日プレゼントを同封することで開封を促し、記入への意欲を高めるための工夫を行った。（図1）



図2 エコバッグ

また、5歳半の質問票回収率が80%に達するよう、重点的アプローチとして、5歳質問票提出者のうち、5歳半質問票が未提出の人に質問票を再送付した。また、5歳半全員に保護者向けノベルティ（エコバッグ）を配布した。（図2）

2. ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組

イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他

a. 学童期検査の安全な実施と実施率の向上

参加者及びスタッフが3密にならないブースや動線のレイアウトを緊急事態宣言中のテレワークなどを利用して手分けして考案し、週1～2回は必ずミーティングを行い検査実施に備えた。6月に地域運営協議会の委員より意見をいただき、コアセンターからの許可を得て、8月1日より学童期検査を実施した。また、スタッフで感染疑いの有訴者に対し、大学病院で速やかにPCR検査を受診できる体制を整えた。参加者及びスタッフのマスク着用、検温、手指消毒の徹底、各部屋の換気、参加1組終了ごとの各ブースでの消毒、飛沫防止アクリル板の配置、同伴者は1名とするなどあらゆる感染対策を講じた。また、昼食時間でもスタッフ間のソーシャルディスタンスを保つよう周知・徹底し、感染予防に努めた。参加者には感染予防のため、当初1日70組の予約枠を半分（30

(D) 実施

	～35 組）に減らし、1 組 10 分間隔の予約枠として受付時間に遅れないよう来場をお願いした。予約にあたっては、<u>新型コロナウイルス感染症の感染防止のため、1 回目のご案内のみで、ハガキで予約を取り、追加の受診勧奨は行わないこととした。</u> また、今年度は、<u>緊急事態宣言による休校の影響から夏休み期間が短縮されたため、計画を練り直し、参加者が来場しやすい土日、祝日を中心に開催することとした。</u><u>新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの感染拡大が見込まれる秋までに、できるだけ参加者が来場できるよう予約数に応じて検査期間を延長し、8 月～11 月の 33 回実施することとした。</u>予約忘れによる当日キャンセルを避けるため、<u>前日に予約者全員にショートメールでリマインドを送るよう</u>にした。 b. 学童期検査参加者のその後の質問票回収率への影響 <u>昨年度の学童期検査参加者 904 人における 8 歳、小学 2 年の質問票回収率を調べた。</u>また、対象者 1540 人のうち、<u>7 歳質問票未提出者における学童期検査参加者と不参加者の 8 歳、小学 2 年の質問票回収率を比較した。</u> 3. ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 ホームページに、子育てコラムやぬりえの更新に加え、これまでに大阪ユニットセンターから発表された論文 11 件の概要（和訳）を 10 月 22 日より掲載した。https://www.ecochil-osaka.jp/academic-papers/ リスクコミュニケーションの観点から、結果に関する解釈など限界点も踏まえて作成した。また、昨年度に引き続き、学会での展示を行い、エコチル調査の周知を継続した。成果発表促進については、定例の研究会をオンラインに切り替えて毎月 1 回継続実施した。
(C) 評価	1. イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 <u>送付依頼可能な 5 歳半以降をターゲットに電話による質問票の送付依頼を 6 月下旬から開始したところ、回収率の向上が数字として表れた。</u><u>特に重点的アプローチを行った 5 歳半については、目標の 80%を達成することができた。</u>8 歳質問票については、<u>食事調査が含まれ分量が多いにも関わらず、約 80%の回収率をキープしている。</u><u>お誕生日プレゼントの同封や学童期検査が功を奏したと考えられる。</u>

	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月		10/26 (全国)
4 歳半	79.3	79.3	79.3	79.4	79.4	79.4	79.4	79.4	>	78.8
5 歳	77.0	77.0	77.2	77.2	77.3	77.3	77.3	77.3	>	76.6
5 歳半	79.6	79.6	79.6	79.8	79.9	79.8	79.9	80.0	>	77.7
6 歳	78.7	78.7	78.8	78.9	79.1	79.0	79.3	79.4	>	77.3
7 歳	79.4	79.4	79.4	79.4	79.7	79.8	79.8	79.7	>	77.1
8 歳	80.1	80.6	80.8	80.5	80.6	79.5	80.2	80.2	>	76.5

2. ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組

イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組

ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他

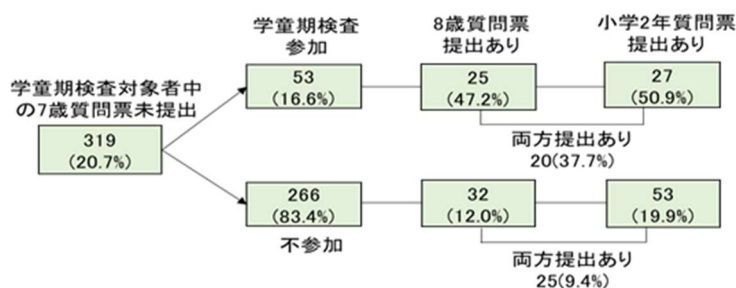
a. 学童期検査の安全な実施と実施率の向上

コロナ禍において、安全な実施対策と実施日の工夫により、学童期検査対象者 2181 人において 1 回の受診勧奨で 861 人の参加があった。また、これまでに新型コロナウイルス感染症への罹患は参加者及びスタッフともに確認されていない。

b. 学童期検査参加による質問票回収率への影響

①昨年度の学童期検査参加者 904 人において、8 歳及び小学 2 年質問票の回収数及び回収率は、それぞれ 854 人 (94.5%)、両方提出あり 842 人 (93.1%) であった。学童期検査参加者は調査継続へのモチベーションが高い集団と考えられた。

②昨年度の学童期検査対象者 1540 人のうち 7 歳質問票未提出者 319 人について、学童期検査参加者 53 人では、8 歳及び小学 2 年質問票の回収率がいずれも約 5 割であったのに対し、学童期検査不参加者 266 人では 1 ～ 2 割の回収率であった (下図)。学童期検査がその後の調査継続へのモチベーションの維持・向上のきっかけになっている可能性が示唆された。

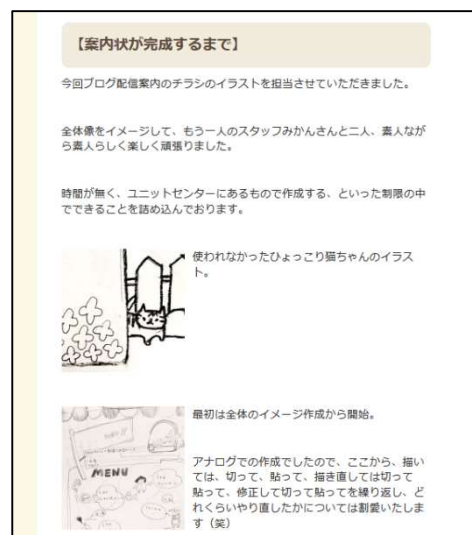
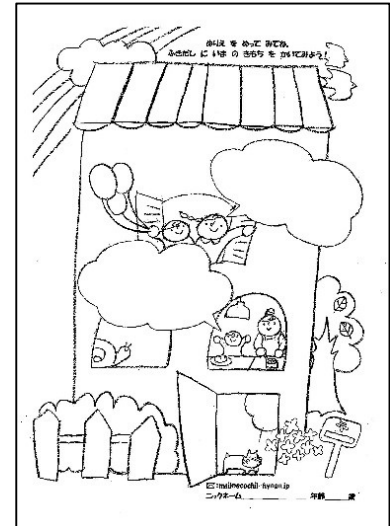


	3. ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 論文概要版のページビュー数は125件（10月22日～11月17日）であった。子育てコラムや論文概要版についての質問などはホームページのお問合せ画面を通じて受け付けた。また、今年度は1件日本公衆衛生学会でオンラインでの展示を行った。（3月にも日本衛生学会にて展示を行う予定）。オンライン研究会は6回行った。今年度4月からこれまでの論文アクセプト件数は6件であった。
(A) 改善	1. イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 これまでの対策は比較的成功しているため、今後も各質問票回収率を80%に到達させるように全体・重点的アプローチを組み合わせる回収依頼を行っている。 2. ア 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ 質問票回収率を維持・向上させるための取組 ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 a. 学童期検査の安全な実施と実施率の向上 b. 学童期検査参加者のその後の質問票回収率への影響 コロナ禍において、安全な実施対策と実施日を工夫したことで860人以上のお子さんの貴重なデータを得ることができた。しかしながら、実施期間が長期にわたったことにより、スタッフへの負担は大きく、来年度はこの経験や反省を踏まえ、コロナ禍においてできるだけ効率的に夏季を中心に検査を組むよう計画していくことが望まれた。今後も、学童期検査参加による質問票回収率への影響をモニタリングしていく。 3. ウ コミュニケーション活動に対しての取組、エ その他 論文概要版は10月下旬からアップしたため、今後アクセス数をモニタリングしながら、当該ページをホーム画面からアクセスしやすくするなどホームページの構成を変えたり、ニューズレターで広く周知するなど工夫していく必要がある。今後も発表した論文について概要版を作成し、アウトリーチ活動の活性化を図っていく。また、子育てコラムやぬりえは好評を得ており、今後も更新・継続していく。

【兵庫ユニットセンター】

(P) 計画	これまでの PDCA の取組により返送依頼を以下①～②の手順で行っていた。 ①【第 1 段階】質問票の発送から 4 週間経過後に未返送者を抽出する。未返送者に対しハガキ送付による返送依頼を行う（一部、ショートメールによる返送依頼）。 ②【第 2 段階】①から一定期間経過後においても未返送の参加者に対し電話での返送依頼を行う。電話による返送依頼において、応答がなかった参加者に対してショートメールを送付する。 しかし、新型コロナ感染拡大による日常生活の変化に配慮して、参加者にストレスを与えないように、<u>【第 2 段階】「電話での返送依頼」を当面の間行わないこととした。その結果、質問票返送率の低下が見込まれるが、兵庫ユニットセンターとしてエコチル調査参加者に対してできること（コミュニケーション活動等）を検討した。</u>
(D) 実施	兵庫ユニットセンタースタッフ全員で意見を出し合い、エコチル調査参加者に対してできることとして下記事項を実施した。 I. 兵庫ユニットセンターの Web サイトに「センター長より参加者の皆様へのメッセージ」を掲載し、質問票発送時にもメッセージ文書をその都度作成して同封することとした。 ユニットセンター長より参加者の皆様へ 2020/04/23 重要 エコチル調査参加者の皆様へ 日頃よりエコチル調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。 新学期を迎えましたが、新型コロナウイルスによる感染拡大のため、4月7日に兵庫県を含む7都府県に緊急事態宣言が発令され、学校も長期にわたって休校となっています。17日には緊急事態宣言が全国に拡大されるなど、感染の終息が見通せない状況が持続しており、エコチル調査参加者の皆様も不安な毎日を過ごしておられることと思います。 II. 新型コロナ感染に関する情報を兵庫ユニットセンターの Web に掲載し、「QRコード」を質問票発送時に参加者に発信した。 親子で知る 新型コロナウイルス 2020/04/23 お知らせ 新型コロナウイルス感染症の流行で、不安や窮乏な毎日を過ごされていると思います。 この新型コロナウイルスについて、子どもにもわかりやすく伝えようとして世界保健機関（WHO）や多くの医療関係者らが教材を作り発信しておりますので、いくつかご紹介したいと思います。親子で正確な知識を得てどう向き合おうか考えてほしい、との思いが込められていますので、この機会にぜひご参考になさってください。

Ⅲ. 新型コロナ感染の影響により普段とは違う状況下で、大人子ども関係なく、ストレスが溜まってきていると予測される。2020年5月「エコチルひょうご（春夏号）」を参加者全員に郵送する際、親子で楽しめる「ぬりえ STAY HOME」を同封し、子どもの気持ちを「ぬりえ」に書けるようにして親子で子どもの気持ちを共有できるようなものにした。さらに、スタッフブログを期間限定で立ち上げ、参加者が共感できるようなエピソードを発信することで、参加者に少しでもホッとしていただけ、引き続き調査にご協力いただくことを目指した。



(C) 評価

1. 質問票調査の返送率

2020年3月より第2段階の電話での返送依頼を中断したにもかかわらず、3月～7月は第1段階の返送依頼だけで質問票回収率の平均値を維持した（図1）。このことは、兵庫ユニットセンターとしてエコチル調査参加者に対してできることとして、コミュニケーション活動を実施した効果であると考え。特に、第1段階でのハガキによる返送率が向上した（図2）。

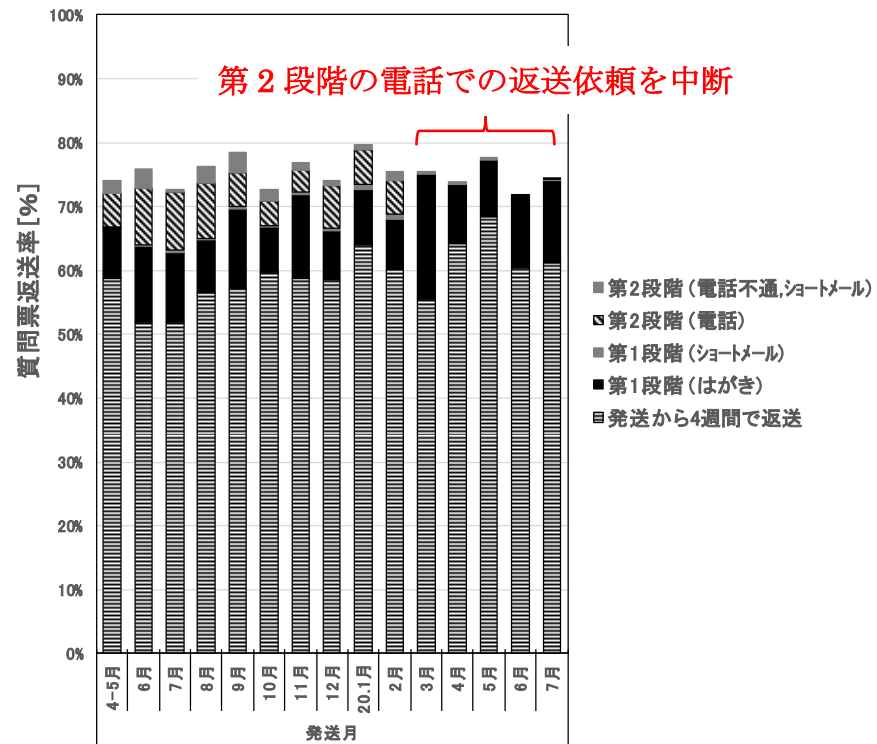


図1 質問票の返送率

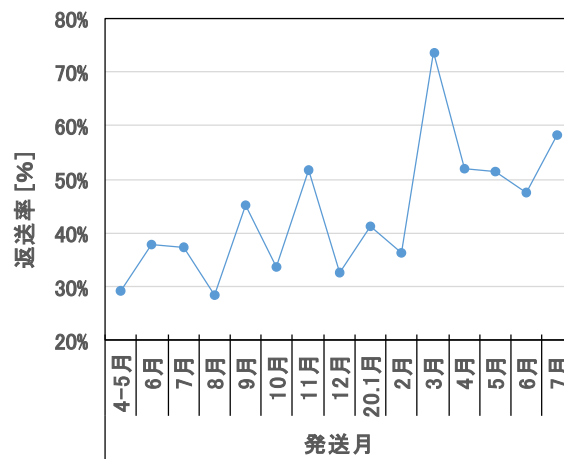
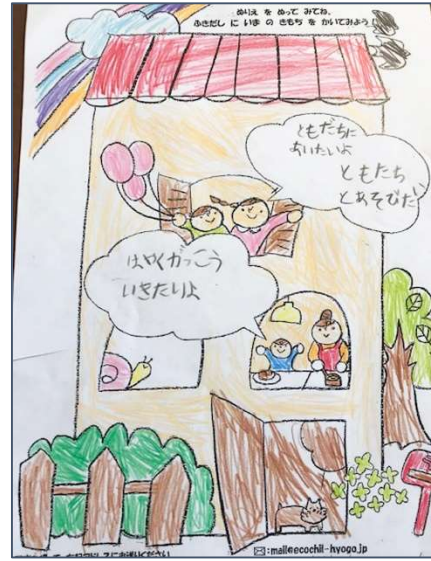


図2 第1段階でのハガキによる返送率

2. 「ぬりえ STAY HOME」が参加者から届き、兵庫 UC の Web サイトで掲載している。参加者から好評を得た。



(A) 改善

第2段階で実施していた電話による返送依頼を中断したにもかかわらず、新たなコミュニケーション活動を実施したことにより、質問票調査の返送率が維持できた。

質問票返送率は、月1回定期的にモニタリングしており、エコチル調査スタッフ全員と共有している。引き続き、質問票返送率のモニタリングを継続し、第2段階の電話による返送依頼の再開の時期を検討する。

また、新型コロナウイルス感染拡大による日常生活の変化に配慮して、兵庫ユニットセンターとしてエコチル調査参加者に対してできること（コミュニケーション活動等）を、検討していく。

【鳥取ユニットセンター】

(P) 計画 (D) 実施	イ 質問票返送率を維持・向上とスタッフの業務効率化するための取組 今年度の鳥取ユニットセンターの指標を「子どもの現参加率を令和元年度の現参加率と比較し、差を-0.4%以下に維持する」 (-0.4%とした理由：令和元年度と平成30年度の現参加率の差が-0.4%のため) として取組んだ。 (1) 質問票未提出者への返送依頼方法の変更 鳥取ユニットセンターでは、今後、学童期検査、詳細調査の同時実施、学年質問票の発送に伴う同時の大量の返送依頼となることで、スタッフ業務の負担が増えると予測した。そこで、質問票未提出者への返送依頼方法を簡略化することを試みた。2019年10月までは質問票発送後1カ月～1カ月半経過しても返送がない方にショートメール・電話3回・ハガキを行っていたが、2019年11月以降は従来から最も効果があったショートメールのみとした。(携帯電話番号が不明な場合は固定電話にかける、またはハガキを郵送する) (2) 8歳質問票・小学2年質問票未提出者への質問票の再送付とキャンペーン周知 昨年度、質問票の再送付とキャンペーン周知は返送率の向上に効果があったため、今年度も再送付に重点を置いて実施した。 8歳・小学2年質問票の両方を提出していただくと「オリジナルバック」をプレゼントするキャンペーンを開始している。また、未提出者へプレゼントキャンペーンの周知文と共に質問票を再送付することとした。 該当者をリストアップし、1回目に14冊再送付したところ送付2カ月後に3冊(返送率21.4%)、2回目に128冊再送付したところ送付4カ月後に30冊(返送率23.4%)、3回目に21冊再送付したところ送付3カ月後に7冊(返送率33.3%)の返送があり、高い数字であった。 (3) 学童期検査会場での8歳質問票の記入依頼 昨年に引き続き、学童期検査に参加され8歳質問票を返送していない方に直接質問票を手渡し、待ち時間に記入を依頼することとした。また8歳・小学2年質問票のキャンペーンの説明も直接行うこととした。 今年度は新型コロナウイルス感染防止のため学童期検査の中止が多くあり、直接手渡す機会が減ったが、8歳質問票を学童期検査前に発送した87人について、当日1人に手渡し、提出があった。学童期検査前に返送した方は77人、当日持参した方が4人、学童期検査後に返送した方が5人あり、返送率は100%であった。(2020.10.19現在)
--------------------------	--

	付け加えると、<u>昨年度</u>は8歳質問票を学童期検査<u>前</u>に発送した78人について、当日13人に直接手渡し記入依頼をしたところ、13人すべての方が提出された。学童期検査前にすでに返送した方は54人、学童期検査後に返送した方は11人であり、返送率は100%であった。 また、8歳質問票を学童期検査<u>後</u>に発送した220人については213人の返送があり返送率は96.8%であった。学童期検査に参加しなかった方の返送率は63.4%だった。 昨年度は学童期検査で乳歯ハガキが返送されていない方について154人に直接依頼し、当日152人、後日2人が提出され、回収率は100%であり効果があった。今年度も引き続き54人に直接依頼し、当日53人、後日1人が提出され、回収率は100%であり、乳歯調査の同意率も88.9%と高かった。(2020.10.19現在)
(C) 評価	(1) 質問票未提出者への返送依頼方法の変更 返送依頼方法変更前(ショートメール・電話3回・ハガキ)の返送依頼後(発送から約2カ月後)の返送率は6カ月間の平均で71.2%であった。変更後(ショートメールのみ)のその返送率は6カ月間の平均で73.6%であり、変更後(ショートメールのみ)の返送率の方が高かった。 このことから、返送依頼方法を簡略しても質問票の返送率を維持することがわかり、業務の効率化ができた。また、スタッフの精神的ストレスも軽減され、さらに通信費用も抑えることができた。この取組みは効果的に調査を進めていく第一歩になったと思われる。 (2) 8歳質問票・小学2年質問票未提出者への質問票の再送付とキャンペーン周知 昨年度より継続した取組みであるが、8歳質問票の2020年2月の全国と鳥取ユニットセンターの返送率を比べると、全国が74.6%、鳥取ユニットセンターが87.3%で差が12.7%であった。5月の返送率を比べると、全国が76.3%、鳥取ユニットセンターが84.7%で差が8.4%と鳥取ユニットセンターの返送率が非常に高かった。 小学2年質問票(2019.11.1発送)の2020年2月の全国と鳥取ユニットセンターの返送率を比べると、全国が70.1%、鳥取ユニットセンターが78.4%で差が8.3%であった。5月の返送率を比べると全国が75.0%、鳥取ユニットセンターが80.9%で差が5.9%と鳥取ユニットセンターの返送率が高かった。 上記のように未提出者へ質問票の再送付とキャンペーン周知をすることで質問票の回収ができ、返送率が高くなったと考える。この取組みは今年度も効果があった。

	(3) 学童期検査会場での8歳質問票の記入依頼と再送付 学童期検査会場で直接質問票の記入依頼を行うと、快く記入しその場で提出された。直接手渡し、会場で記入してもらうのはとても効果的であった。今後の質問票返送のきっかけ作りができたのではないかとと思われる。 8歳質問票を学童期検査前に受け取り、学童期検査に参加した方は今年度、昨年度ともに全員が学童期検査前後に提出されている。このことより、学童期検査に参加することでエコチル調査への参加意識や意欲が向上し、高い質問票の返送率の維持に寄与していると考ええる。言い換えるなら、学童期検査の参加を促すことは質問票の返送率を上げることにつながるのではないかと考える。 また、今年度の鳥取ユニットセンターの指標については、令和元年9月末の現参加率が96.3%、令和2年9月末の現参加率が95.9%で差が-0.4%となり、今年度の指標である「差を-0.4%以下に維持する」は達成できた。
(A) 改善	(1) 質問票未提出者への返送依頼方法の変更 返送依頼方法を簡略しても質問票の返送率を低下させず維持することができた。今後も高い返送率を維持しつつ、スタッフの業務を効率化できる方法の検討を進めていくこととする。 (2) 8歳質問票・小学2年質問票未提出者への質問票の再送付とキャンペーン周知 今年も8歳・小学2年質問票未提出者への質問票の再送付とキャンペーン周知をすることで返送率を上げることができた。今後も継続し、さらに効果について分析を進めていくこととする。 (3) 学童期検査会場での質問票の記入依頼 学童期検査会場で直接手渡し、会場で記入してもらうのはとても効果的であったため、来年度も引き続き学童期検査会場で記入依頼を行うこととする。 昨年度は小学2年質問票の発送前に学童期検査が終了し依頼することができなかったが、小学2年質問票発送後の学童期検査でも直接依頼すれば、その返送率も高くなるのではないかと考える。今後も学童期検査を効果的に活用するよう検討していくこととする。

(P) 計画 (D) 実施	<u>ア及びウ.参加者へのモチベーション維持とコミュニケーション活動に関する取組</u> ● 参加者及び一般市民への積極的な成果の還元 1) 参加者および一般市民へのわかりやすい成果還元を目指し、地域新聞社との共同企画である連載コラム「ずっと、ぎゅっと！高知のエコチル調査より」の第二部連載（20回）を9月より開始。第一部連載（30回）と合わせ、全記事が同新聞社の子育て応援Webサイト「ココハレ」のエコチル調査コーナーにて掲載されている（10月末時点で合計42本のコラムが掲載済）。このリンクを会報誌・SNS・運営協議会などで周知することで、更に成果還元を実施中である。 高知新聞社「ココハレ」  2) 今年度も、直接的な成果の還元として調査の進捗や成果をまとめた「エコチル調査報告書高知版」を12月の会報誌に同梱し参加者へ郵送、さらに一般市民へ計17,750部を広く配布する計画をした。今年度は広く一般の目に留まるよう、集計グラフを載せたポスターの配布も同時に行うことにした。大学広報や自治体の協力の下、年度末までに、1,334部のポスターと、11,500部の報告書を県内の行政、教育機関、銀行やスーパー、一般企業へも広く配布する。 ● 参加者イベントの開催 昨年度行った夏休み映画イベントは参加人数319組(1,117名)、費用1,386円/組、当日のスタッフ7名、参加満足度98.7%と費用対効果が高かったため今年度も継続して同イベントの開催を計画したが、4月の時点で中止を決定し、時期と内容を変更して、2021年2月にオンライン配信イベントを実施する予定である。 ● インターネット媒体の活用 参加者のモチベーション維持において、参加者コミュニケーションの役割は重要であるが、郵送によるものはコストと手間が課題である。会報誌に準ずる媒体としてソーシャルネットワークサービス(以下 SNS)やホームページの積極的な活用を計画した。4月から10月末までで、SNSには51回の投稿を行い(3つのSNS合計153件)、学童期検査の予約状況や新型コロナウイルス感染拡大状況下での感染防止対策、豪雨への注意喚起など、迅速に情報を発信することができた。学童期検査やイベント会場で、SNS周知のチラシ配布を行い、検査会場で撮影した参加児の記念写真を希望者にはSNSにアップすることで、参加者のフォロワー数増加に取り組んでいる。
--------------------------	--

イ. 質問票回収率を維持・向上するための取組

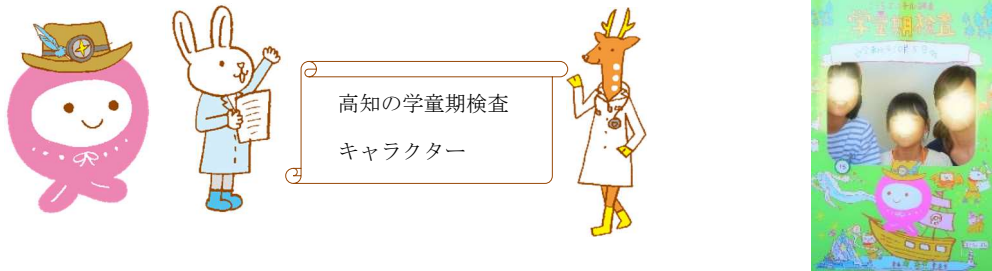
- 質問票毎に内容・ボリューム・送付タイミングなどを総合的に吟味し、質問票返送者対象のキャンペーンと全参加者対象のプレゼントを計画している。食事調査による負担増が予想される 8 歳質問票の高回収率を目指し令和元年度より「ハッピートートキャンペーン」(食事調査結果返却時にトートバッグを同封)を実施し、計 1,309 名へ送付した。送付グッズの選定の際にはアンケート結果とレジ袋有料化のタイミングを考慮した。過去に実施あるいは継続中のものとして、5 歳「5!Go!キャンペーン」(タオル)、6 歳「入学おめでとうプレゼント」(鉛筆セット)、9 歳「オリジナルファイルプレゼント」(通知表の保管と測定記録を促進を目的としたファイル)、小学 2 年生「プラネタリウム年間パスポートプレゼント」がある。前年度の要望に基づき、年間パスポートを引換券に変更することで、開始時期を参加者が決められるようにした。
- 学童期検査会場にて、参加者のニーズや調査への期待に関するアンケート調査を実施するほか、未回収の 8 歳質問票の配布・回収した。

エ. その他

● 学童期検査参加率向上のための取組

今年度の対象児 1,856 名に対して、協力依頼を 4 月初旬に送付の予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大と緊急事態宣言を受け、感染拡大防止のために検査スケジュールは大幅な変更となった。検査の実施に向けて、検査体制の再構築を行い、4 月から見送っていた協力依頼を 8 月中旬、1,855 名へ送付し、検査は 9 月 12 日よりの実施となった。感染症対策として参加者へは健康チェックリストの提出、検温やマスク着用等を依頼し、スタッフは検査日 14 日前からの健康管理などを徹底している。今年度の学童期検査は 10 月末現在で 8 回開催し、56 名の検査を実施した。今年度の検査数は大幅に減となったが、年度末までに検査枠を増やすなど改善を試みている状況である。

- 1) 昨年度の検査予約は、Web 予約 (56.6%)、ハガキ (25.4%)、電話 (18%) での申し込みがあり、検査後アンケート結果によると、「スムーズに予約できた」との答えが Web 予約 (96.3%)、ハガキ (97.6%)、電話 (95%) と予約が問題なく行えたことが確認できた。ハガキでの予約は後に電話連絡を要し、作業工数が非常に取られたため、今年度の予約は、Web、電話のみで行うこととした。電話予約は、受けた内容を Web 予約システムへ反映することで一元化し、参加者の進行管理を行った。また今年度からコアセンター支給の仮想デスクトップを利用することで、よりセキュリティの高い参加者リストの管理を行うことができた。

	2) 昨年度の学童期検査では参加者の採血の結果返却が好評であったため、今年度新たに、CAT の待ち時間を利用して、母親の骨密度測定と子どもの握力測定を増やし、他の検査結果と共に返却を行っている。 3) 検査時に参加児が楽しく検査に参加できるよう、「検査島」に見立てた会場を、子どもは探検隊としてシールを集めながら各ブースを回るスタンプラリー方式で行った。検査項目ごとにオリジナルキャラクターのシールをもらってゴールし、宝物のコインでガチャガチャの景品を手に入れ、最後に顔出しパネル写真のプレゼントなど子どもが楽しめる工夫を施した。  顔出しパネル ● 詳細調査を継続していただくための取組 今年度 151 人の対象者に対して、日程調整しやすいようできる限り幅広い曜日設定、時間帯設定を計画した。新型コロナウイルス感染拡大のため一時中止となった後、再開時には日曜日の検査実施及び以下のような取り組みを実施した。 1) 参加児と保護者の健康チェックリスト用紙を提出してもらい、健康状態に問題がない事を確認した。 2) 2、3月に検査を予定していた約 13 名に優先的に予約を取り、8 月中旬に 9 名が検査実施に至った。 3) 日曜日の予約枠からすぐに埋まっていき、8～10 月末までに岡豊キャンパスで 33 名（約 32%※）の検査を実施した。 4) 幡多地区は 10 月の週末 2 日間に 13 名（約 46%）の参加児に対して検査を実施した。岡豊キャンパス・幡多地区を併せて 8～10 月末までに 46 名（約 51%※）の検査を実施した。 ※今年度は検査が 8 月中旬まで中止されていたため 20 名欠測があり、その数を除いた数値とする。
(C) 評価	<u>ア及びウ. 参加者へのモチベーション維持に関する取組</u> ● 参加者及び一般市民への積極的な成果の還元 7 月に参加者全員へ送付したアンケートハガキ (685 件回収) の結果におい

て、参加者が調査へ期待することは「調査の結果を知らせてほしい」が43%、成果の還元を求める声が例年どおり最も多く、自由記載欄(66件)では「今のままでよい」という答えが最も多かった。この結果から現在実施している活動は参加者の要望に沿ったものである。新聞紙上でのコラムについては、幼稚園や保育園から「若い先生方とのミーティングで参考資料としている」、療育施設から「データが添えられていて楽しみにしている」などの声が届き、一般市民へエコチル調査の周知と公衆衛生への関心や知識を広めることができた。また記事掲載は新聞社からの企画のため、費用がかからず効果が高い取組であったといえる。公共施設での掲示をされているポスターや新聞記事と合わせて、直接的、間接的に調査の成果を目にすることにより、参加者のモチベーションの向上が期待できる。

- **参加者イベントの開催**

オンライン配信のイベントについては、イベント後に効果検証の予定である。

- **インターネット媒体の活用**

SNSによる配信の利用状況(フォロワー数)は、Twitter35人、Facebook59人、Instagram132人。今年度は学童期検査やイベントの中止により効果的な周知の場がなかったこともあり、利用者の著しい増加が見られないものの、参加者とのコミュニケーションがとりづらい状況の中、郵送以外のコミュニケーションを試み、各SNSの傾向を確認できたことは今後の運用の参考となり意義があった。

イ. 質問票回収率を維持・向上するための取組

- 小学2年生質問票以外の全ての質問票で回収率は7割を越え、前年度と比べ改善しているほか、回収率低下に歯止めをかけることができた。
- トートバッグを含むグッズ使用率81%と好評。プラネタリウム年間パスポート使用回数はのべ194回。年間パスポートを引換券へ変更したことにより、使用しない場合のコスト面での無駄もなくなり、参加者にも喜ばれている。

エ. その他

- **学童期検査参加率向上のための取組**

- 1) 追加調査の採血については、日頃知ることのない、参加児の血液検査の内容への親の期待度が高く、今年度参加児の100%から追加調査にも協力の同意を得ている。

	アンケートでの「採血に関する説明」においても、98%が満足との答えであった。 2) 昨年と同様に、参加した子どもが楽しめるような工夫や当日のスタッフの声掛け、配慮の必要な参加児には可能な限り臨床心理士が検査を実施するなど、検査時の細やかな対応により、検査参加者からは「スタンプラリーが楽しかった」「子どもがエコチル調査について知る良い機会になりました」など感想を頂いている。 昨年度に回収した検査後のアンケート（349 件回収）でも、参加した感想は「良かった」94.8%「良くなかった」0%と高い満足度を得ている。学童期検査に参加した参加者において、今後の調査や 12 歳学童期検査への参加モチベーションに繋がることを期待できる。 ● 詳細調査を継続していただくための取組 1) 9 月の日曜日 1 回、10 月の日曜日 2 回の開催を実施し平均 8.3 人の参加があり、参加率アップとして日曜日開催は効果があった。また参加児の親からは平日より参加しやすいとの声もあった。 2) 8 歳学童期検査会場の一角で開催することで、8 歳詳細調査に向け、両検査同日開催のイメージが持て、プランニングしやすくなった。
(A) 改善	<u>ア及びウ. 参加者へのモチベーション維持に関する取組</u> 対面式のコミュニケーションは、新型コロナウイルス感染拡大が今後も懸念される中、状況を把握しながら柔軟に対応できるよう、来年度もオンラインイベントなど新たな方法を検討する必要がある。コミュニケーションの効率化に狙いがあったインターネットの活用であるが、特に今年度の新型コロナウイルス感染対策下の状況において、リアルタイムで配信できたことは強みであった。今後も運用を積極的に続けるが、SNS 媒体の種類や周知に工夫や改善が必要である。 <u>イ. 質問票回収率を維持・向上するための取組</u> ● 小学 2 年生質問票回収率が他質問票と比べ低いこと、新型コロナウイルスの影響による学童期検査・詳細調査の中断、イベントの中止があったことを受け、小学生質問票の返送依頼を送付時に、参加者全員に粗品を同梱する予定。 ● 引き続き、アンケート結果・質問票の内容・回収率等を総合的に鑑み、効果

的にグッズプレゼントなどを決定する。

エ.その他

- **学童期検査参加率向上のための取組**

今年度より採血以外の検査項目を実施する日と、採血のみの日に分けて学童期検査を行う方法を検討中である。別日で設定することで、診療所以外での実施のハードルを大きく下げることが可能となり、検査自体にかかる手間も軽くなることから、検査数を増やす効果が期待できる。

- **詳細調査を継続していただくための取組**

次年度8歳詳細調査は、学童期検査と同日開催、同検査会場の可能性がある。検査に参加しやすく効率的な検査会場の動線について今後構築していく必要がある。

(P) 計画	<u>ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 今年は新型コロナウイルス感染症の影響により3月から検査中止、6月には産業医科大学病院でクラスター、7月には産業医科大学 SUC の有る北九州市で国内最初の第2波の流行拡大が起き、調査再開の見通しが立たなかった。よって7月には一旦すべての予約を白紙とした。調査再開時には、参加者に安心して対面調査に参加頂けること、限られた期間ではあるが参加意思のある方が一人でも多く参加できることを目標とし、準備を進めた。予約再開時は、詳細調査は対象者全員分、学童期検査は調査中止前に既に予約頂いていた方の検査枠の確保し、更に少しでも多くの方に参加いただける枠の確保を目指した。早い時期に予約していた方は調査中止となって再予約せざるを得ない状況となるため、予約日程によって参加者の不公平が生じないように、前回予約をしていた方、参加の意思を返信していた方、意思表示がなかった方の3段階に分けて案内を送付し、参加の意思がある方がより予約しやすい状況を整えた。検査日は、詳細調査では人数分を超える枠、学童期検査では指標とした前回予約者全員分に加え、土日の検査日数増や平日夕方の方の枠を新たに設定し、300枠を確保した。 スタッフ全員が参加して感染防止対策の研修会を数回に渡り行い、基礎的知識取得の講義を実施し、調査実施体制の大幅な見直しを行った。サブユニットセンター独自に作成し、参加者事前電話で必ず体調や持病の確認を行う方針とした。他に、手指消毒・物品消毒の徹底、外気を用いた部屋換気、マスクの着用、パーティションの設置、来場時の検温といった対策と、毎日本体温記録表によるスタッフ体調管理および家庭内感冒症状の有無確認、複数人の会食の制限等私生活にまで及ぶ対策を行った。対策の実施は、案内状で参加者にもお伝えした。
(D) 実施	<u>イ) 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組①</u> 質問票発送→返送依頼→謝礼発送の一連の流れから、発送時点から返送依頼をイメージした取り組みを行うため、複数チームで情報共有出来る体制づくりを行った。 ①質問票発送時に、手書きのメッセージ（例「大変な時期をお過ごしと思いますが、よろしくお願いいたします」）、および必須項目の記入例を該当ページに貼付した。 ②返送依頼チームは、電話での返送依頼を中止し、感染状況が一旦落ち着いてからハガキ送付のみを再開した。送付時は「届いていますか」といったプレッシャーを与えないような文言を用い、手書きでコロナ禍での参加者の苦勞に配慮した。さらに、回収率の推移を定期的に分析し、これまで毎回返送してくれていた方の返送が滞る状況が増えてきていることが判った。休校で子

どもが常に自宅にいる環境があること等が原因として考えられ、ハガキには手書きの応援メッセージを記入し、これまでの質問票返送状況を参加者毎に1枚のハガキにまとめ、参加者自身で自分がどの質問票が未返送か、確認できるような取り組みを行った。

- ③謝礼発送時には、お礼のメッセージカードを貼付し、返送依頼を経て返してくれた方や久しぶりに返してくれた方には個別にメッセージを追加し、よりきめ細やかな対応を行った。

ウ)コミュニケーション活動に対しての取組②

地域全体へ働きかけて参加者を応援する体制づくり、参加者の継続意欲向上および一般の方への認知度向上を目指した。

- ① 前年度に引き続き、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響下でも代表校長との連絡を密に行った。結果、八幡西区内の全新小学1年生及び保護者への就学前健診時お祝い鉛筆と調査紹介チラシの配布を継続出来た。また、令和2年2月には北九州市子ども家庭局を通じ学童保育クラブとの協力体制を新たに構築した。市内133校全ての小学校および学童保育クラブ、八幡地区の全産婦人科、北九州地区の全小児科へのポスター掲示も継続して実施出来た。
- ② 本年度は新たに、北九州市乳幼児健診登録医療機関研修会にてエコチル調査紹介の講演をさせていく機会を得た。「エコチル調査とは何か」から始まり、最近の論文結果の紹介を小児科医に行い、同時に調査参加者の母子手帳の特徴の説明をした。産業医大サブユニットセンター登録者は、エコチル調査参加時にオリジナル母子手帳カバーが配られており、現在も継続して使用している方が多い。北九州市医報11月号にはエコチル調査の意味、大切さを伝える投稿を行った。
- ① 北九州市環境局を通じ、市のイメージキャラクターである「ていたん・ブラックていたん」とのコラボレーションを新たに行った。具体的には、広報用オリジナルクリアファイル、インフォームドアセント用絵本等に、産業医大サブユニットセンターと市のキャラクターとを一緒に掲載し、参加者に市と協力体制にあることのPRに役立てた。
- ② 北九州市にゆかりのある著名人等にサポーターの登録を呼びかけ、令和2年度は北九州市観光大使である芋洗坂係長氏に新たに登録いただいた。サポーターになっていただいた方には、参加者への応援メッセージを頂き、サブユニットセンター発行のニューズレターやホームページで紹介を行った。

ウ)コミュニケーション活動に対しての取組③

参加児自身が自ら調査に協力する意思を持つことが重要と考えた。そのため、本年度インフォームドアセントに向けた取組として、子ども向けの絵本を制作している。調査の目的や意義の理解を目的とし、子ども自身が今後経験する学

	童期検査や子どもアンケートを内容に含め、サブユニットセンターオリジナルキャラクターが説明する形、また過去の北九州市の公害問題の歴史も織り交ぜ、環境の大切さがより身近に感じられる動画も製作中で、市との連携した取組をアピール予定である。
(C) 評価	<u>ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 全ての対面調査で、参加者は1部屋に一親子と調査者で調査が完了し、各部屋は外気を取り入れることが出来き、密にならない個室での新調査体制を構築した。学童期検査は11月時点で182名の予約を頂き、円滑な再開が行えた。参加者からは実施後アンケートで、感染対策が「きちんとしていた」、「手洗い、消毒もあって個室での説明で安心して参加できた」という回答が100%で、安心して調査を受けて頂けたことが確認できた。 <u>イ) 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組①</u> 本年度当初、回収率が落ち込んだ。取組を開始してから、中にはハガキ送付後13冊同時に返送頂いた方もおり、効果が伺えた。記入例については、サブユニットセンター調査参加者全員を対象に行ったWEBアンケート（回答数264名70.5%）が「分かりやすくて良い」と回答し、記入に役立っていることが確認できた。 <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組②</u> 参加者全員対象のWEBアンケートにおいて、エコチル参加者の親71.3%がポスターを「見たことがある」、子どもも18.2%が「見たことがある」と回答しており、調査が身近になってきていることが確認できた。北九州市乳幼児健診登録医療機関研修会では母子手帳の特徴を説明し、現在頑張っている子ども達へエールをお願いした。 <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組③</u> 絵本については、令和3年3月完成を予定しており、配布後の評価となる。同様に参加者へのアンケート等で保護者・子ども両方に広く意見を聞く機会を設けたいと考える。
(A) 改善	<u>ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組</u> 来年度は、平日枠の予約体制や感染状況をふまえ、より柔軟な感染防止対策を継続する予定である。詳細調査対象者も、来年度から就学するため休日実施が増えることが想定される。全体のバランスを見ながら、調査枠の設定や実施体制を検討したい。 <u>イ) 質問票回収率を維持・向上させるための取組</u> <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組①</u>

	来年度も質問票発送→返送依頼→謝礼発送の流れに着目しながら、連携した取組を継続する。メッセージについては、感染状況に合わせた内容とすると共に、次号ニュースレターより、参加者からのエコチル調査への質問などを募集する企画を立ち上げる。双方向からコミュニケーションを行うシステムとする。 <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組②</u> 今後も対面を避けた動画配信等、新たな広報活動も模索しており、北九州市とは、資料提供等の相談・協力をいただいている。 <u>ウ)コミュニケーション活動に対しての取組③</u> 絵本の完成は令和3年3月中を予定している。完成後、小学校での環境教育や社会科見学の時期をふまえ、上の学年から順次参加児に配布を行っていく。
--	---

(P) 計画 (D) 実施	ア) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ) 質問票回収率を維持・向上させるための取組 弊サブユニットセンターの質問票回収率は、以前は低迷しており、全国平均（2015 年 8 月〔3 歳、送付後 6 か月以上〕83.5%）と比べ非常に低い水準（78.3%で最下位）であった。この原因として、エコチル調査に対する参加者のモチベーションが低下しており、それが質問票回収率に反映されたと判断し、様々な取組を実施してきた。3 歳時健診にてエコチル調査ブースを設置（2015～2017 年）し、エコチル調査のアピールを直接行った。またハガキ・電話による返送依頼の抜本的な見直し、および質問票の再送付を開始した。このような取組の結果、2020 年 10 月現在、質問票回収率は向上し、全国平均（〔3 歳〕84.2%、〔8 歳〕76.5%）と弊サブユニットセンター（85.8%、77.0%）は同程度となった。 以下に現在の取組について示す。 1. 小学校新入生へのチラシ・グッズ配布 福岡市教育委員会および小学校校長会の協力により、調査対象地区の全 30 小学校の就学時健診の場でチラシとエコチルロゴ入り鉛筆を、調査への参加に関わらず配布して頂いた。これは参加者に限らず、エコチル調査の地域での認知度向上に寄与し、ひいては質問票回収率の上昇に繋がると考えて企画したものである。この取組は 2017 年に開始し今年度が 4 年目で、これまではその調整のため教育委員会・校長会に直接訪問して説明をしていた。しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から訪問を控え、これまでの信頼関係により電話やメールでのやり取りのみで協力を得ることができた。 2. ハガキ・電話による質問票返却依頼、質問票の再送付 様々な試行錯誤の結果、現在、質問票発送から 1 ヶ月後にハガキを送付、それでも返却がない場合はその 1 ヶ月後に電話（計 2 回まで）をしている。発送日から 4 ヶ月後に返却がない場合には、長期間未返却の参加者を除き質問票を再送付している。 3. 学年毎の質問票の送付時の工夫 学年毎の質問票については、全国平均（2019 年 10 月〔小学 1 年〕78.5%）に比べ、弊サブユニットセンターは低迷（73.1%）していた。年齢毎の質問票と時期が重なる参加者がいることから返却依頼を控えたことが原因と考えられ、年齢毎の質問票と同様の返送依頼を実施することとした。またユニットセンター実務担当者 Web 会議で紹介された大阪ユニットセンターなどの取組を採用し、「ご記入いただくページが少ない質問票です」の旨を質問票の封筒に明示するようにした。
--------------------------	---

	エ) その他（新型コロナウイルス感染症に対する取組） 新型コロナウイルス感染拡大に伴い中断していた対面調査は7月から全国で再開可能となったが、福岡市では感染の収束が遅れたため、8月17日からの再開を決定した。 1. 新型コロナウイルス感染症下での対面調査の個別化 今年度当初の予定では、対面調査は集団検診方式で、1日あたりの最大の人数は、医学的検査が11名、学童期検査は50人を計画していた。しかし感染対策のため、参加者同士が接触することがないように検査間隔を空け、換気・消毒の時間も確保した結果、1日あたりの検査数が、医学的検査が4人まで、学童期検査が8人までとなった。また検査当日は派遣を予定していたが、外部からの大学への入構が制限されたことから、サブユニットセンター内の人員で全てを実施することとした。 2. 対面調査の予約枠の追加 当初、夏休みを最大に活用した予約枠を考えていた。しかし8月中旬からの再開で、また冬季の再流行も予測されたため、とりあえず10月末までの予約枠を作成し公開した。市内限定の対象者数（1062人）に比して非常に限られた予約枠（104枠）であったため、すぐに予約が全て埋まってしまい、参加者から予約枠がないことについて多くの問い合わせを、一部は不満の声を頂いた。そのような状況で、大学内クラスター発生のため入構が制限され8月の検査を全て中止した。さらに台風10号も重なり調査再開は結果的に9月12日となった。この期間に予約した参加者から、代替の検査日の要望もあったが、予約が全て埋まっており確約できなかった。9月末に感染がある程度収束したことから、感染拡大時は検査を中止するという条件付きながら、11月～2021年3月までの予約枠（245枠）を追加で設定した。 3. 参加者への感染対策の「見える化」 案内文書に、対面調査が完全個別検診であること、手指消毒、マスク・フェイスシールド着用、部屋の消毒・換気の徹底について、イラスト入りでわかりやすく説明した。また参加者が来訪した時に、窓を開放し十分な換気できていること、『消毒済』を部屋に掲示すること、アルコール消毒を参加者の目の前で行うことなど、参加者に感染対策が見える形で示すように意識した。
(C) 評価	ア) 参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ) 質問票回収率を維持・向上させるための取組 1. 小学校新入生へのチラシ・グッズ配布 2. ハガキ・電話による質問票返却依頼、質問票の再送付 質問票回収率の向上に寄与したこれらの取組は、昨年度から変えておらず、質問票回収率は昨年度とほぼ同程度を維持している。それぞれの効果を切り分

	けて評価することは困難であり、今年度の質問票の返却依頼別の回収率への効果について示す。 質問票送付から 1 ヶ月後：45.7%（この後にハガキ） 2 ヶ月後：74.1%（この後に電話） 3 ヶ月後：78.0%（この後に再送付） 12 ヶ月後：79.1% どの方法も一定の効果がありそうなことを再確認した。 3. 学年毎の質問票の送付時の工夫 学年毎の質問票については、全国平均（2020 年 10 月[小学 1 年]79.0%、[小学 2 年]76.4%）と弊サブユニットセンター（78.9%、75.4%）はおおむね同じ水準となっていた。結果的に取組が有効であったと判断した。 エ）その他（新型コロナウイルス感染症に対する取組） これまでのところ対面調査自体は特に問題なく実施（11/11 時点で 67 人）できているが、1 日あたりの検査人数を制限したため、休日の検査日が多くなり（医学的・学童期合わせて月に最大 7 回）、医師・看護師、リサーチコーディネーターの負担が増加している。対面調査の予約枠を追加した後は、予約についての問い合わせはなくなり、特に問題なく予約（11/11 時点で 105 人）ができている。また検査で来訪した参加者からは、「感染対策がしっかりされていて安心だ」とのお声がけを多く頂いている。
（A）改善	ア）参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 イ）質問票回収率を維持・向上させるための取組 1. 小学校新入生へのチラシ・グッズ配布 2. ハガキ・電話による質問票返却依頼、質問票の再送付 来年度は全ての参加者が小学校に入学しているため、就学時健診でのエコチル調査のアピールは今年度で終了である。今後、これまでお願いしてきた教育委員会に、新しいアピールの機会について相談する予定である。現時点では、参加者への返送依頼方法については変更する予定はないが、10 歳では子ども質問票も開始されるため、ニューズレターなど広報活動について、子ども本人も意識した内容にする予定である。 3. 学年毎の質問票の送付時の工夫 回収率の上昇を認めたため今年度の取組は継続するが、今後も他のユニットセンターの事例を取り入れると同時に、弊サブユニットセンター内でアイデアを募り、独自の方法も考案する。 エ）その他（新型コロナウイルス感染症に対する取組） 土日の検査について、対面調査を担当する人員に負担が集中しないように、

	質問票担当・事務担当であった人員も、対面調査に関わるように育成中である。また1日あたりの検査数を最大16人までに増加させて検査日を減らすため、新しい部屋を確保するべく大学に申請している。このようにすることで、参加者への感染対策レベルを落とすことなく効率的な検査体制の構築を目指している。引き続き感染対策は継続するが、長期間に渡ると気の緩みが生じかねないため、地域の感染状況の把握とそれに応じた対策レベルを日々確認し、研修という形で定期的に再確認し、参加者にその姿勢が伝わるように努めていく。
--	--

【熊本大学サブユニットセンター】

(P) 計画	災害発生時の被災状況を踏まえたコミュニケーション活動等に関する取組と、災害後の学童期検査再開に向けての取り組みについて 令和2年7月豪雨災害について 2020年7月4日（土）未明から昼ごろにかけて、熊本大学サブユニットセンター（以下、熊本 SUC）の調査対象地域において豪雨による甚大な被害が発生した。熊本 SUC としてこの災害へ迅速に対応するために次に示す計画に基づき対応を行った。 ①人吉事務所スタッフと天草事務所スタッフおよびその家族の安否確認と自宅の被害状況の確認 ②人吉事務所、天草事務所の被害状況の確認 ③調査対象地域の被害状況の確認 ④調査参加者の安否確認 ⑤すべての調査を継続できるか判断するための情報収集 ⑥調査を一時期中止した場合、再開時期の評価方法の検討 ⑦新型コロナウイルスや豪雨災害の影響を鑑み、学童期検査を再開する場合の目標参加率の見直し（70%から 40%に変更）
(D) 実施	①各事務所スタッフ 4 名には、豪雨災害発生当日に電話及びメール等で連絡を取り、本人及び家族の安否について聞き取りを行い無事を確認した。また、自宅の被害状況については 1 名の自宅で雨漏りの被害があったものの、浸水等の大きな被害はないことを確認した。 ②人吉事務所前の道路では約 1 m 近く水位が上昇していたが、建物が道路より 5 m 近く離れていたことに加え、やや高い位置に建っていたことが幸いし、1 階の玄関や執務室内および物置で床上まで浸水していたものの、検査使用機材や物品に大きな被害はなかった。また、階段付近の天井で雨漏りを確認したが、階段が濡れる程度であり、学童期検査会場として使用するホールや、執務室内のデータ管理システム端末および事務用端末には被害がないことを確認した。そのため、事務所内での業務や学童期検査の実施については問題ないと判断した。 一方で、天草事務所は建物自体の経年劣化が進んでいたことと、横なぐりの大雨であったことにより降り込みが激しく、天井から滝のような雨漏りが発生していることを確認した。 翌日以降、管理する不動産会社などに連絡を試みたものの残念ながら納得のいく対応が得られなかった。そのため今後業務を遂行しながら学童期検査を行う会場として継続使用することは不可能であると判断し、7 月中旬には早急に事務所移転の方向で検討に入った。まずはコアセンターと熊本大学に相談し、許可を得た上で移転先の具体的な物件検討

	を行い、9/1 付の移転を目標に契約作業を進め、セキュリティ関係も 9/1 に間に合うよう調整を行った。幸いすべてが整ったため 9/1 には移転が完了し、9/11～12 には天草地域における第 1 回目の学童期検査を実施することができた。 ③調査対象地域の被害状況については、まず各地のライフラインの状況について確認を行った。人吉・球磨地域の一部地域では、長期間にわたって停電が続いたケースもあったが、人吉事務所では災害発生後 3 日目には電気やネットワーク環境も復旧したため業務が可能となった。天草地域においては、ライフラインはすぐに復旧した。今回の豪雨災害では、人吉・球磨地域における被害が最も大きく、地域の主要局である人吉郵便局も浸水被害などにより再開の目途が立たなかったため、調査対象者への郵送物をいったんすべて止めることとした。 宅急便についても同様であったため、しばらく利用を控えることとした。その後は、常に調査対象地域の復興状況を確認しながら連日スタッフ会議を重ね、調査再開時期や今後の運営について検討を行った。その後、8/13 には人吉郵便局が再開することを確認できたため、すべての質問票調査を再開することとした。 ④豪雨災害発生 の 5 日後 (7/9) よりエコチル調査参加者に対する安否確認をショートメールにて行った。文面は「熊本県南地域の豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。今般の災害でエコチル調査の皆様に被害がありではなかったかと非常に案じております。被害僅少を願うばかりですが安否をご確認したくご連絡しております。今後エコチル調査として皆様へ出来る限りのお力添えをさせて頂くつもりでおりますので、ご返信可能な状況の場合のみ、現状（自宅にいる、避難所にいる、など）をお教えいただければ幸いです。くれぐれもご無理をなさいませんようご自愛くださいませ。」という文言に統一した。SMS 送信対象者は、報道などで特に甚大な被害が発生していると想定される地域を選択し、1,564 件に送信することとした。これに対する返信件数は 515 件で返信率は 33%であった。そのうち、人・家屋等の被害について、あり：47 件、なし：376 件、不明：92 件であった。避難については、あり：52 件、なし：330 件、不明（返信の文面からは判断ができない）：133 件となっており、避難について「あり」と回答した件数の内訳は、避難所：6 件、避難所以外（親族・知人宅、借家など）：42 件、避難所か避難所以外なのかが不明：4 件という結果であった。また、山間部などの集落で孤立している参加者には定期的に連絡を行った。ライフラインが寸断され新聞なども届かないため、情報収集が出来ず不安であるとのことであったため、熊本日新聞社が無料開放している紙面ビューアーの閲覧をご案内したところ、毎日情報が分かるようになり大変助かったとお返事をいただいた。 ⑤～⑥ 豪雨災害の影響により学童期検査などの予約キャンセルが相当数発生するのではないかと考えられたが、予想に反して災害発生翌日からすぐに学童期
--	--

	検査の参加申し込みが各地域から FAX やメールで届いていた。また、豪雨災害前から学童期検査への参加を希望していた方もいたため、7月末より参加希望者に1件1件電話をかけて被災状況や参加可能な状況かを確認したところ、約100名中70名程度が参加を希望したため、8/21～23に人吉事務所で計画されていた学童期検査については地域の新型コロナウイルス感染拡大状況も確認した上で調査を再開することとした。詳細調査については、医学的検査の実施会場の一つである人吉医療センター自体が大きな被害を受けたことと、地域の産婦人科系医療機関すべてが被災したため出産受入れが人吉医療センターへ集中したことから、人吉医療センター小児科からエコチル調査の対応ができないと申し出があった。そのため、もう一箇所の実施会場である球磨郡公立多良木病院に事情を説明し、調査回数を増やして対応していただくこととなった。 ⑦学童期検査を再開するにあたり、二つの地域で当初予定していた会場からの変更を余儀なくされたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも集団方式から個別方式へ切り替えたため、部屋の広さや部屋数を確保する必要があった。水俣地域のみ利用できる公共施設が見つからず、宿泊施設の広間を貸し切って会場にすることとした。急きょ会場を変更したため専用のパーティションなどの手配が間に合わず、十分な感染防止対策を講じられるような会場設営が出来るのか懸念されたが、施設側が無料で貸与してくれた金屏風を使用することで個室を作成するなど工夫することができた。天草地域の会場は、事務所移転と同時に学童期検査会場としてもすぐ使用できるように物品を配置し、ごくわずかな準備期間であったにもかかわらず滞りなく無事に調査を再開することができた。また、感染拡大に対する参加者の不安を払拭するための取り組みとして、参加者全員に対して検査案内の郵送時に感染症対策についての具体的な取り組みを記載した説明文書を同封した。しかしながら、1回目の案内では30%程度の応諾率にとどまったため、参加者ひとり一人にお見舞いと被災状況把握の意味も含めて電話でのリマインドを行った。感染防止対策をしっかりと行っていることなどを丁寧に説明した結果、再開時の目標として掲げていた40%を大きく上回る51%という応諾率を達成することができた。なお、実際に調査に参加した方のアンケートで最も多かったご意見は、「感染防止対策がしっかりとされており、安心して参加することができた」であった。また、参加者の中には「子どものお友達やその母親に学童期検査の様子を確認したところ『感染防止対策がしっかりしていたから大丈夫だよ』と聞いたので、安心して参加を希望しました」と直接お話下さった方もおり、参加者の不安を払拭し、安心して来場していただくための様々な取り組みが功を奏したのではないかと考えている。
--	--

(C) 評価	今年度の熊本 SUC では、新型コロナウイルス感染症の拡大に加えて令和 2 年 7 月豪雨災害に見舞われるなど、調査の運営に大きな不安を感じた時期が長かったが、調査の遂行に向けて気持ちを切り替え、スタッフや参加者の安全を確保しながらいかに業務を行っていくのか、また、調査を再開していくのかを十分に検討したうえで UC を運営していくことができた。特に天草事務所の移転については、学童期検査を再開したいという強い気持ちも相まって、豪雨災害直後から速やかに移転に向けて準備を行うことができたため、9 月移転、9 月再開が実現したことは非常に良い結果に結びついた。また、事務所移転後すぐ、九州地方に「大型で非常に強い過去最強クラス」の台風襲来があったが、移転前事務所ではドアや窓の破損など大きな被害が生じていたことを多くの学童期検査参加者の方から聞くことができた。その際、「今後エコチル調査天草事務所がどうなるのか、かなり心配しました」との声も聞くことができ、参加者ひとり一人に支えられていることを改めて実感したと同時に、スタッフや参加者が安心して安全に業務を遂行し、調査に参加できる場所でなければならないことを痛感した。学童期検査の再開においても、目標としていた 40% を大幅に超えて 51% という伸び率を示したことは、感染防止対策を徹底し、参加していただいた方に満足していただけるような場の提供を行ったこと、また、リマインド時の電話で、調査の内容や感染防止対策について丁寧な説明を行ったスタッフの熱意と努力の賜物であると高く評価したい。
(A) 改善	今回の新型コロナウイルス感染症や令和 2 年 7 月豪雨災害において、エコチル事務局内や熊本大学内の安否確認メール配信については準備が整っていたが、災害後の細かな取り決めなどのマニュアルについては整備が進んでいなかった。そのため今回の経験を活かし『エコチル調査 災害マニュアル』を作成することとした。現在（案）が完成したところであるが、大学の災害マニュアルなどと比較しながら、より実態に即したマニュアルを作成し、個人情報管理と同じようにスタッフ全員に周知させ、定期的に研修会を行っていくこととした。

(P) 計画 (D) 実施	(ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 1) <u>COVID-19 影響下におけるイベントの計画・実施</u> 調査参加意欲の向上のための、コロナ禍でも実施できるイベントを計画している。現在、英会話教室他、複数案を計画中である。 2) <u>子どもに関心を持ってもらうための広報誌の試み</u> 参加者（子ども）にもエコチル調査への関心と親しみをってもらうことを目的とし、広報誌「のべちル News」に、子ども向けとして、絵探しゲームや塗り絵のコーナーを設けた。塗り絵は郵送またはメールにて返送してもらい、広報誌等に掲載する予定である。 3) <u>イベント参加者の募集のしかたの再検討</u> イベント参加者の固定化が問題である。公平な機会提供の観点から、年齢や誕生日でグループに区分し、順次グループ毎に招待する形式とした。定員に至らない場合には、次のグループに案内し、常に定員を満たすよう努めている。 (イ)質問票回収率を維持・向上させるための取組 1) <u>未返送が多い参加者からの返送を促すための試み</u> 記念品（謝礼とは別）を質問票とともに送付し、質問票回収率の向上を図っている。 2) <u>協力保留中の参加者への意思確認</u> 体調や家庭の事情等で一時的に調査協力を保留（お休み）している参加者に対し、再開の可否を確認する文書を定期的に送付している。 (ウ)コミュニケーション活動に対しての取組 対面での調査がなく連年通りの活動はできないことから、Web イベント時にアンケート調査を行なっている。 (エ)アウトリーチ、その他 1) <u>COVID-19 影響下における安全性の検討と対面調査再開の試み</u> 再開にあたって、運営協議会で対応を検討し、県立延岡病院および延岡市役所と調整し、対面調査（医学的検査・学童期検査）実施のためのガイドラインを策定した。ガイドラインに従い、スタッフおよび参加者（子ども・保護者）の体調管理基準および記録用のシートを作成し、調査2週間前から当日までの体調確認を実施している。また、県外移動、県外者との接触履歴も確認している。 2) <u>質問票データ内容の正確さの維持</u> 返送された質問票のすべての項目をダブルチェックしている。記入漏れ、ダブルマーク、不自然な数値（身長・体重の減少、日付の逆行など）等、不備・不明な点は適宜書面にて問い合わせしている。
--------------------------	---

	3) <u>記入漏れ防止の試み</u> 返送用封筒裏面にチェック項目のリストを貼付し、参加者自身によって記入漏れ・同封漏れがないかチェックできるようにしている。 4) <u>スタッフ研修の実施</u> COVID-19 やこれまでの詳細調査で対応に躊躇した事例を踏まえ、専門職スタッフにより以下の研修を実施した。なお、遠隔地オフィスの延岡地区担当スタッフも ZOOM を通じて受講した。 ・「感染予防対策研修 正しい知識と方法で相手も自分も守ろう」 内容：感染症の基礎知識の講義、嘔吐物処理や防護具の着脱の実習 ・「配慮を要するお子さんへの対応」 内容：発達障害の基礎知識の講義、検査時に必要な配慮の例の提案
(C) 評価	(ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 1) <u>COVID-19 影響下における WEB イベントの計画・実施</u> WEB での英会話教室イベントを実施した。参加者には好評であった。参加者からは、「延岡市中心地から離れていることから、これまでイベントに参加できなかったが、WEB 開催により、居住地を問わず参加できるのが良い」との意見が寄せられた。イベント参加機会の公平化・調査参加意欲の向上に寄与するものと評価している。 2) <u>子どもに関心を持ってもらうための広報誌の試み</u> 塗り絵の返送方法に郵送を加えたことで、28 通の返送があり、大幅に関心を高めることができたと評価している。 3) <u>イベント参加者の募集のしかたの再検討</u> 参加者のイベント参加機会の公平化に寄与したと評価している。 (イ)質問票回収率を維持・向上させるための取組 1) <u>未返送が多い参加者からの返送を促すための試み</u> 質問票に記念品を同梱する取組を行なった結果、長い間質問票の返送がなかった参加者から質問票が返送された事例が数例あった。返送が滞っている参加者への対応策として有効と評価している。 2) <u>協力保留中の参加者への意思確認</u> 再開の意思確認を定期的に行うことで、着実に再開者を確保できている。今年度は参加者 4 人の再開確約が得られた。 (ウ)コミュニケーション活動に対しての取組 (エ)アウトリーチ、その他 1) <u>COVID-19 影響下における安全性の検討と対面調査再開の試み</u> 3 月～9 月に休止していた対面調査は 10 月 31 日から再開している。厳格な再開基準を設定したことで、予想より多くの参加があり、参加者の信頼を得ていると考えている。

	2) <u>質問票データ内容の正確さの維持</u> 全項目を複数のスタッフによりダブルチェックすることで、新規雇用スタッフの作業未習熟によるミスや、習熟したスタッフが起こすミスに対して対応することが可能になった。調査資料の正確性担保のためには、この確認作業は有用であったと考えている。 3) <u>記入漏れ防止の試み</u> 貼付したチェックリスト使用により、質問票の記入漏れ・同封漏れが少なくなった印象がある。今後検証する予定であるが、記入日の漏れは確実に減少している。有効な方法と評価している。 4) <u>スタッフ研修の実施</u> 全てのスタッフが医療に精通しているわけではないことから、スタッフ研修により公衆衛生管理・精神保健について基礎的な知識と手技を理解させることができた。対面調査再開にあたり、この研修により、調査はより安全に行えるようになったと考えている。今後も適宜、同様の研修を行い、事故予防に努めることが重要であると考えている。
(A) 改善	(ア)参加者等へのモチベーションの維持に対する取組 1) <u>COVID-19 影響下における WEB イベントの計画・実施</u> WEB イベントの実施は初めてであるが、予想以上に好評であり、また対面で行うより安全も確保できることから、今後も計画・実施する予定である。対面と比較して、参加者数が制限される欠点があるが、開催場所を確保する必要がないことから費用面でもメリットがあり、有効な方法と考えている。 2) <u>子どもに関心を持ってもらうための広報誌の試み</u> 参加者である子どもだけでなく、その弟・妹による作品の応募もあり、子ども向けのページが一定の役割を果たしていると考え。今後も参加者のモチベーション向上のため、年齢に合わせた企画を検討する。 3) <u>イベント参加者の募集のしかたの再検討</u> 参加機会の公平性を考慮すると、適切は方法と考えている。集計中のアンケート等を踏まえ、今後、検証および改善を進める。 (イ)質問票回収率を維持・向上させるための取組 1) <u>未返送が多い参加者からの返送を促すための試み</u> 徐々に返送が滞っている参加者が増加している状況を鑑み、他のユニットセンターの取組等を参考としながら、今後も新たな方法を模索し、実施していく予定である。 2) <u>協力保留中の参加者への意思確認</u> 定期的に連絡し確認することで、質問票のやり取りが再開した参加者がいることから、参加者へのネガティブな印象を与えないよう、連絡確認の間隔や、文面等について、引き続き検討していく。

	(ウ)コミュニケーション活動に対しての取組 (エ)アウトリーチ、その他 1) <u>COVID-19 影響下における安全性の検討と対面調査再開の試み</u> 2020 年度はコロナ禍の状況を考慮し、感染予防を最優先とし、調査を実施している。2021 年の状況は予測がつかないが、延岡市内・宮崎県内および国内の感染状況やワクチン等の社会情勢を熟慮しながら、安全な調査を目指し、協議会と連携し、より適切な基準を設定し、調査を実施していく予定である。 2) <u>質問票データ内容の正確さの維持</u> 全項目ダブルチェックによって問題となる箇所が明確になってきたので、サブユニットセンター内で情報を共有し、正確な調査遂行に努める。加えて記入漏れ防止のためのチェックリストに活用できないか検討する。 3) <u>記入漏れ防止の試み</u> チェックリストに一定の効果が確認できたが、チェックリストを見ていないと思われる返送もあることから、上記項目を含め、活用されやすいチェックリストを検討する。 4) <u>スタッフ研修の実施</u> 今後も調査に必要な基礎知識をスタッフ全員で共有できるよう、随時研修を行う。特に安全確保のための研修を優先し実施する。 <u>総括</u> これらの個々の取組が状況を大幅に改善したわけではないが、数件・数例の地道な積み重ねによって、全体として高い水準の回収率・正確性・安全性に寄与していると考ええる。今後もこの地道な検証・改善の継続によって、事業全体に貢献する所存である。
--	--

(P) 計画 (D) 実施	質問票回収率の維持状況は改善傾向であるものの、全国平均と比べ低迷している質問票もあることから、以下のような施策を実施した。(令和2年10月末時点) 【質問票回収率を維持・向上させるための取組】 1. 令和元年11月までの質問票返送依頼方法 ① 質問票郵送から3週間後にショートメール送信 ② ①から3週間後にショートメール送信 ③ ②から3週間後にハガキ送付 ④ ③から2週間後に連絡(同日2回まで電話、3回目はショートメール送信) ⑤ ④の2週間後に再連絡(④と同様の方法) 1-1. 7歳以降の誕生日毎質問票の返送依頼方法 ハガキによる返送依頼での返送率向上を目指し、7歳質問票調査以後、型抜きハガキを使用した返送依頼方法に変更した。参加者の興味を引き注目してもらいやすくするために、オリジナル型抜きハガキ(図1)を作成し送付している。  図1 オリジナル型抜きハガキ 1-2. 質問票再送および独自の返送依頼文書(図2)封入 メール、電話、ハガキ等による返送依頼を行った後も質問票の返送がない参加者に対し、該当する質問票を再送する取組を行っている。再送することで質問票回答へのリマインドとなり、謝礼や粗品を明示することで質問票返送へのモチベーションが維持できるよう工夫している。  図2 独自の返送依頼文書 2. 就学時健診エコチル調査ブース出展 調査地域である宮古島市の就学時健診日にエコチル調査ブースを出展し、質問票返送の有無や乳歯調査協力ハガキ未返送者に対し、返送依頼を行う予定であった。しかし、新型コロナウイルス感染症流行に伴いブース出展は中止とした。 【参加者等のモチベーション維持のための取組】 1. 小学1年質問票案内の郵送(オリジナルグッズ同封) 例年、小学1年質問票がコアセンターより発送され参加者に届いた頃に、質問票案内通知とオリジナル文具セットを封入し送付していた。令和2年度より全ての質問票発送業務を当サブユニットセンターで実施している。そのため、令和2年度は質問票発送20日前に事前案内通知とオリジナルグッズを発送した。入学を契機として新たな気持ちで調査に協力して頂けるよう工夫した。
--------------------------	---

	【コミュニケーション活動としての取組】 1. エコチル調査参加者向けイベントの実施 調査に対するモチベーション維持と参加者同士およびスタッフとのコミュニケーションを図ることを目的に「英語リトミック」を計画したが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。その代替として、参加者がスマートフォン等で簡単に投稿できるようなオンラインイベント「あなたの『今、ハマっているもの』を教えてください」を含むイベントに対する Web アンケートを実施した。また、「あなたの『今年のクリスマス』を送ってください！（仮）」を計画した。 2. 市民参加型イベントの実施 一般市民へのエコチル調査の紹介と調査協力者・エコチル調査スタッフのコミュニケーションを図ることを目的に「第5回 エコチル調査まいふかこどもまつり」を計画した。しかし、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とした。 【アウトリーチ活動、その他】 1. 『新型コロナウイルスから子どもの心を守る。WHO から世界中の保護者たちへ。』の配布 令和2年4月、全国で緊急事態宣言が発出され、小学校等も休校を余儀なくされていた。サブユニットセンター休業の目安等を記載した文書とともに『新型コロナウイルスから子どもの心を守る。WHO から世界中の保護者たちへ。』を冊子に印刷し、参加者へ送付した。急激な生活様式の変化に対する参加者（特に子ども）の心理的ストレスに配慮した。								
(C) 評価	【質問票回収率を維持・向上させるための取組】 表1 5歳～9歳および小学1年～3年質問票返送率（令和2年10月末時点） <table><tr><td></td><td>全体</td><td>返送期限内</td><td>返送期限外</td></tr><tr><td>返送率</td><td>70.1 %</td><td>21.2 %</td><td>48.9 %</td></tr></table> ※令和2年度の小学2年質問票は発送していないため集計していない。 1. 質問票の返送依頼方法と返送率 ① 質問票郵送から3週間後にショートメール送信：28.4 % ② ①から3週間後にショートメール送信：14.4 % ③ ②から3週間後にハガキ送付：5.2 % ④ ③から2週間後に連絡（同日2回まで電話、3回目はショートメール送信）：9.0 % ⑤ ④の2週間後に再連絡（④と同様の方法）：12.6 % ⑥ 質問票郵送から4か月頃経過後に、該当する質問票と独自の返送依頼文書を同封し再送を行う：15.8 %		全体	返送期限内	返送期限外	返送率	70.1 %	21.2 %	48.9 %
	全体	返送期限内	返送期限外						
返送率	70.1 %	21.2 %	48.9 %						

	<u>1-1. 7歳以降の誕生日毎質問票の返送依頼方法</u> 上記返送依頼方法ごと返送率において、ハガキ送付による返送率は他の返送依頼方法と比較し低い傾向にある。ハガキの種類ごと返送率は官製ハガキ 9.7%、オリジナル型抜きハガキ返送率 6.3%であった。ハガキでの返送依頼は、電話連絡を行う前のリマインダー機能や、電話で連絡を取りづらい参加者に対する連絡手段として役割はある。しかし、オリジナル型抜きハガキによる返送率向上効果は少ないと評価する。 <u>1-2. 質問票再送および独自の返送依頼文書（図2）封入</u> 上述1. 質問票の返送依頼方法と返送率によると、質問票再送および独自の返送依頼文書の発送は返送率向上に一定の効果があると評価している。 <u>2. 就学時健診エコチル調査ブース出展</u> 昨年度までの実績をふまえると、質問票返送率に改善がみられたと評価している。 【参加者等のモチベーション維持のための取組】 <u>1. 小学1年質問票案内の郵送（オリジナルグッズ同封）</u> 昨年度までに送付した小学1年質問票の返送率（令和2年10月末時点）は 75.3%（返送期限内 30.3%、返送期限外 45.0%）であった。5歳～8歳質問票返送率の平均と比較し、督促せずに返送された群の返送率が 22.9%増加し、早期の返送行動がみられている。 【コミュニケーション活動に関連した取組】 <u>1. エコチル調査参加者向けイベントの実施</u> 令和2年度は新しい生活様式として初めてのオンラインイベントを実施したものの、評価困難である。 <u>2. 市民参加型イベントの実施</u> 令和2年度は実施できていないため評価困難である。
(A) 改善	【質問票回収率を維持・向上させるための取組】 <u>1. 質問票の返送依頼方法</u> <u>1-1. 7歳以降の誕生日毎質問票の返送依頼方法</u> 今後、ハガキ送付による返送依頼は官製ハガキで統一する。 <u>2. 就学時健診エコチル調査ブース出展</u> 来年度はエコチル調査参加者（子ども）全員が小学生であるため、就学時健診へのブース出展は終了とする。

	【参加者等のモチベーション維持のための取組】 今後もアンケート調査などを通して参加者のモチベーション維持のための取組を定量的に評価する予定である。また、今後の調査のタイミングや学童期検査の内容・予定などについてより詳しい情報を記載する、あるいは日頃質問の多い事項を広報誌に掲載するなど実施し、参加者のモチベーション維持に向けて工夫を行う。 【コミュニケーション活動に対しての取組】 1. エコチル調査参加者向けイベントの実施 オンラインイベントの利点を活用し、セミナーや少人数レクチャーなどを行い、環境や科学に関する内容も導入を計画する。 2. 市民参加型イベントの実施 オンライン配信型イベントを計画し、エコチル調査を広く理解していただけるよう計画する。 【アウトリーチ活動、その他】 新型コロナウイルス感染症に対する知見や世論の動き等を随時確認し、広報誌等で参加者への情報提供を行う。
--	--